

## 第2章 結果の概要

- ・結果の概要における「高かった」「低かった」「増加した」「減少した」など、集計結果の評価に関するコメントは、統計学的な検定に基づき記述した。グラフ内の「\*」「\*\*」「\*\*\*」の記号は、有意水準5%、1%、0.1%を示し、\*の多い方がより高く有意である。
- ・解析対象者数については（ ）内で併記した。

## 調査結果要約

### 1 栄養・食生活に関する状況

#### (1) 栄養素等摂取状況 (pp. 21-25)

- ・摂取エネルギー量の平均値は、1,880kcalであった。平成21～23年調査で1,848kcal、平成25～27年調査では1,821kcalであり、平成21年からの年次推移では有意な増減はなかった。(図1)
- ・栄養素等については、平成21年からの年次推移では、脂質、飽和脂肪酸は増加、食塩は男性及び総数で減少、脂肪エネルギー比率は増加、穀類エネルギー比率は女性及び総数で減少していた。(図2～6)
- ・日本人の食事摂取基準(2015年版)との比較では、食物繊維の目標量、カルシウムの推奨量に対しては男女共に少なく、鉄の推奨量に対しては女性で少なかった。一方、食塩摂取量については、男女共各年代で目標量を超えていた。(図7～11)

#### (2) 食品群別摂取状況 (pp. 26-31)

- ・食品群別摂取量の平均値は、動物性食品344.8g、植物性食品1,620.0gであった。
- ・食品群別摂取量の平成21年からの年次推移では、その他の野菜及び肉類は有意に増加し、穀類、緑黄色野菜、果実類及び魚介類は有意に減少していた。(図12～17)

#### (3) 食塩摂取量の状況 (pp. 32-33)

- ・食塩摂取量の平均値は、男性10.8g、女性9.2gであり、年齢階級別では、男性では60歳代、女性では60歳以上で最も多く、それぞれ11.4g、9.7gであった。(図25)
- ・食塩摂取量について、平成21年からの年次推移では、総数及び男性において有意に減少していた。(図26)
- ・食塩摂取量が8g未満の者の割合(かながわ健康プラン21(第2次)の目標(以下目標)増加56%)は、男性23.3%、女性40.0%であり、年齢階級別では、男性では50歳代で最も高く、34.8%、女性では20歳代で最も高く、57.8%であった。一方、最も低いのは男女とも60歳代で、それぞれ16.7%、30.9%であった。(図27)
- ・食塩摂取量8g未満の者の割合について、平成21年からの年次推移では、総数及び女性において有意に増加していた。(図28)

食塩摂取量の平均値は減少傾向にありますが、**60歳代男性の約8割、60歳代女性の約7割が、1日に8g以上の食塩を摂取**しています。

#### (4) 野菜摂取量の状況 (pp. 34-35)

- ・野菜摂取量の平均値は、男性291.9g、女性274.8gであった。(図29)
- ・野菜摂取量350g以上の者の割合(目標増加45%)は、男性32.4%、女性28.1%であり、年齢階級別では、男女共に40歳代が最も低く、男性19.5%、女性19.1%であった。(図30)
- ・平成21年からの野菜摂取量350g以上の者の割合の年次推移では、総数(と70歳代)で有意に増加していた。(図32)

ビタミン・ミネラル・食物繊維が豊富で、生活習慣病対策に有効な野菜。摂取量は増加傾向にある中、350g以上食べているのは働き盛りの**40歳代**で、**約5人に1人と最も少なくなっています。**

#### (5) 果物摂取量の状況（ジャムを除く）(pp. 36-37)

- ・果実類摂取量の平均値は、男性 90.4g、女性 113.5g であった。(図 33)
- ・果実類摂取量 100g 未満の者の割合（目標 減少 30%）は男性 62.2%、女性 52.6%であった。(図 34)
- ・果実類の平均摂取量 100g 未満の者の割合は、平成 21～23 年調査と比較すると、50 歳代及び 60 歳代で有意に増加し、総数及び 70 歳代で有意に減少していた。(図 35)
- ・果実類の平均摂取量が 100g 未満の者の割合は、平成 21 年からの年次推移においても、50 歳代及び 60 歳代で有意に増加していた。(図 36)

#### (6) 朝食の欠食に関する状況 (p. 38)

- ・朝食の欠食率※は、男性 15.5%、女性 12.8%であった。  
※ 調査を実施した日(任意の 1 日)において朝食を欠食した者の割合。「欠食」とは、「食事をしなかった場合」「錠剤などによる栄養素の補給、栄養ドリンクのみの場合」「菓子、果物、乳製品、嗜好飲料などの食品のみを食べた場合」の 3 つの合計。
- ・年齢階級別では、朝食の欠食率は男性では 40 歳代が最も高く 35.4%、女性では 20 歳代が 32.6%と最も高かった。
- ・1～6 歳の欠食内容は、男女共に菓子・果物などの食品のみを食べた場合であった。また、女性 7～14 歳の学齢期の欠食内容は、何も食べない、及び、菓子・果物などの食品のみを食べた場合であった。
- ・H25～27 年調査では、20 歳代男性が最も高かったが、H29～R 元年調査では、40 歳代男性の欠食率が高かった。(図 37)

1～6 歳の欠食内容は、菓子・果物・乳製品などの食品のみを食べた場合です。  
20 歳代女性、40 歳代男性の約 5 人に 1 人が、朝食に何も食べていません。

#### (7) 主食・主菜・副菜の状況 (p. 39)

- ・主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を 1 日 2 回以上食べることが、「ほとんど毎日ある」割合（目標 増加 80%）は、男性 53.4%、女性 58.4%であった。年齢階級別では、男性では 30 歳代、女性では 20 歳代が最も低かった。(図 38)
- ・1 日 2 回以上主食・主菜・副菜をそろえて食べる人の割合の年次推移では、「ほとんどない」と答えた者の割合が有意に増加していた。(図 39)

#### (8) 脂肪エネルギー比率の状況 (p. 40)

- ・エネルギー産生栄養素バランス※のうち、脂肪エネルギー比率（総エネルギー摂取量に占める脂肪から摂取するエネルギー量の割合）は、男性 27.7%、女性 29.9%であった。(図 40)  
※ エネルギーを産生する栄養素である、たんぱく質、脂質、炭水化物とそれらの構成成分が総エネルギー摂取量に占めるべき割合（%エネルギー）としてこれらの構成比率を示したものの。

## 2 身体・運動・休養の状況

### (1) 肥満とやせ・低栄養傾向の状況 (pp. 41-44)

#### 肥満

- ・肥満者の割合は（目標 男性 20～60 歳代 25%、女性 40～60 歳代 15%）、男性 27.0%、女性 18.2%であった。(図 42)

- ・平成 21 年からの年次推移では、肥満者の割合は 60 歳代の女性が有意に増加していた。(図 43)

#### やせ

- ・やせの者の割合(目標 女性 20 歳代 20%)は、男性 2.8%、女性 11.0%であった。年齢階級別にみると、男性では 20 歳代が 9.1%、女性では 30 歳代が 16.7%で最も多かった。女性の 20 歳代は 14.7%であり平成 21 年からの年次推移では、有意な増減はなかった。(図 44、45)

#### 低栄養傾向

- ・低栄養傾向の者(65 歳以上高齢者で BMI $\leq$ 20)の割合(目標 増加抑制 22%)は、男性 9.7%、女性 23.2%であり、男性より女性の方が大きい数値となっていた。(図 46、47)

**男性** 30 歳代では、3 人に 1 人が肥満です。

**女性** 60 歳代で、肥満者の割合が増加しています。  
20 歳代の 7 人に 1 人、30 歳代の 6 人に 1 人がやせています。  
85 歳以上では、5 人に 2 人が低栄養傾向です。

## (2) 血圧の状況(pp. 45-46)

- ・収縮期血圧の平均値(目標 男性 132mmHg、女性 124mmHg)は、男性が 136.1mmHg、女性が 129.3mmHg であった。(図 48)
- ・平成 21~23 年調査と比較すると、70 歳以上男性の収縮期血圧が有意に減少していた。(図 49)
- ・平成 21 年からの年次推移では、正常血圧の割合が有意に増加していた。(図 50)

## (3) LDL コレステロールに関する状況(p. 47)

- ・血清 LDL コレステロール 160mg/dL 以上の割合(目標 減少男性 9% 女性 10%)は、男性で 6.6%、女性で 13.0%であった。(図 51)

## (4) 糖尿病に関する状況(p. 48)

- ・HbA1c(NGSP 値)8.4%以上の者※の割合(目標 減少 1.0%)は、総数 1.3%、男性 3.2%、女性 0%であった。(図 52) ※ 血糖コントロール指標におけるコントロール不良者

## (5) 運動の状況(pp. 49-50)

- ・運動習慣のある者※の割合(目標 増加男性 20~59 歳 39% 60 歳以上 66%、女性 20~59 歳 60 歳以上 50%)は、20~59 歳で男性 24.4%、女性 28.7%であり、60 歳以上で男性 49.2%、女性 47.6%であった。年齢階級別では、男女とも 30 歳代で最も低く、男性 10%、女性 16.7%であった。
  - ・平成 21~23 年調査と比較すると、女性 70 歳以上で運動習慣のある者の割合が有意に増加していた。(図 53)
  - ・平成 21 年からの年次推移では、20~59 歳、60 歳以上それぞれについて運動習慣のある者の割合に有意な増減はなかった。(図 54、55)
- ※ 1 回 30 分以上の運動を週 2 回以上実施し、1 年以上継続している者。

### (6) 歩数の状況 (pp. 51-52)

- ・歩数の平均値 (目標 増加男性 20~59 歳 9,500 歩 60 歳以上 8,000 歩、女性 20~59 歳 9,000 歩 60 歳以上 6,500 歩) は、男性 20~59 歳で 7,963 歩、女性 20~59 歳で 7,561 歩、男性 60 歳以上で 6,394 歩、女性 60 歳以上で 5,456 歩であった。
- ・平成 21~23 調査と比較すると、歩数の平均値は 30 歳代及び 60 歳以上男性、40 歳代、50 歳代及び 60 歳代女性で有意に減少していた。70 歳以上の女性は、有意に増加していた。(図 56)

### (7) 睡眠時間の状況 (p. 53)

- ・1 日の平均睡眠時間は、男性で 6 時間以上が 59.6%、女性で 6 時間以上が 53.0%であった。
- ・睡眠時間 6 時間未満の者の割合は、男性では 30 歳代、40 歳代及び 50 歳代で、女性では 40 歳代と 50 歳代で 50%以上であった。(図 58)

### (8) 睡眠の状況 (p. 54)

- ・目覚めた時に疲労感が残る者の割合 (目標 減少男性 20%以下、女性 20%以下) は、男性 17.7%、女性 16.5%であった。
- ・目覚めた時に疲労感が残る者の割合で最も多いのは、男性では 40 歳代で 32.0%、女性では 30 歳代で 31.1%であった。
- ・H21~23 年調査と比較すると、目覚めた時に疲労感が残る者は、男性総数と女性総数で有意に減少していた。(図 59)

## 3 飲酒・喫煙に関する状況

### (1) 飲酒習慣 (p. 55)

- ・生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合 (目標 減少男性 15%以下、女性 7%以下) は、男性 18.4%、女性 12.2%であった。
- ・平成 21 年~23 年調査と比較すると、生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合は女性総数と 50 歳代で有意に増加していた。(図 60)

50 歳代男性の 3 人に 1 人、50 歳代女性の 5 人に 1 人が生活習慣病のリスクを高める量の飲酒をしており、女性に増加傾向が見られます。

### (2) 喫煙の状況 (pp. 56-57)

- ・現在習慣的に喫煙している者の割合 (目標 減少男性 30.8%、女性 8.3%) は、男性が 27.4%、女性が 9.3%であった。(図 61)
- ・平成 21 年からの年次推移では、男性の 20 歳代で現在習慣的に喫煙している者が有意に減少していた。(図 62)

### (3) 未成年の飲酒・喫煙状況 (p. 58)

- ・未成年者の飲酒者の割合 (目標 男性、女性ともに 0%) は、総数 14.9%、男性 16.1%、女性 13.9%であった。(図 63)
- ・未成年者の喫煙者の割合 (目標 男性、女性ともに 0%) は、総数 1.5%、男性 3.2%、女性 0%であった。(図 64)

## 4 歯の健康に関する状況

### (1) 歯の本数の状況 (pp. 59-60)

- ・自分の歯が20本以上ある者(20歳以上)の割合は、男性で79.2%、女性で84.3%であった。(図65)
- ・80歳(75~84歳)で20本以上の自分の歯を有する者の割合(目標 増加65%)は、平成21~23年と比較すると総数、男性、女性すべてにおいて有意に増加していた。(図66)

### (2) 不自由なく食べられる状況 (p. 61)

- ・不自由なく食べられる者の割合(目標 増加男性、女性ともに60代80%)は、男性で82.0%、女性で85.0%であった。
- ・60歳代では、男性が73.1%、女性が80.7%であった。(図67)

### (3) 歯間清掃用具の使用状況 (p. 62)

- ・歯間清掃用具を使用する者の割合は、歯間ブラシが34.7%、デンタルフロス・糸(付)ようじが29.8%であった。
- ・歯間ブラシは、年齢が上がるほど使用する割合が高くなるが、デンタルフロス・糸(付)ようじでは、最も使用する頻度が高い年代が40歳代であった。(図68、69)

## 5 糖尿病等に関する状況

### (1) 糖尿病治療継続者の状況 (p. 63)

- ・糖尿病治療継続者※の割合(目標 増加65%)は総数で71.1%であった。
- ・年代別に最も糖尿病治療継続者の割合が高いのは、70歳以上であった。(図70)  
※ 医療機関や健診で糖尿病といわれたことがある人(「糖尿病の気がある」「血糖値が高い」なども含む)のうち、「今まで継続的に受けている」、「過去に中断したことがあるが、現在は受けている」と回答した者。

### (2) 慢性閉塞性肺疾患(COPD)認知度 (p. 64)

- ・慢性閉塞性肺疾患(COPD)の認知度(言葉も意味も知っている者)(目標 向上80%)は、総数14.9%、男性12.6%、女性16.9%であった。(図71)
- ・慢性閉塞性肺疾患(COPD)の認知度の平成25年からの年次推移では、有意な増減はみられなかった。(図72)

### (3) ロコモティブシンドローム認知度 (p. 65)

- ・ロコモティブシンドロームの認知度(言葉も意味も知っている者)(目標 向上80%)は、総数13.9%、男性8.6%、女性18.6%であった。(図73)

### (4) 健康寿命認知度 (p. 66)

- ・健康寿命の認知度(言葉も意味も知っている者)は52.8%で、男性46.6%、女性58.3%であった。(図75)
- ・健康寿命の認知度の平成25年からの年次推移では、「言葉も意味も知っている者」は有意に増加していた。(図76)

# 1 栄養・食生活に関する状況

## (1) 栄養素等摂取状況

- ・摂取エネルギー量の平均値は、1,880kcalであった。平成21～23年調査で1,848kcal、平成25～27年調査では1,821kcalであり、平成21年からの年次推移では有意な増減はなかった。
- ・栄養素等については、平成21年からの年次推移では、脂質、飽和脂肪酸は増加、食塩は男性及び総数で減少、脂肪エネルギー比率は増加、穀類エネルギー比率は女性及び総数で減少していた。(図2～6)
- ・日本人の食事摂取基準(2015年版)との比較では、食物繊維の目標量、カルシウムの推奨量に対しては男女共に少なく、鉄の推奨量に対しては女性で少なかった。一方、食塩摂取量については、男女共各年代で目標量を超えていた。(図7～11)

ア 栄養素等摂取量(1日当たり平均・総数、1歳以上)

栄養素等	単位	平成29-令和元年 県民健康・栄養調査			平成25-27年県民 健康・栄養調査	平成21-23年県民 健康・栄養調査	平成30年国民健 康・栄養調査
		平均値	標準偏差	中央値	平均値	平均値	平均値
エネルギー	kcal	1,880	551	1,817	1,821	1,848	1,900
たんぱく質	g	69.7	22.5	68.1	67.0	66.7	70.4
うち動物性	g	38.9	18.0	37.0	36.3	35.8	38.9
脂質	g	61.0	26.2	57.9	56.3	56.9	60.4
うち動物性	g	31.9	18.4	28.7	28.6	29.0	31.8
飽和脂肪酸	g	17.85	8.98	16.33	15.50	15.85	17.83
一価不飽和脂肪酸	g	22.03	10.82	20.36	19.60	19.78	22.28
n-6系脂肪酸	g	10.43	5.10	9.74	9.34	9.45	10.50
n-3系脂肪酸	g	2.20	1.52	1.83	2.05	2.12	2.39
コレステロール	mg	321	179	307	296	296	333
炭水化物	g	243.5	76.7	237.6	244.6	250.1	251.2
食物繊維	g	15.0	6.5	14.3	14.0	13.6	14.4
うち水溶性	g	3.4	1.6	3.2	3.3	3.2	3.4
うち不溶性	g	10.4	4.5	9.9	10.2	9.9	10.4
ビタミンA	μgRAE <sup>*1</sup>	540	779	391	514	498	518
ビタミンD	μg	6.5	7.9	3.2	6.8	6.5	6.6
ビタミンE	mg <sup>*2</sup>	6.8	3.4	6.2	6.4	8.4	6.7
ビタミンK	μg	239	175	189	224	220	246
ビタミンB <sub>1</sub>	mg	0.92	0.44	0.83	0.86	1.86	0.90
ビタミンB <sub>2</sub>	mg	1.15	0.50	1.08	1.13	1.82	1.16
ナイアシン当量	mg	24.1	12.5	22.1	14.3	14.1	29.7
ビタミンB <sub>6</sub>	mg	1.16	0.46	1.11	1.10	1.71	1.15
ビタミンB <sub>12</sub>	μg	5.5	6.0	3.5	5.7	6.0	5.9
葉酸	μg	279	134	259	274	275	287
パントテン酸	mg	5.56	1.99	5.34	5.31	5.26	5.57
ビタミンC	mg	92	66	77	93	120	95
ナトリウム	mg	3,797	1,477	3,660	3,858	4,003	3,825
食塩相当量	g <sup>*3</sup>	9.6	3.8	9.3	9.8	10.2	9.7
食塩相当量	g/1,000kcal	5.2	1.8	4.9	5.4	5.6	5.2
カリウム	mg	2,279	892	2,182	2,187	2,165	2,290
カルシウム	mg	499	263	449	482	489	505
マグネシウム	mg	245	92	233	234	231	263
リン	mg	991	335	961	957	954	992
鉄	mg	7.4	2.8	7.0	7.2	7.6	7.5
亜鉛	mg	8.2	3.1	7.7	7.8	7.9	8.3
銅	mg	1.09	0.39	1.05	1.07	1.10	1.12
脂肪エネルギー比率	% <sup>*4</sup>	28.9	7.9	28.4	27.0	27.2	28.3
炭水化物エネルギー比率	% <sup>*4,5</sup>	56.2	8.8	56.4	56.2	57.6	56.8
動物性たんぱく質比率	% <sup>*4</sup>	53.9	13.1	55.3	51.2	51.8	53.5
穀類エネルギー比率	% <sup>*4</sup>	38.5	12.5	38.1	39.3	41.3	40.0
調査人数	人	1,204			1,509	2,197	6,926

\*1 RAE:レチノール活性当量 \*2 α-トコフェロール量(α-トコフェロール以外のビタミンEは含んでいない)

\*3 食塩相当量=ナトリウム量(mg)×2.54/1,000 で算出。

\*4 これらの比率は個々人の計算値を平均したものである。

\*5 炭水化物エネルギー比率=100-たんぱく質エネルギー比率-脂肪エネルギー比率 で算出。

イ 栄養素等摂取量の年次推移(平成21～令和元年)

栄養素等摂取量一年齢調整値、20歳以上

図1 エネルギーの摂取量の年次推移(20歳以上、年齢調整値)

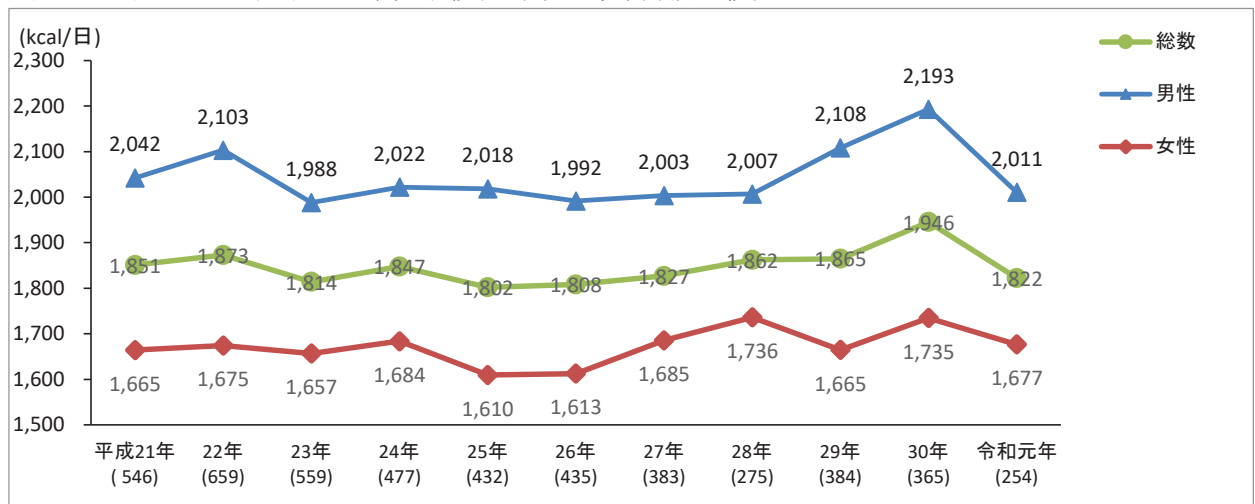


図2 脂質の摂取量の年次推移(20歳以上、年齢調整値)

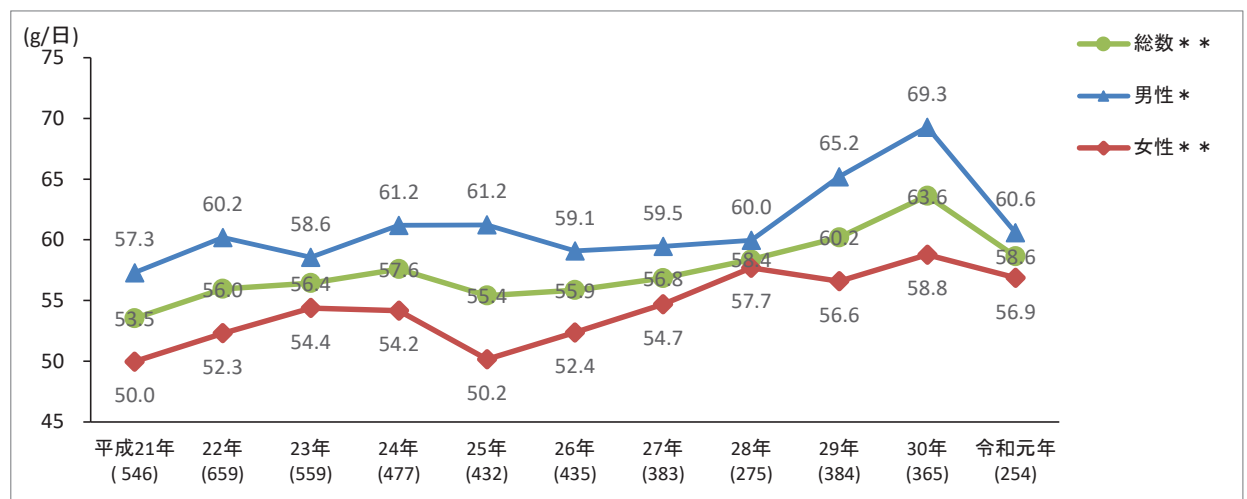


図3 飽和脂肪酸の摂取量の年次推移(20歳以上、年齢調整値)

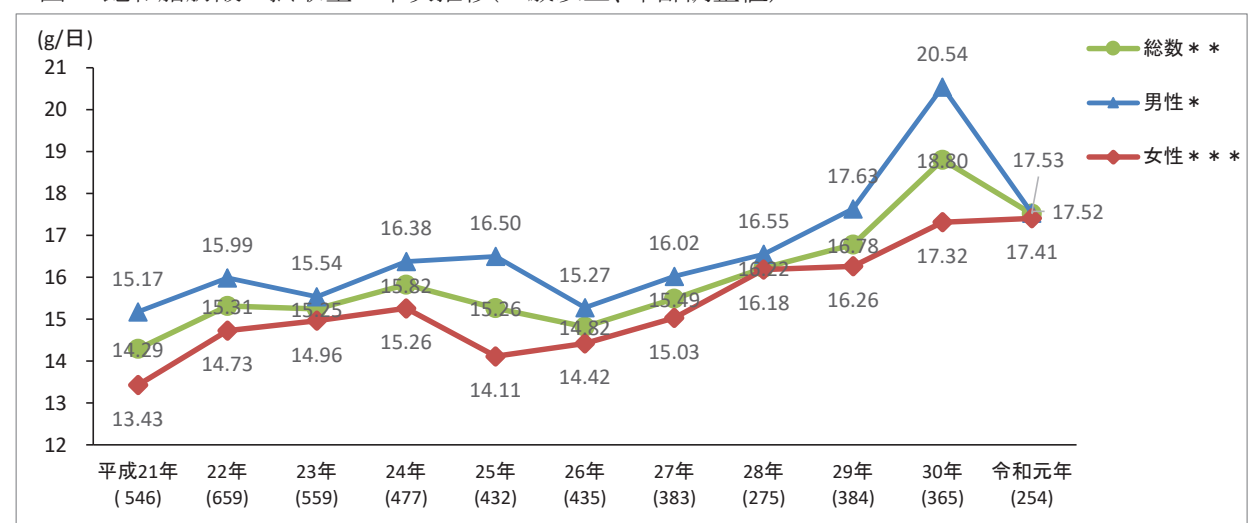




図4 食塩の摂取量の年次推移(20歳以上、年齢調整値)

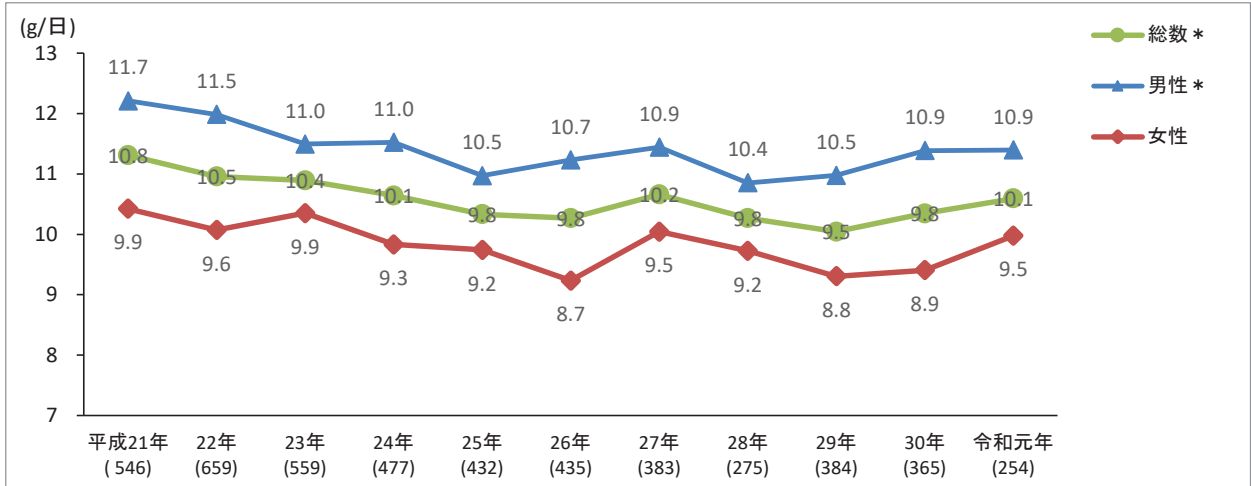


図5 脂肪エネルギー比の年次推移(20歳以上、年齢調整値)

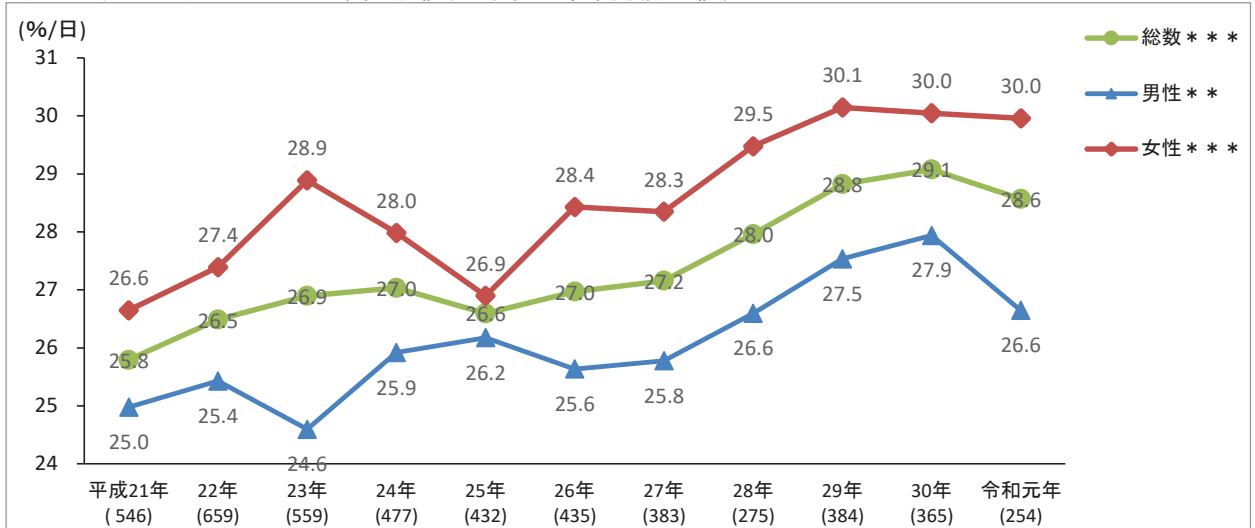
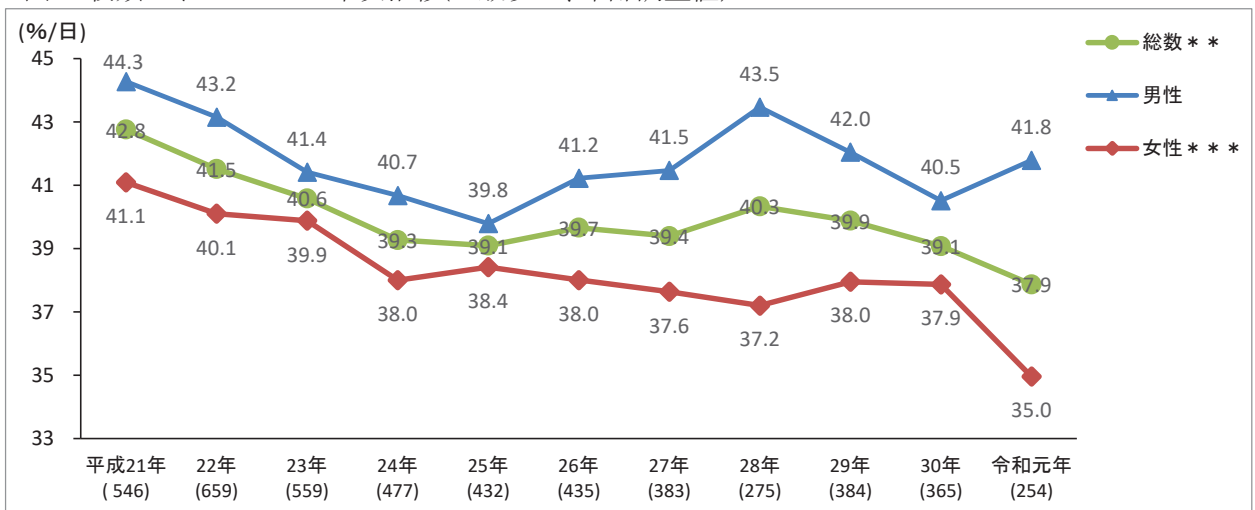


図6 穀類エネルギー比の年次推移(20歳以上、年齢調整値)



ウ 栄養素等摂取量の平均値(平成29～令和元年)と日本人の食事摂取基準(2015年版)との比較

図7 エネルギー(20歳以上・性・年齢階級別)

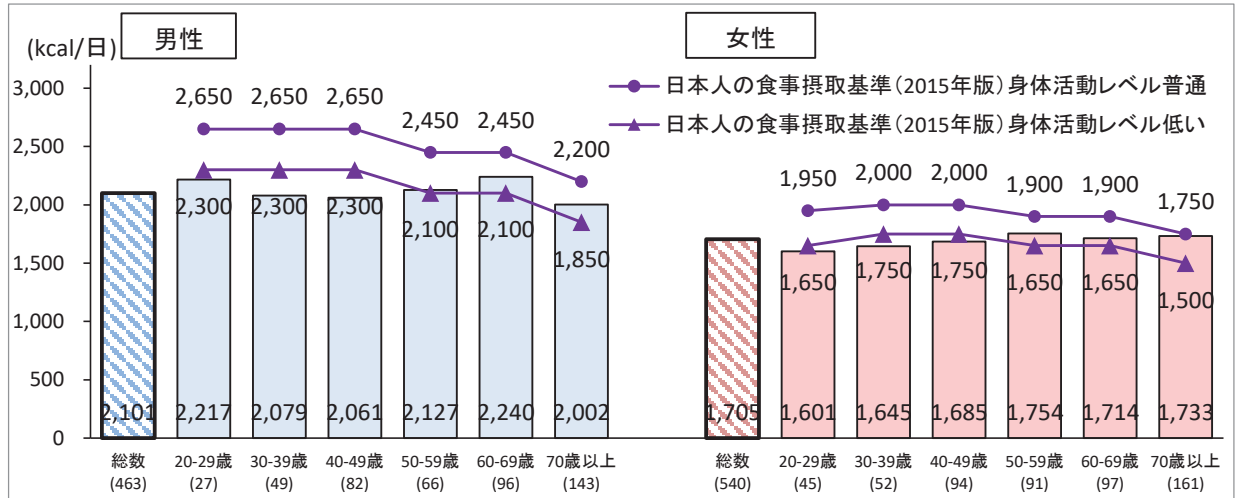


図8 食物繊維(20歳以上・性・年齢階級別)

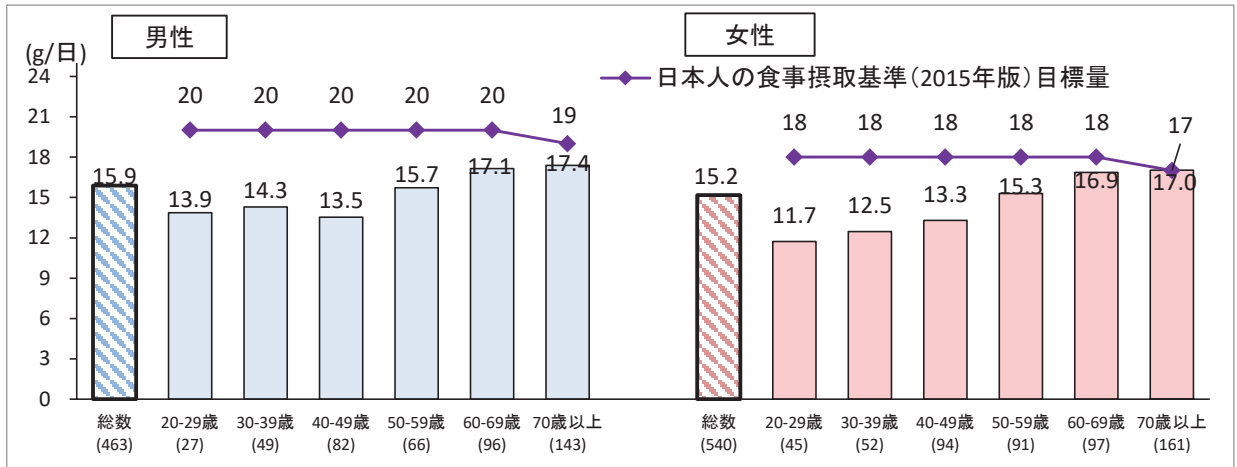


図9 食塩摂取量(20歳以上・性・年齢階級別)

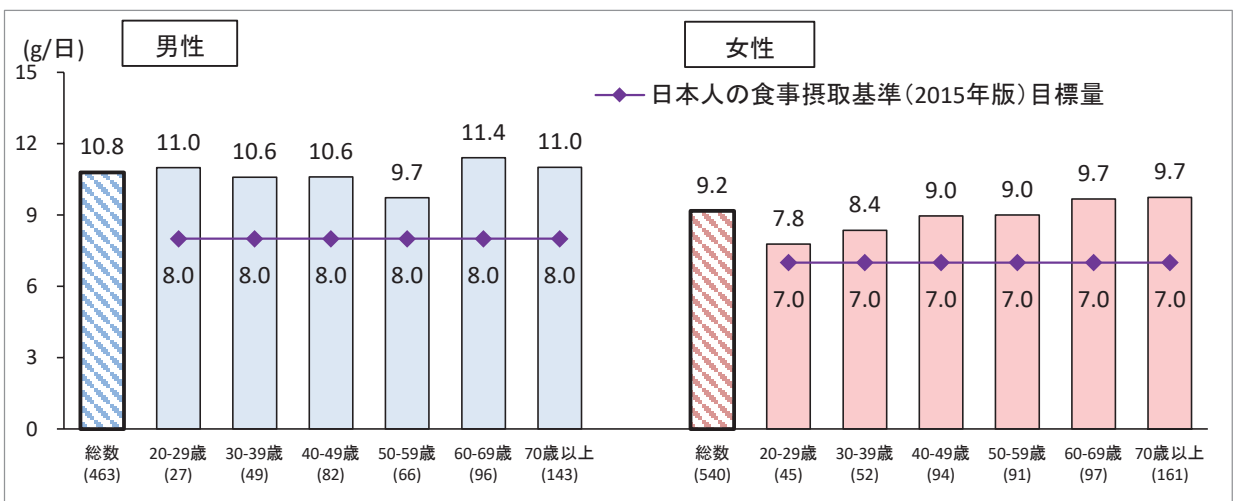


図10 カルシウム(20歳以上・性・年齢階級別)

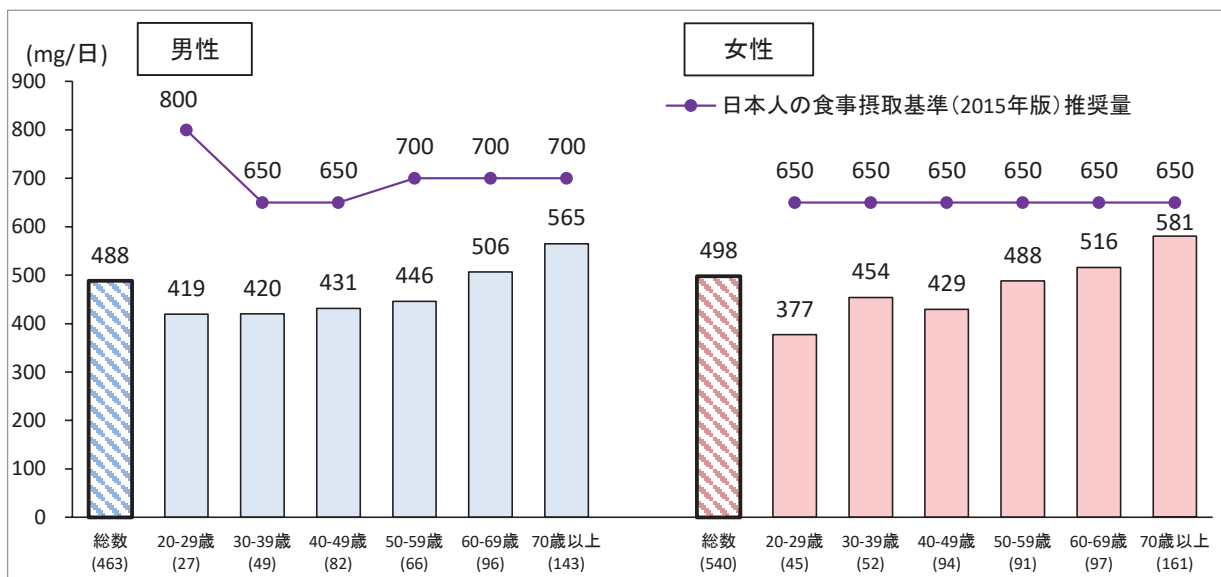
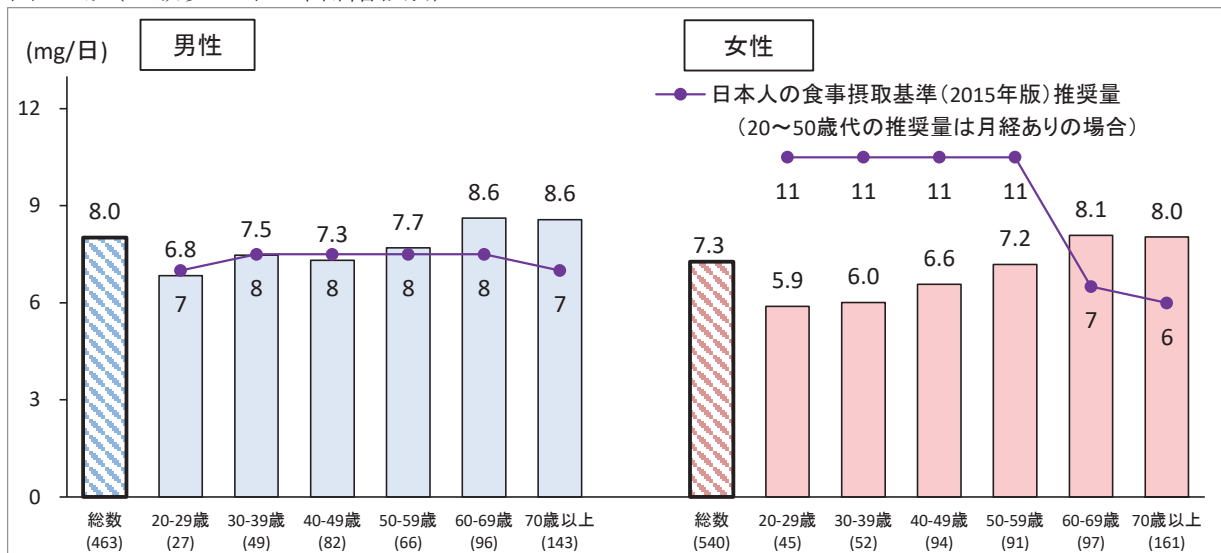


図11 鉄(20歳以上・性・年齢階級別)



## (2) 食品群別摂取状況

- ・食品群別摂取量の平均値は、動物性食品344.8g、植物性食品1620.0gであった。
- ・食品群別摂取量の平成21年からの年次推移では、その他の野菜及び肉類は有意に増加し（図14、17）、穀類、緑黄色野菜、果実類及び魚介類は有意に減少していた（図12、13、15、16）。

### ア 食品群別摂取量(1日当たりの平均値、総数、1歳以上)

食品群別	食品群番号	平成29-R元年 県民健康・栄養調査			H25-27年県民 健康・栄養調査	H21-23年県民健 康・栄養調査	H30年国民健 康・栄養調査
		平均摂取量	標準偏差	中央値	平均摂取量	平均摂取量	平均摂取量
総量	1-98	1,964.8	688.1	1,880.7	1,985.2	1,978.2	1,994.0
動物性食品	48-76,79	344.8	186.9	312.6	-	-	340.6
植物性食品	1-47,77,78,80-98	1,620.0	637.4	1,541.3	-	-	1,653.4
穀類	1-12	397.0	173.7	380.0	402.9	421.1	415.1
米・加工品	1,2	273.9	183.2	250.0	272.8	297.3	308.5
その他の穀類	3-12	123.1	108.6	91.0	130.1	123.8	106.5
いも類	13-16	44.7	62.4	17.9	43.1	46.6	51.0
砂糖・甘味料類	17	6.0	8.3	3.3	6.5	6.6	6.4
豆類	18-23	59.7	77.2	37.0	51.2	51.4	62.9
種実類	24	2.3	8.3	0.0	2.5	2.1	2.4
野菜類	25-38	271.6	166.9	241.5	273.1	255.6	269.2
緑黄色野菜	25-29	83.8	76.6	66.1	99.5	98.8	82.9
その他の野菜	30-36	178.7	133.1	151.3	164.3	145.3	177.5
漬け物	37,38	9.1	20.3	0.0	9.2	11.6	8.8
果実類	39-45	104.8	122.5	77.8	106.9	105.5	96.7
生果	39-43	90.6	106.3	61.1	93.4	86.5	86.0
ジャム	44	1.8	6.0	0.0	1.7	1.4	1.3
果汁・果汁飲料	45	12.5	66.9	0.0	11.7	17.6	9.4
きのこ類	46	15.3	27.6	0.0	14.7	14.8	16.0
藻類	47	9.6	20.3	1.0	10.5	10.1	8.5
魚介類	48-60	60.0	66.3	40.0	63.3	64.6	65.1
生魚介類	48-55	35.9	55.7	0.0	39.0	41.0	37.9
魚介加工品	56-60	24.1	38.7	5.0	24.3	23.6	27.1
肉類	61-69	106.8	83.8	93.8	94.1	90.7	104.5
卵類	70	37.8	35.1	37.0	31.7	32.0	41.1
乳類	71-75	138.5	160.1	95.8	129.6	126.7	128.8
油脂類	76-80	12.4	10.7	10.0	11.5	11.3	11.0
菓子類	81-85	27.1	46.2	0.0	27.7	27.1	26.1
嗜好飲料類	86-91	596.8	487.8	526.0	626.0	621.7	628.6
アルコール飲料	86-88	114.5	268.4	0.5	106.8	99.9	101.3
その他の嗜好飲料	89-91	482.3	408.6	400.0	519.2	521.7	527.3
調味料・香辛料類	92-98	74.2	68.9	55.4	89.9	90.3	60.7
調査人数	人	1,204			1,509	2,197	6,926

イ 食品群別摂取量の年次推移(平成21～令和元年)  
食品群別摂取量－20歳以上、年齢調整値

図12 穀類(1～12)の摂取量の年次推移(20歳以上、年齢調整値)

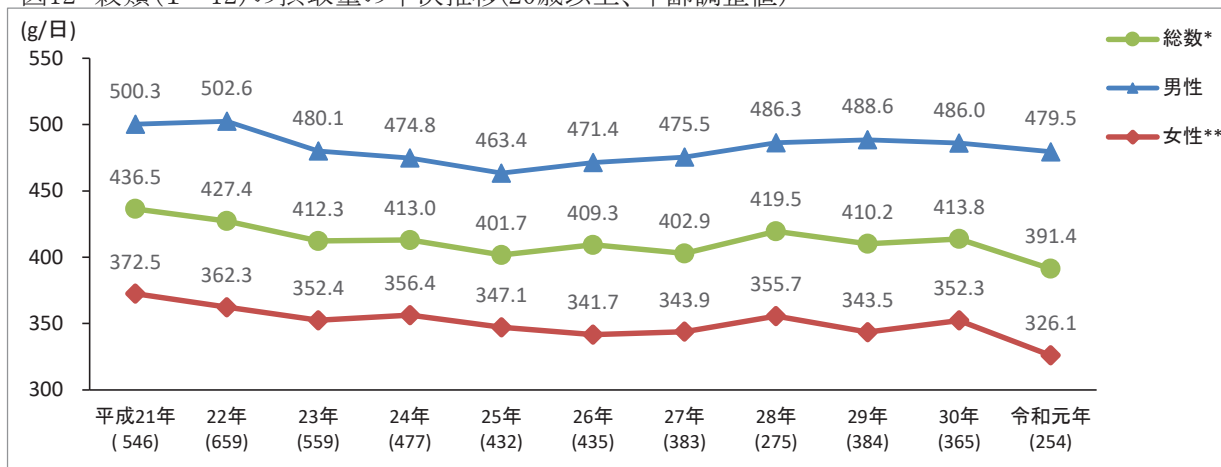


図13 緑黄色野菜(25～29)の摂取量の年次推移(20歳以上、年齢調整値)

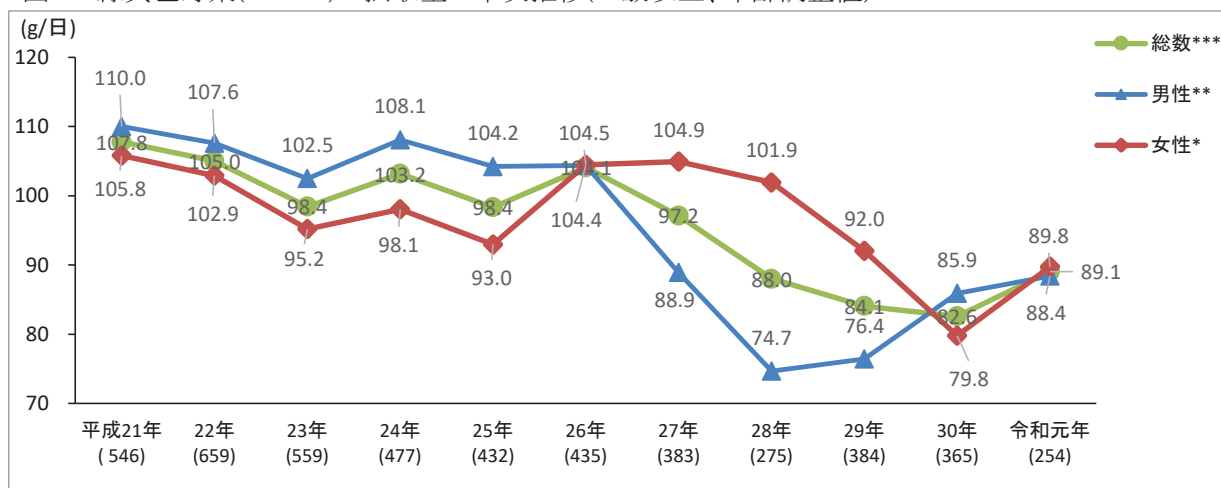


図14 その他の野菜(30～35)の摂取量の年次推移(20歳以上、年齢調整値)

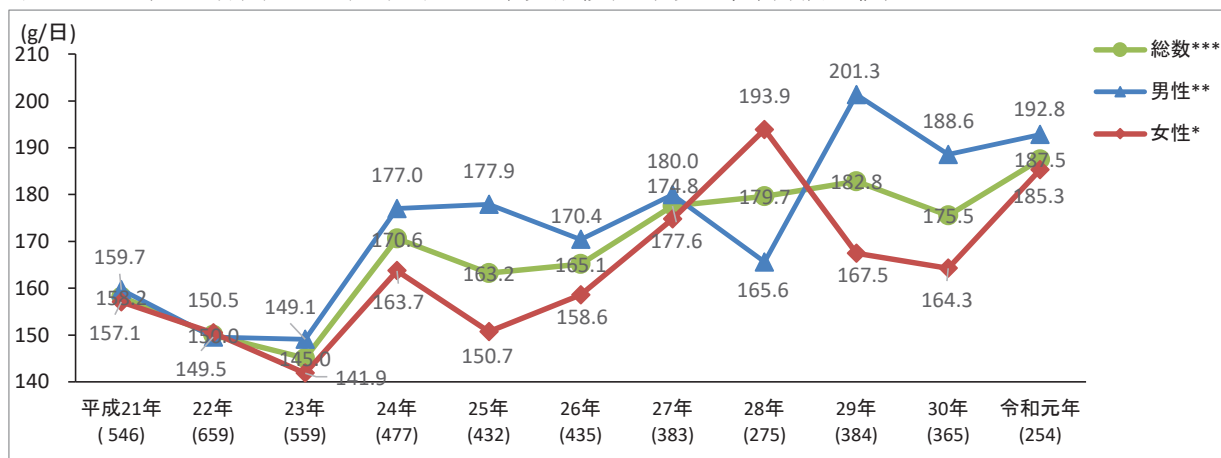


図15 果実類(39~45)の摂取量の年次推移(20歳以上、年齢調整値)

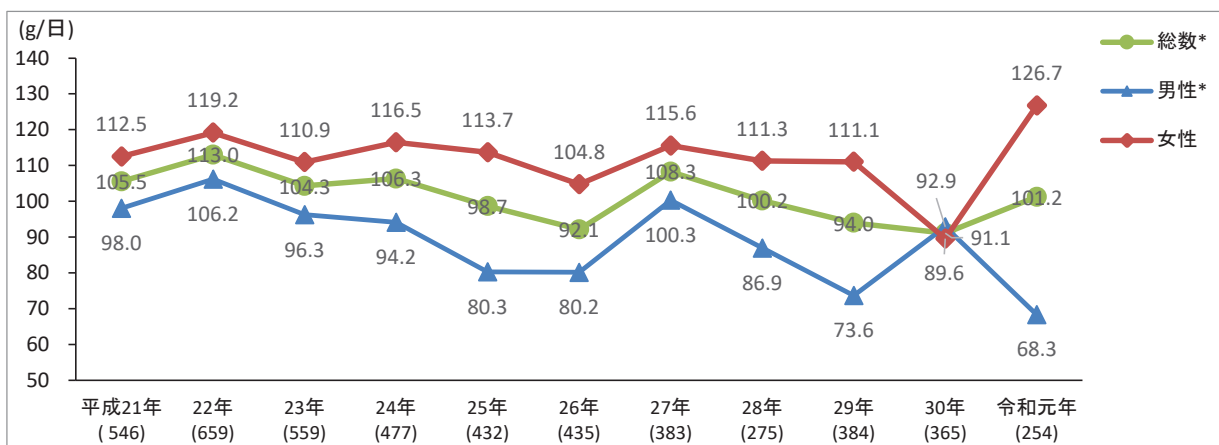


図16 魚介類(48~60)の摂取量の年次推移(20歳以上、年齢調整値)

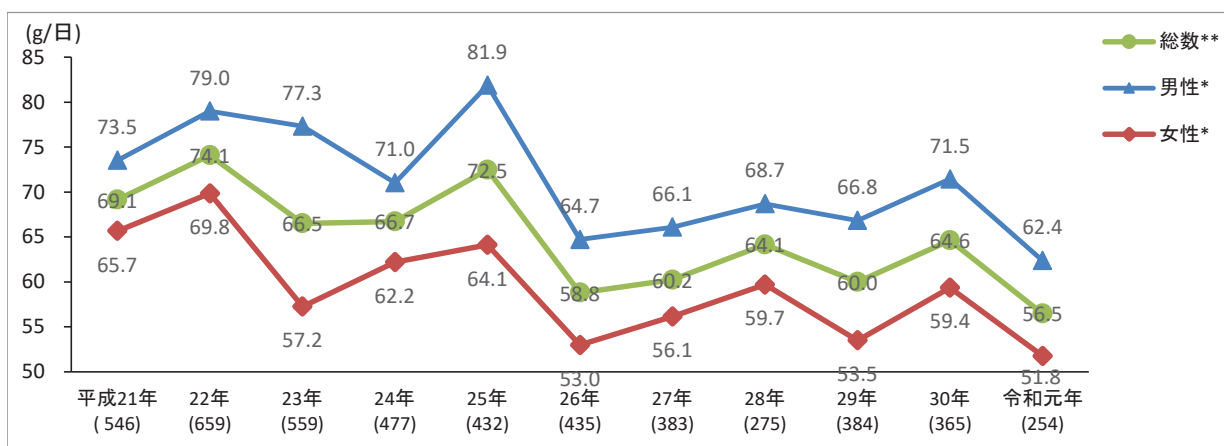


図17 肉類(61~69)の摂取量の年次推移(20歳以上、年齢調整値)

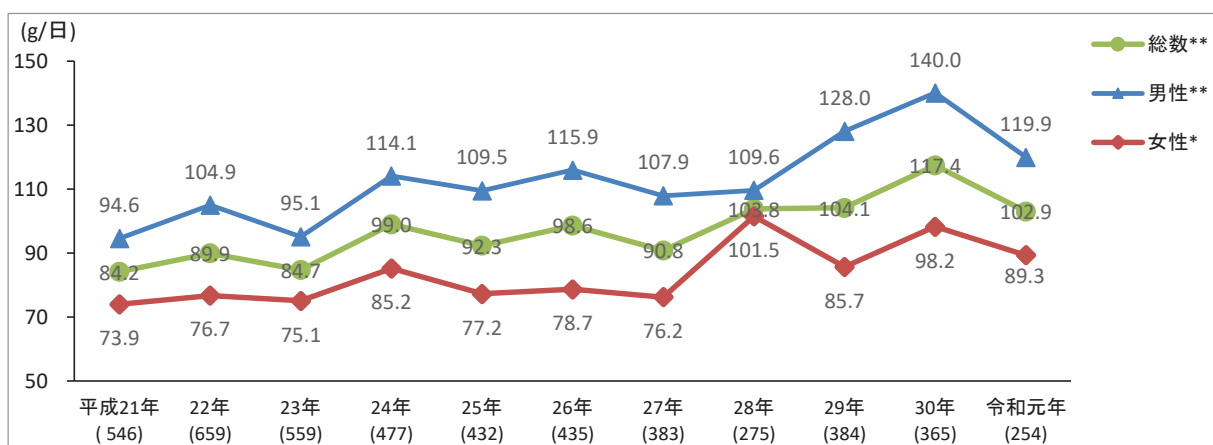


図18 卵類(70)の摂取量の年次推移(20歳以上、年齢調整値)

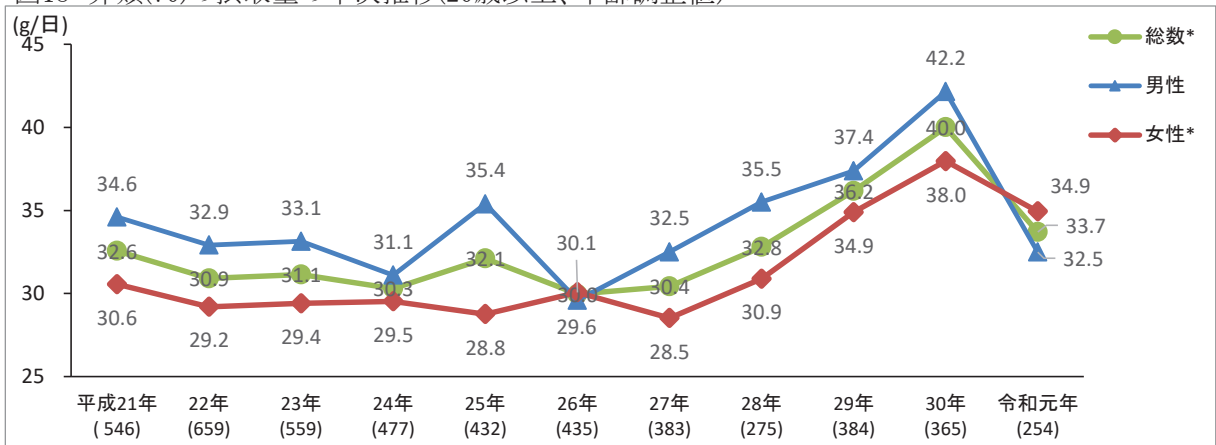


図19 乳類(71~75)の摂取量の年次推移(20歳以上、年齢調整値)

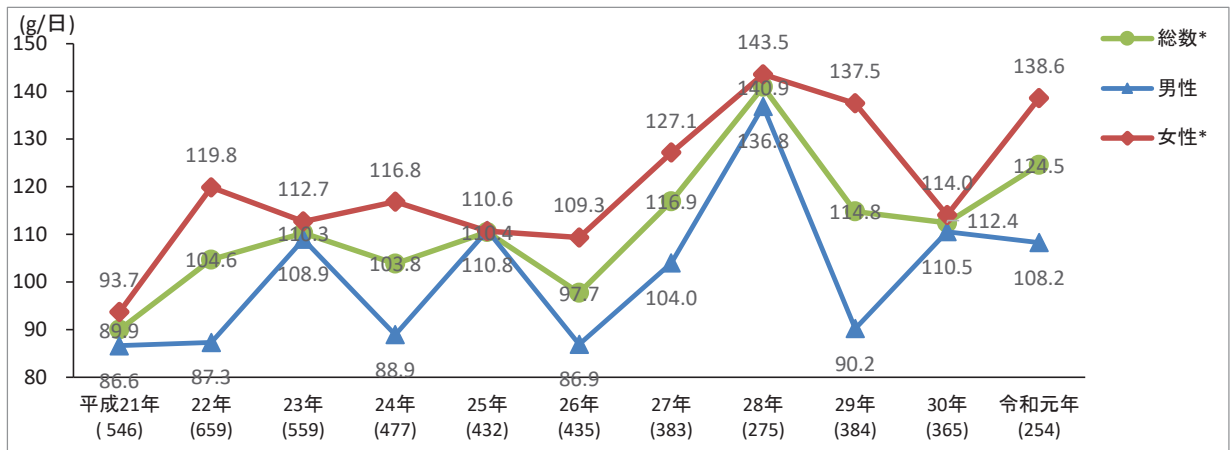
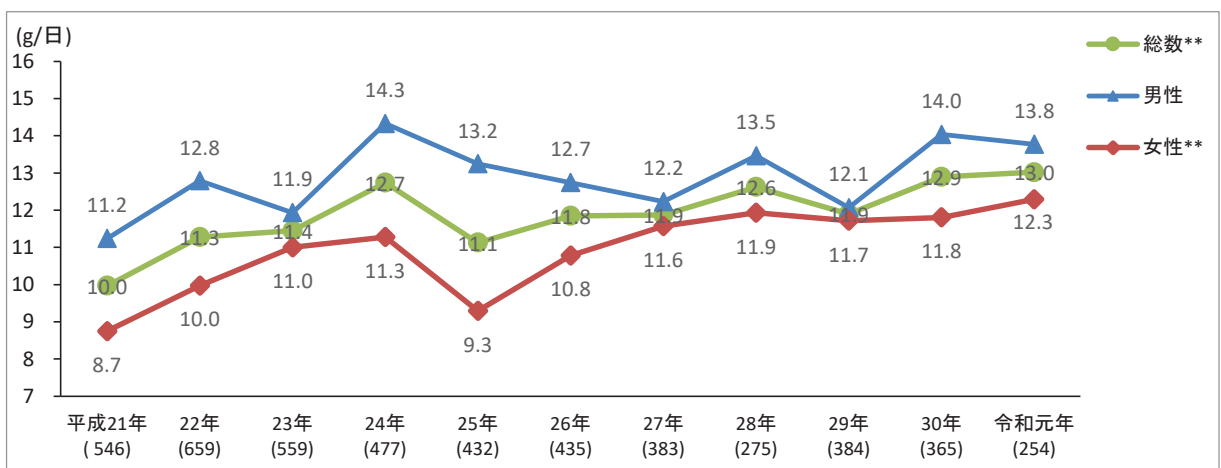
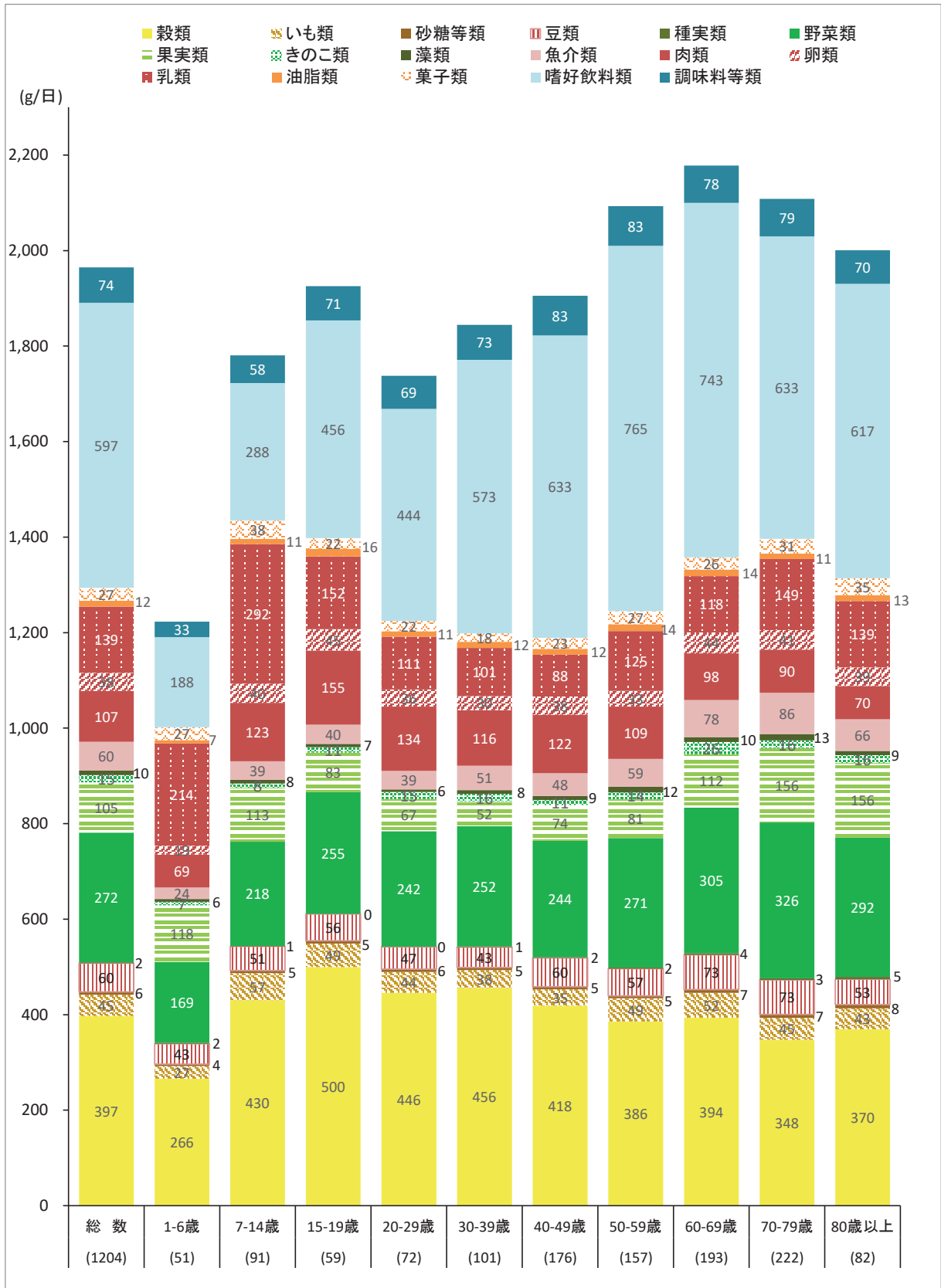


図20 油脂類(76~80)の摂取量の年次推移(20歳以上、年齢調整値)



ウ 食品群別摂取量(1歳以上、年齢階級別)(平成29～令和元年)

図21 1日当たりの食品群別摂取量(1歳以上、年齢階級別)(平成29～令和元年)



※数値は整数表記のため、第3章と整合しない部分がある



図22 たんぱく質を多く含む食品群別摂取量(1歳以上、年齢階級別)(平成29～令和元年)

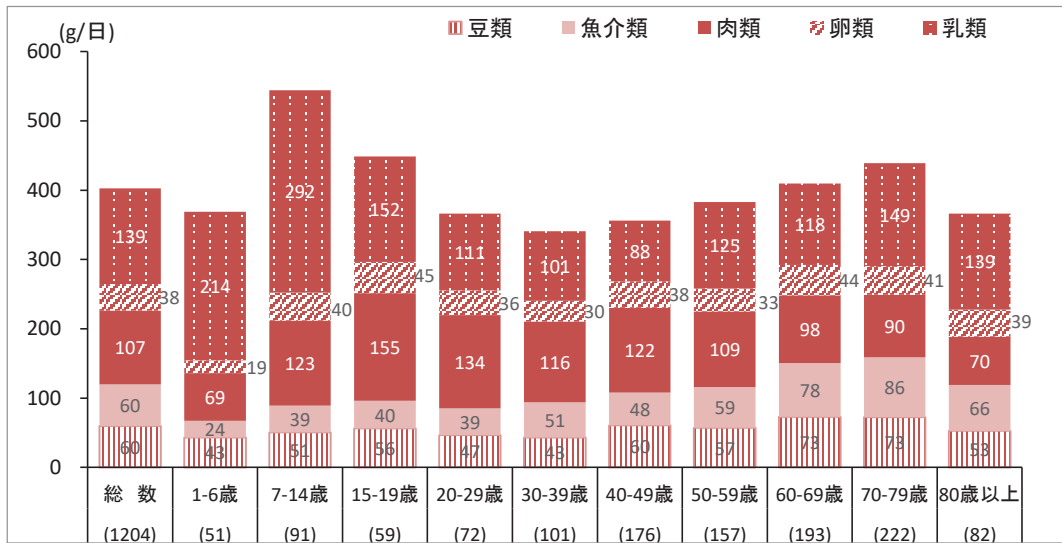


図23 ビタミン・ミネラルを多く含む食品群別摂取量(1歳以上、年齢階級別)(平成29～令和元年)

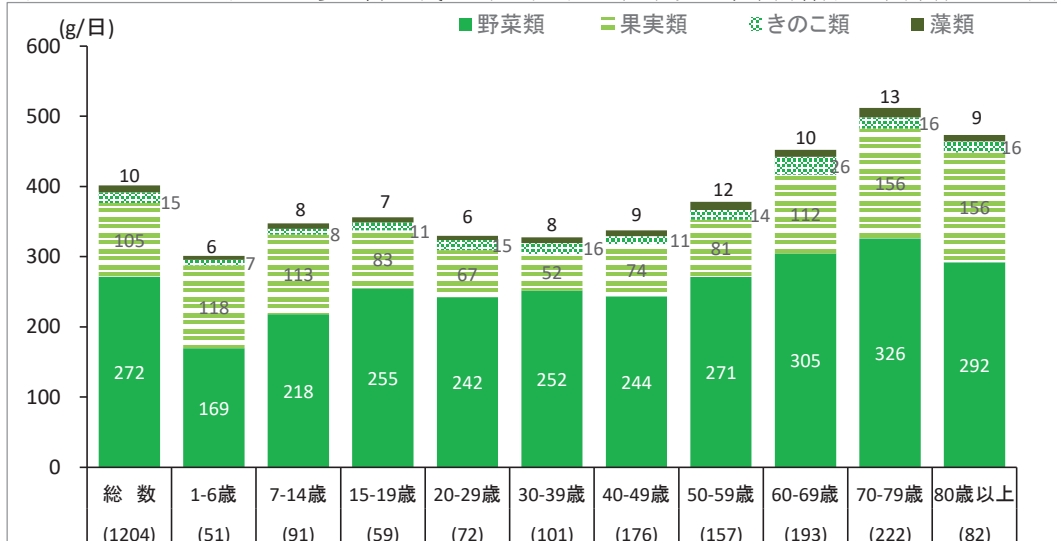
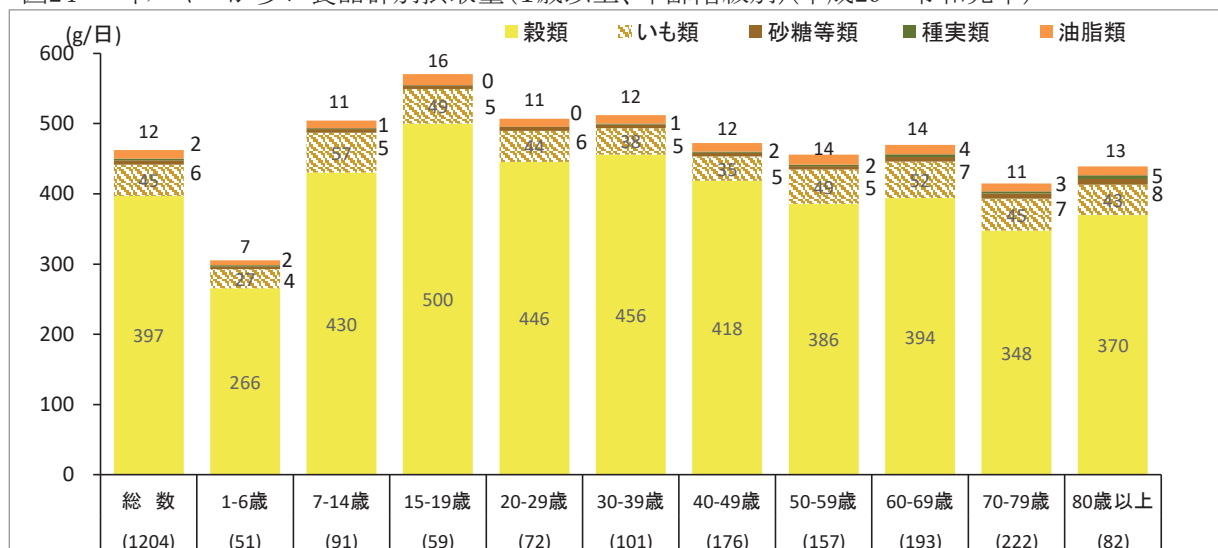


図24 エネルギーが多い食品群別摂取量(1歳以上、年齢階級別)(平成29～令和元年)

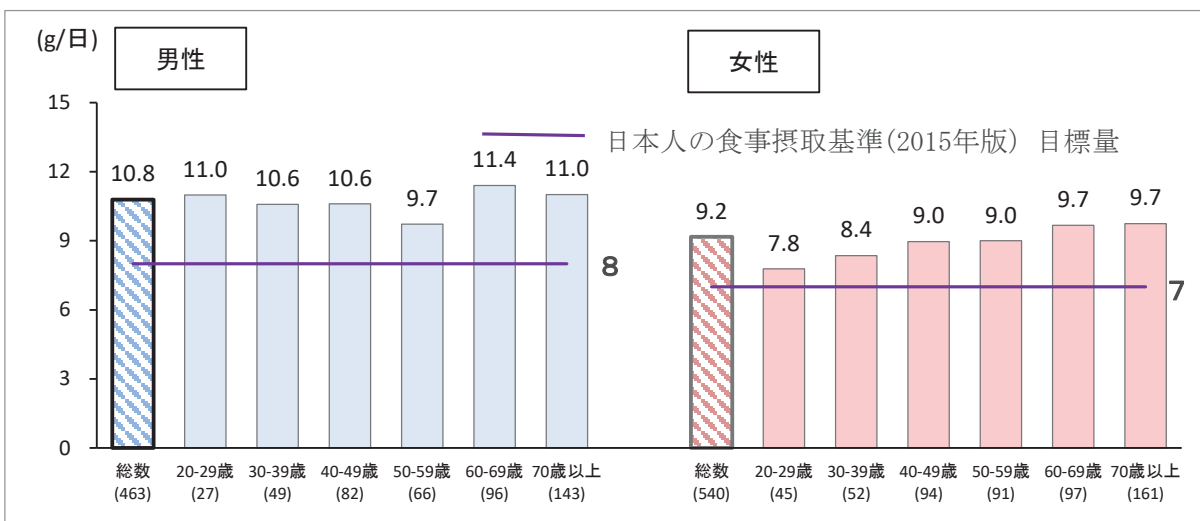


※数値は整数表記のため、第3章と整合しない部分がある

### (3) 食塩摂取量の状況

- ・食塩摂取量の平均値は、男性10.8g、女性9.2gであり、年齢階級別では、男性では60歳代、女性では60歳以上で最も多く、それぞれ11.4g、9.7gであった。(図25)
- ・食塩摂取量について、平成21年からの年次推移では、総数及び男性において有意に減少していた。(図26)
- ・食塩摂取量が8g未満の者の割合は、男性23.3%、女性40.0%であり、年齢階級別では、男性では50歳代で最も高く34.8%、女性では20歳代で最も高く57.8%であった。一方、最も低いのは男女とも60歳代で、それぞれ16.7%、30.9%であった。(図27)
- ・食塩摂取量8g未満の者の割合について、平成21年からの年次推移では、総数及び女性において有意に増加していた。(図28)

図25 食塩摂取量の平均値(20歳以上、性・年齢階級別)(平成29～令和元年)(再掲)



(参考) 日本人の食事摂取基準2020年版の目標量: 男性7.5g/日未満、女性6.5g/日未満)

図26 食塩摂取量の平均値の年次推移(20歳以上)

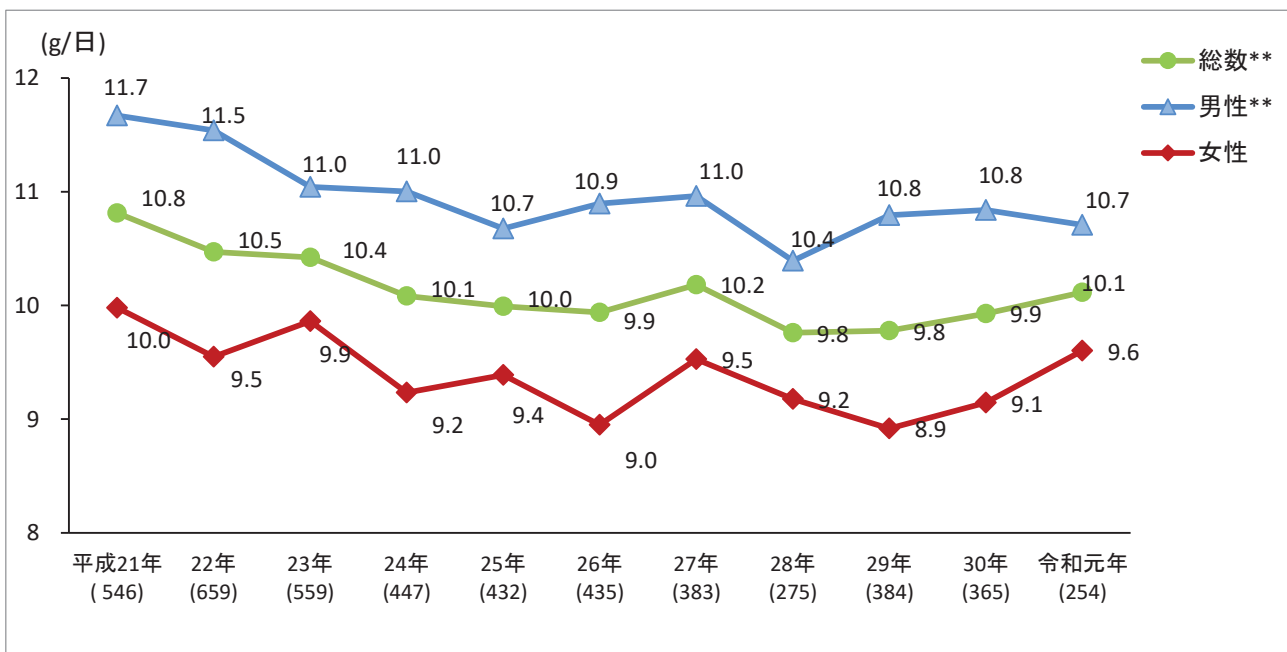


図27 食塩摂取量が8g未満の者の割合(1日当たり、20歳以上、性・年齢階級別)(平成29～令和元年)

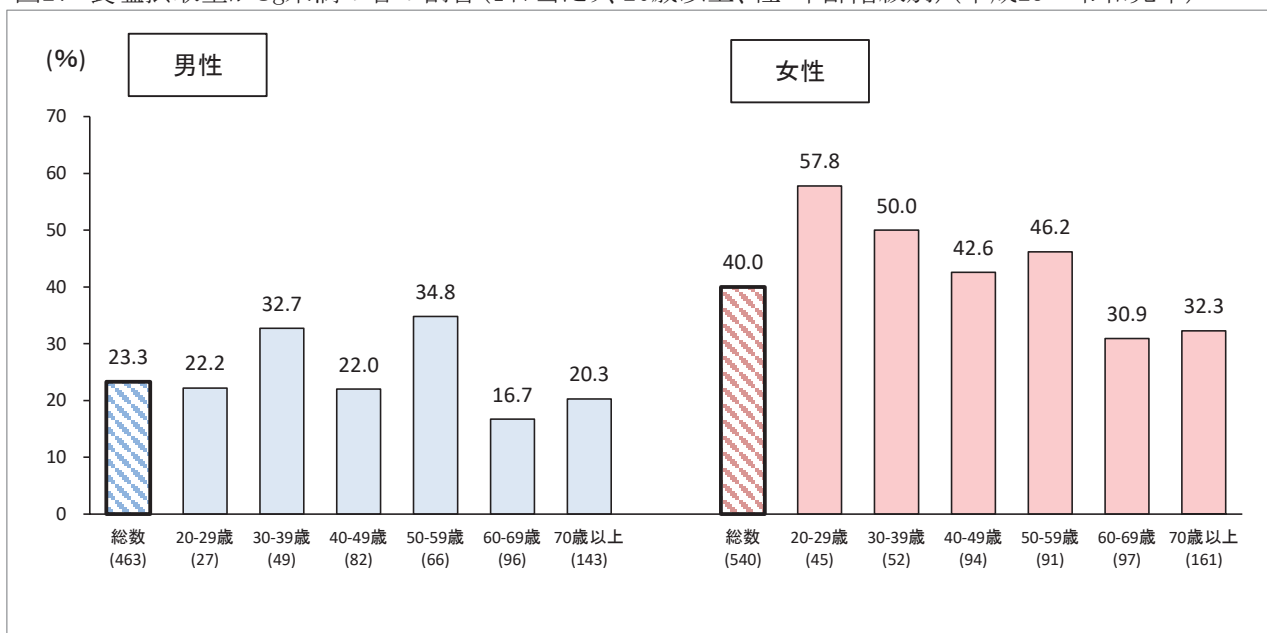
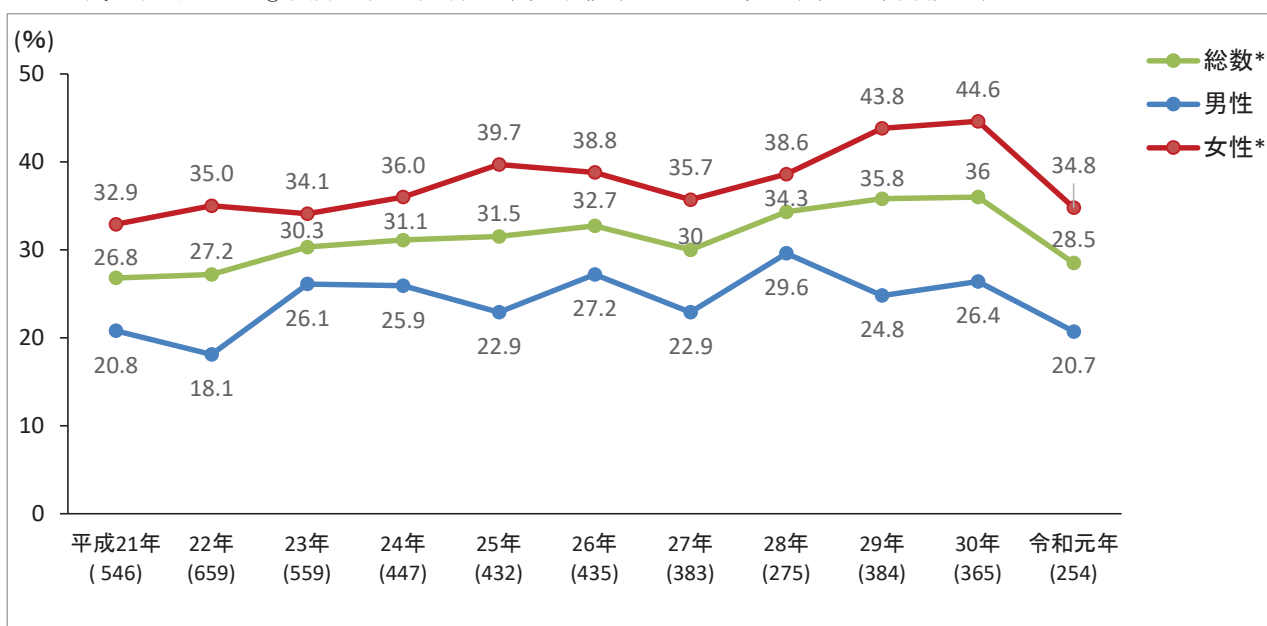


図28 食塩摂取量が8g未満の者の割合の年次推移(1日当たり、20歳以上年齢調整)



「かながわ健康プラン21(第2次)」の目標  
 28 食塩1日摂取量が8g未満の者の割合の増加  
 目標値: 56%

(参考)「健康日本21(第二次)」の目標  
 食塩摂取量の減少  
 目標値: 1日当たりの食塩摂取量の平均値 8g

#### (4) 野菜摂取量の状況

- ・野菜摂取量の平均値は、男性291.9g、女性274.8gであった。(図29)
- ・野菜摂取量350g以上の者の割合は、男性32.4% 女性28.1%であり、年齢階級別では、男女共に40歳代が最も低く、男性19.5%、女性19.1%であった。(図30)
- ・平成21年からの野菜摂取量350g以上の者の割合の年次推移では、総数と70歳代で有意に増加していた。(図32)

図29 野菜摂取量の平均値(20歳以上、性・年齢階級別)(平成29～令和元年)

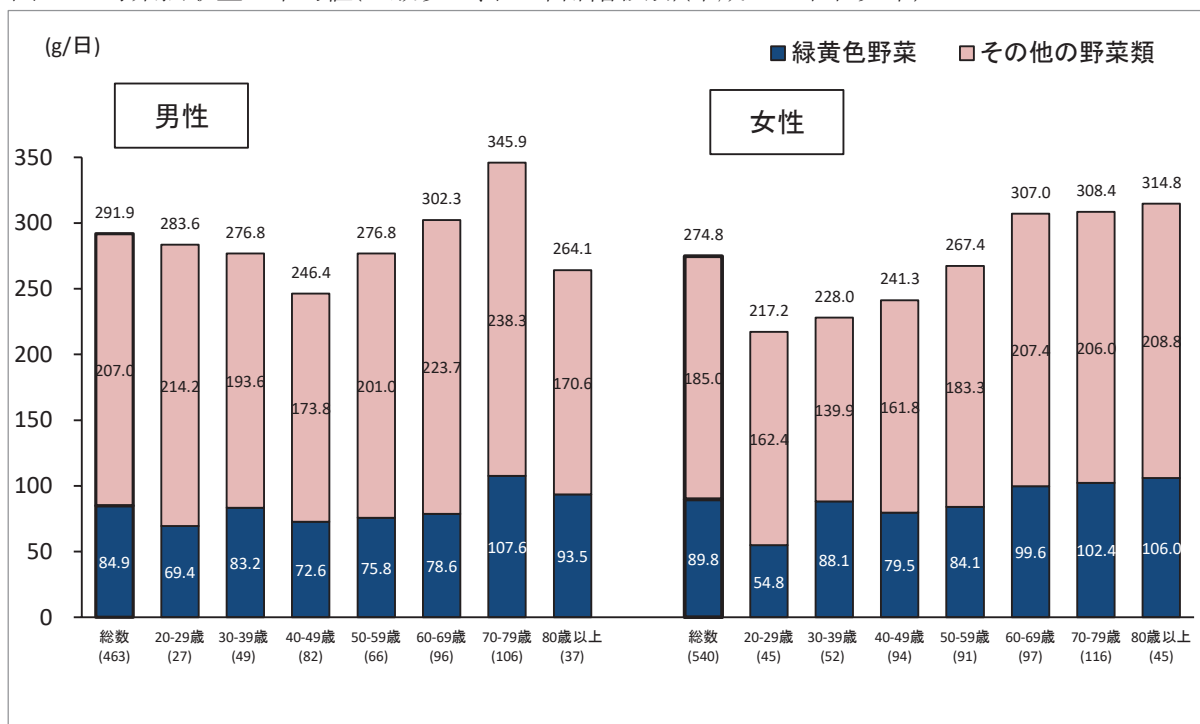


図30 野菜摂取量350g以上の者の割合(1日当たり、20歳以上、性・年齢階級別)(平成29～令和元年)

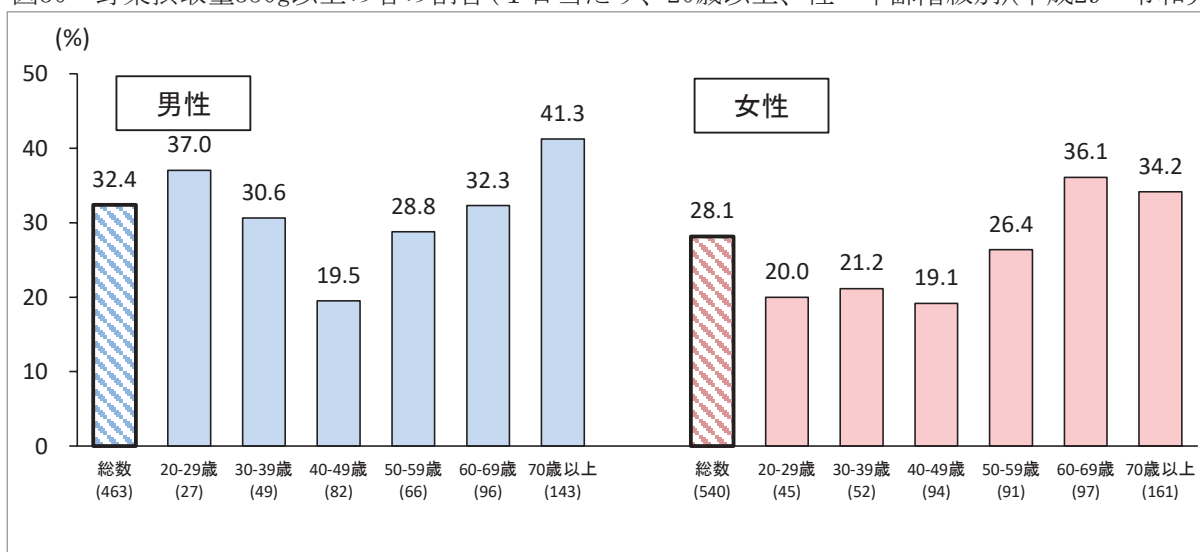


図31 野菜摂取量350g以上の者の割合の比較(1日当たり、20歳以上、年齢階級別)

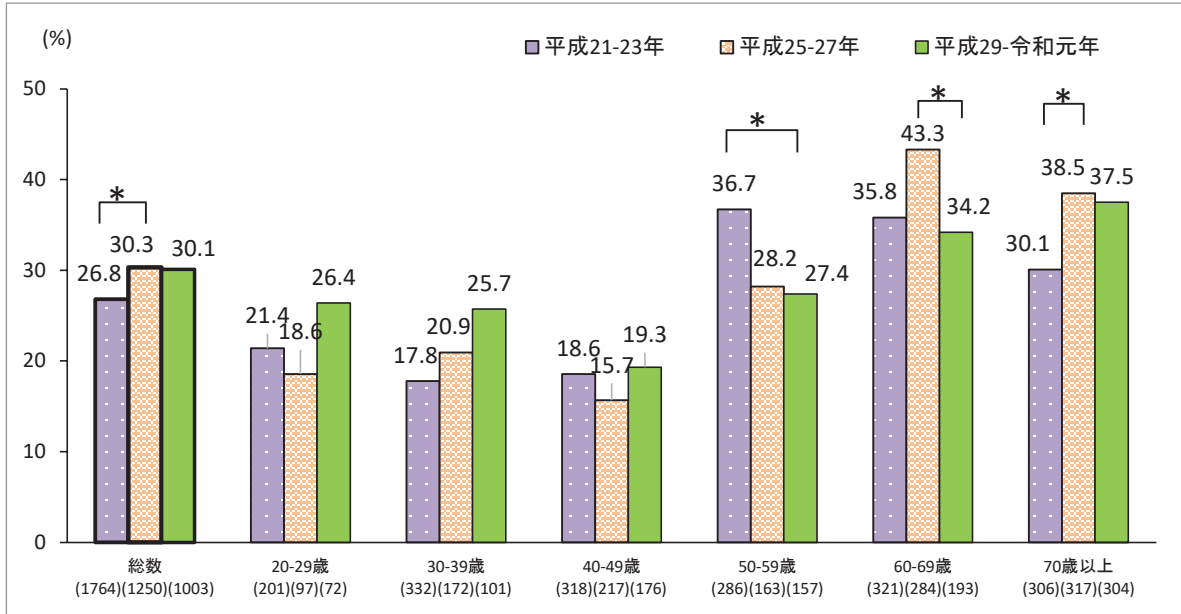
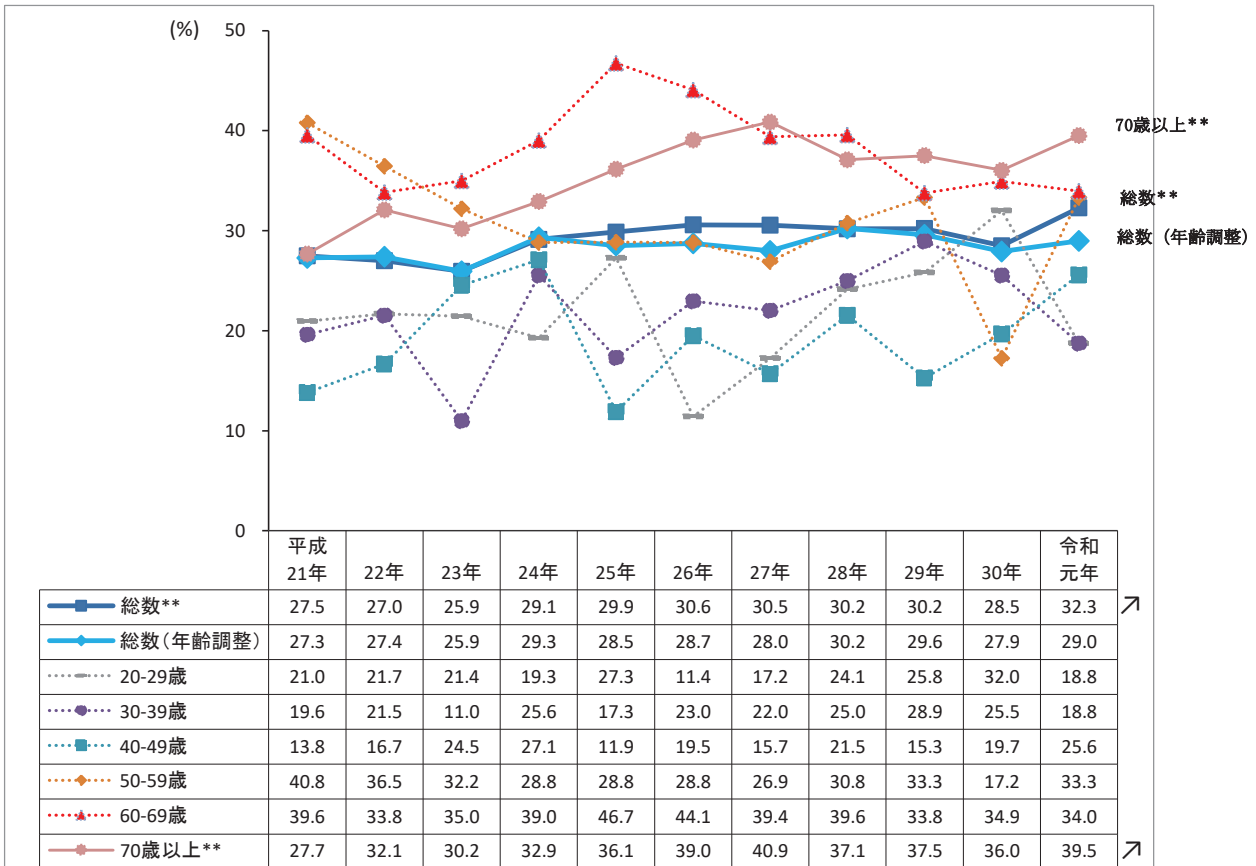


図32 野菜摂取量350g以上の者の割合の年次推移(1日当たり、20歳以上、年齢階級別)



「かながわ健康プラン21(第2次)」の目標  
 29 野菜1日摂取量350g以上の者の割合の増加  
 目標値: 45%

(参考)「健康日本21(第二次)」の目標  
 野菜の摂取量の増加  
 目標値: 野菜摂取量の平均値 350g

## (5) 果物摂取量の状況（ジャムを除く）

- ・果実類摂取量の平均値は、男性90.4g、女性113.5gであった。（図33）
- ・果実類摂取量100g未満の者の割合は、男性62.2%、女性52.6%であった。（図34）
- ・果実類の平均摂取量100g未満の者の割合は、平成21～23年調査と比較すると、50歳代及び60歳代で有意に増加し、総数及び70歳代で有意に減少していた。（図35）
- ・また、果実類の平均摂取量100g未満の者の割合は、平成21年からの年次推移においても、50歳代及び60歳代で有意に増加していた。（図36）

図33 果実類（ジャムを除く）摂取量の平均値(20歳以上、性・年齢階級別)(平成29～令和元年)

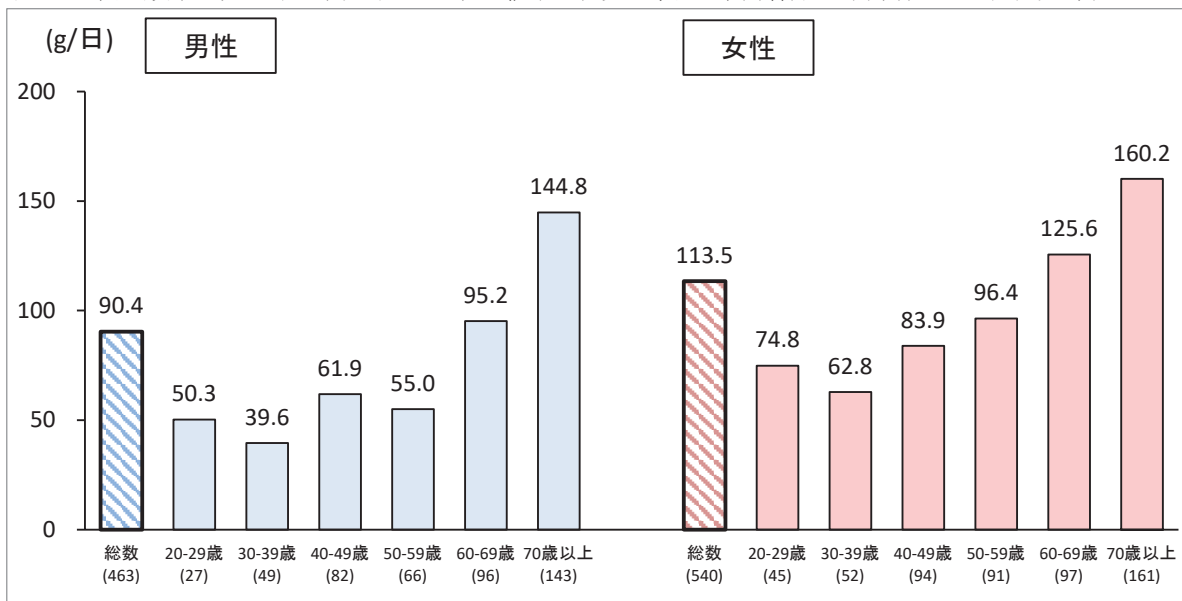


図34 果実類（ジャムを除く）摂取量100g未満の者の割合(1日当たり、20歳以上、性・年齢階級別)(平成29～令和元年)

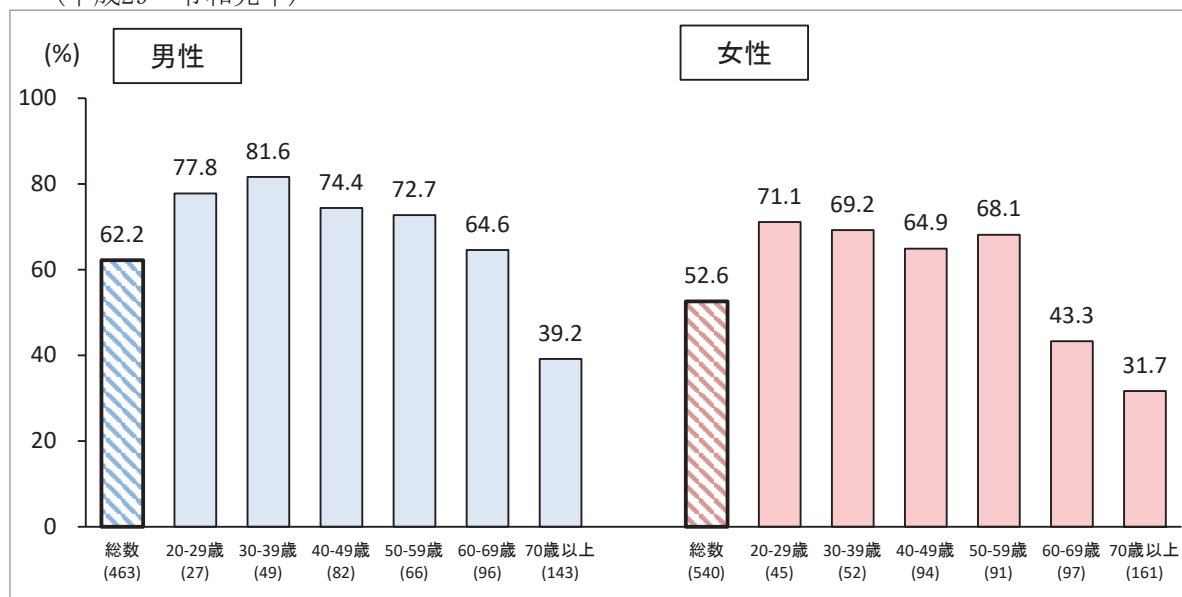


図35 果実類(ジャムを除く)摂取量100g未満の者の割合の比較(1日当たり、20歳以上、年齢階級別)

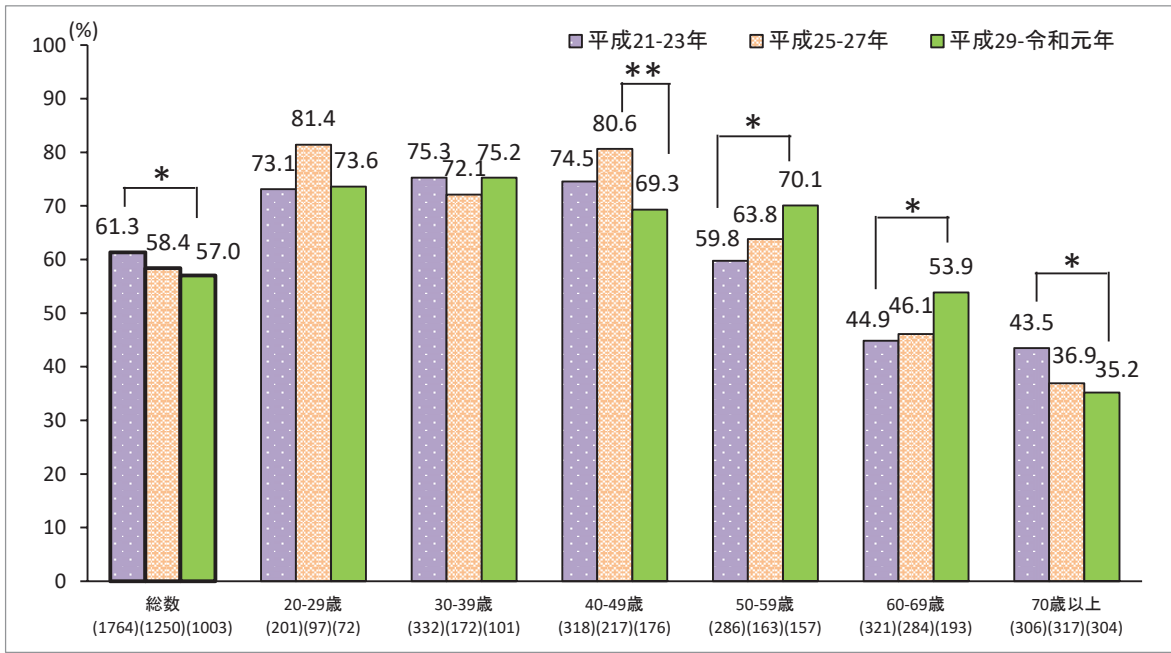
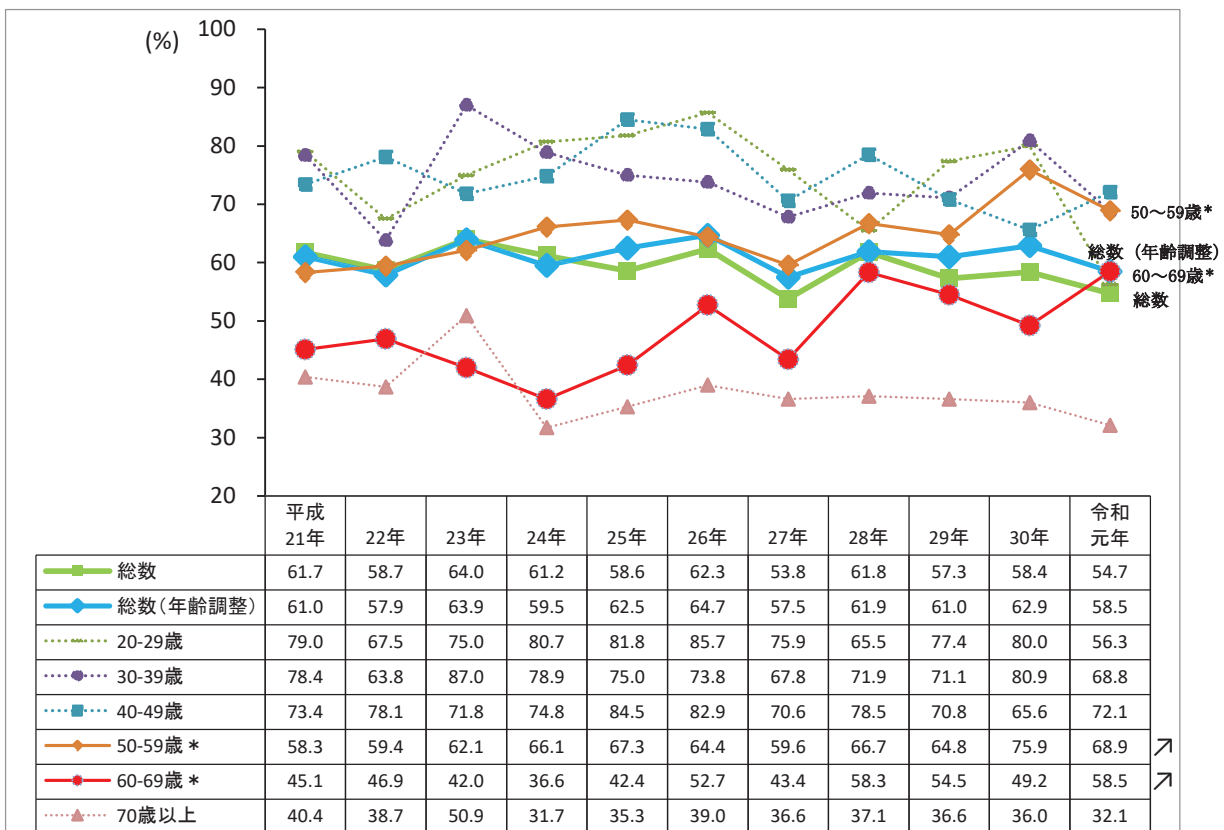


図36 果実類(ジャムを除く)摂取量100g未満の者の割合の年次推移(1日当たり、20歳以上、年齢階級別)



「かながわ健康プラン21(第2次)」の目標  
 30 果物1日摂取量が100g未満の者の割合の減少  
 目標値: 30%

## (6) 朝食の欠食に関する状況

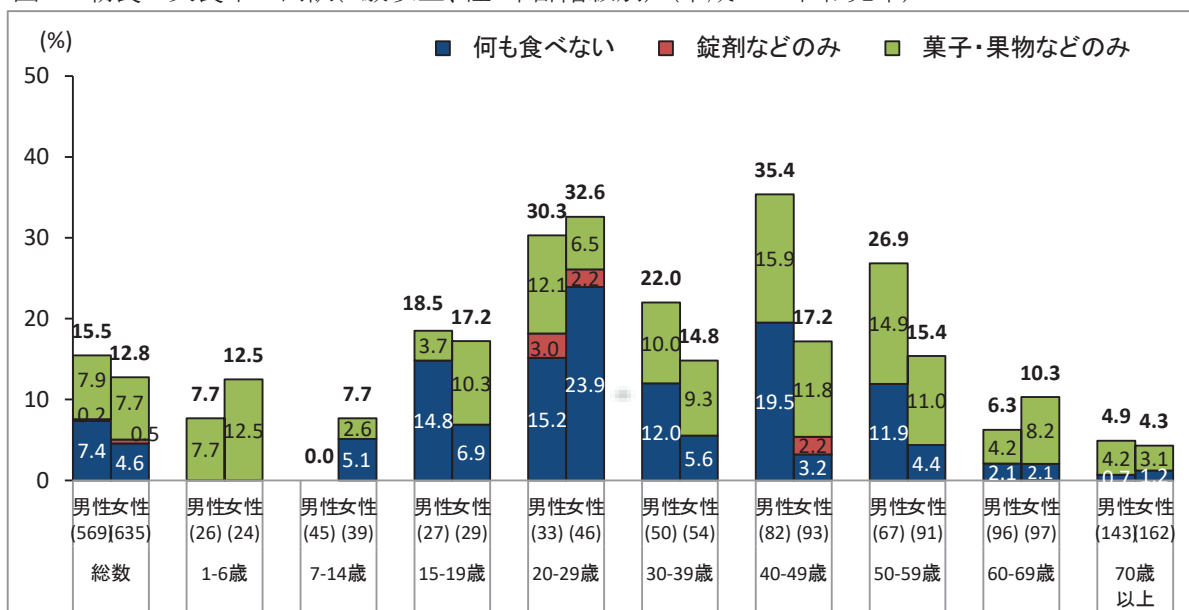
- ・朝食の欠食率※は、男性15.5%、女性12.8%であった。
- ・年齢階級別では、男性では40歳代が最も高く35.4%、女性では20歳代が32.6%と最も高かった。
- ・1～6歳の欠食内容は、男女共に菓子・果物などの食品のみを食べた場合であった。また、女性7～14歳の学齢期の欠食内容は、何も食べない、及び、菓子・果物などの食品のみを食べた場合であった。
- ・平成25～27年調査では、20歳代男性が最も高かったが、平成29～令和元年調査では、40歳代男性の欠食率が高かった。(図37)

### ※ 朝食の欠食率

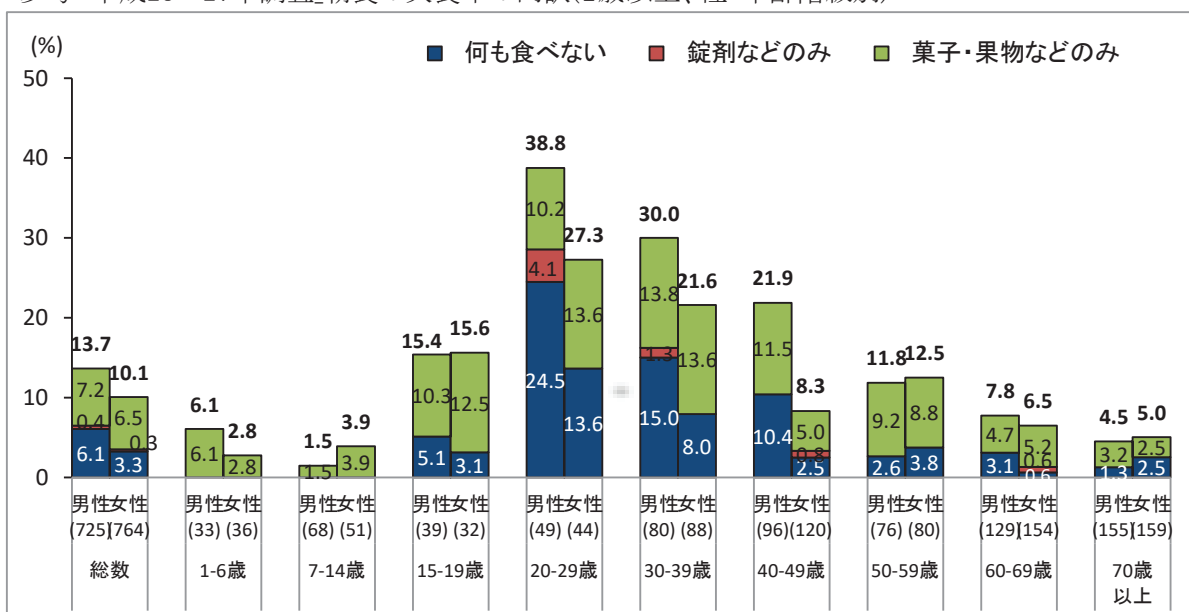
調査を実施した日(任意の1日)において朝食を欠食した者の割合。「欠食」とは、下記の3つの合計。

- ・食事をしなかった場合
- ・錠剤などによる栄養素の補給、栄養ドリンクのみの場合
- ・菓子、果物、乳製品、嗜好飲料などの食品のみを食べた場合

図37 朝食の欠食率の内訳(1歳以上、性・年齢階級別) (平成29～令和元年)



参考 平成25～27年調査\_朝食の欠食率の内訳(1歳以上、性・年齢階級別)





## (7) 主食・主菜・副菜の状況

- ・主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上食べることが、「ほとんど毎日ある」割合は、男性53.4%、女性58.4%であった。年齢階級別では、男性では30歳代、女性では20歳代が最も低かった。(図38)
- ・1日2回以上主食・主菜・副菜をそろえて食べる者の割合の年次推移では、「ほとんどない」と答えた者の割合が有意に増加していた。(図39)

図38 「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事1日2回以上の日」がほぼ毎日の者の割合(15歳以上)(性・年齢階級別)(平成29～令和元年)

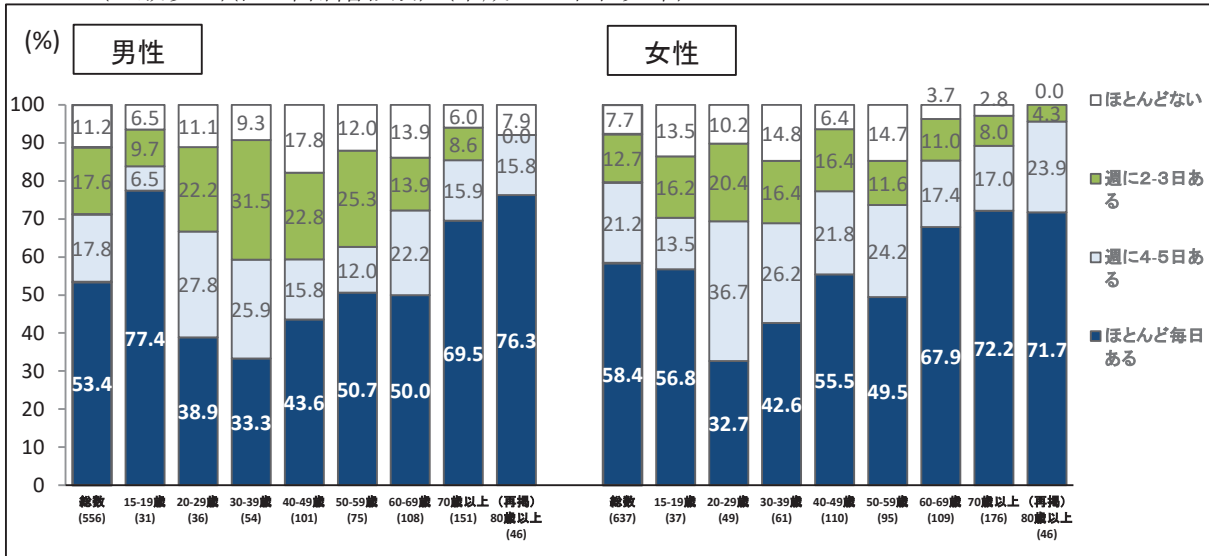
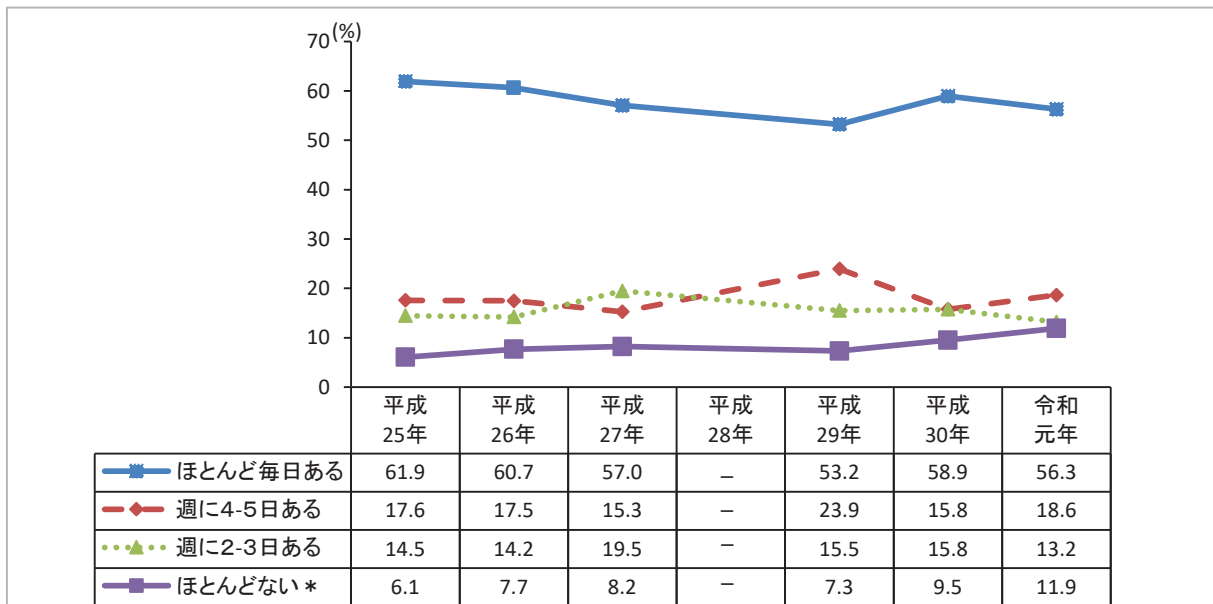


図39 1日2回以上主食・主菜・副菜をそろえて食べている者の割合の年次推移(15歳以上)



「かながわ健康プラン21(第2次)」の目標  
 27 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日  
 がほぼ毎日の者の割合の増加  
 目標値：80%

## (8) 脂肪エネルギー比率の状況

・エネルギー産生栄養素バランス※のうち、脂肪エネルギー比率（総エネルギー摂取量に占める脂肪から摂取するエネルギー量の割合）は、男性27.7%、女性29.9%であった。（図40）

※エネルギー産生栄養素バランスとは、

エネルギーを産生する栄養素である、たんぱく質、脂質、炭水化物とそれらの構成成分が総エネルギー摂取量に占めるべき割合（%エネルギー）としてこれらの構成比率を示したもの。

日本人の食事摂取基準2020年版では、エネルギー産生栄養素バランスのうち、脂質エネルギーの割合について20～30%（1歳以上、男女共通）を目標量としている。

図40 脂肪エネルギー比率の状況（1歳以上、性・年齢階級別）（平成29～令和元年）

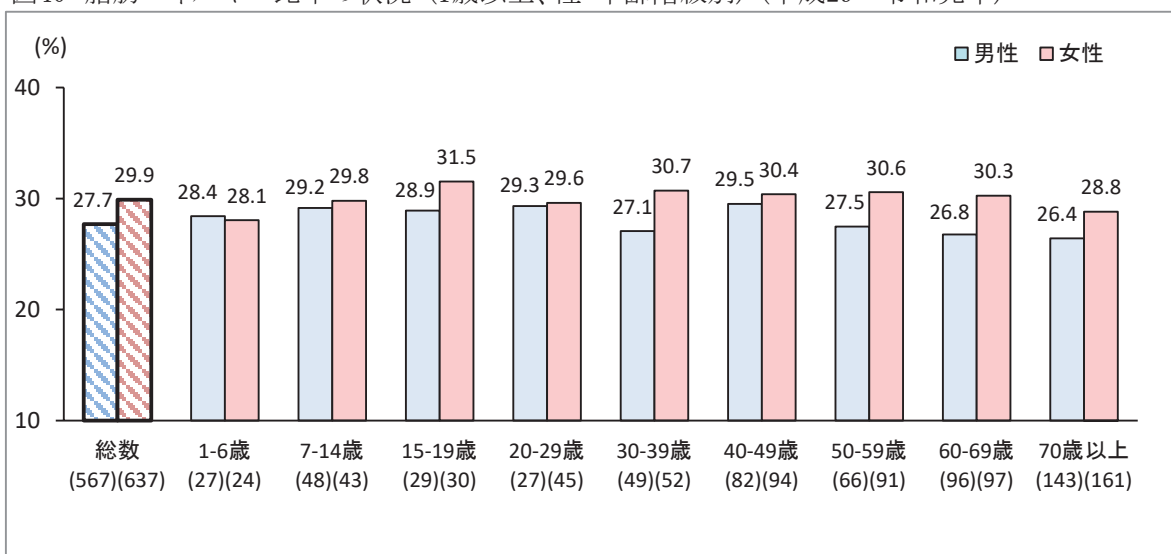
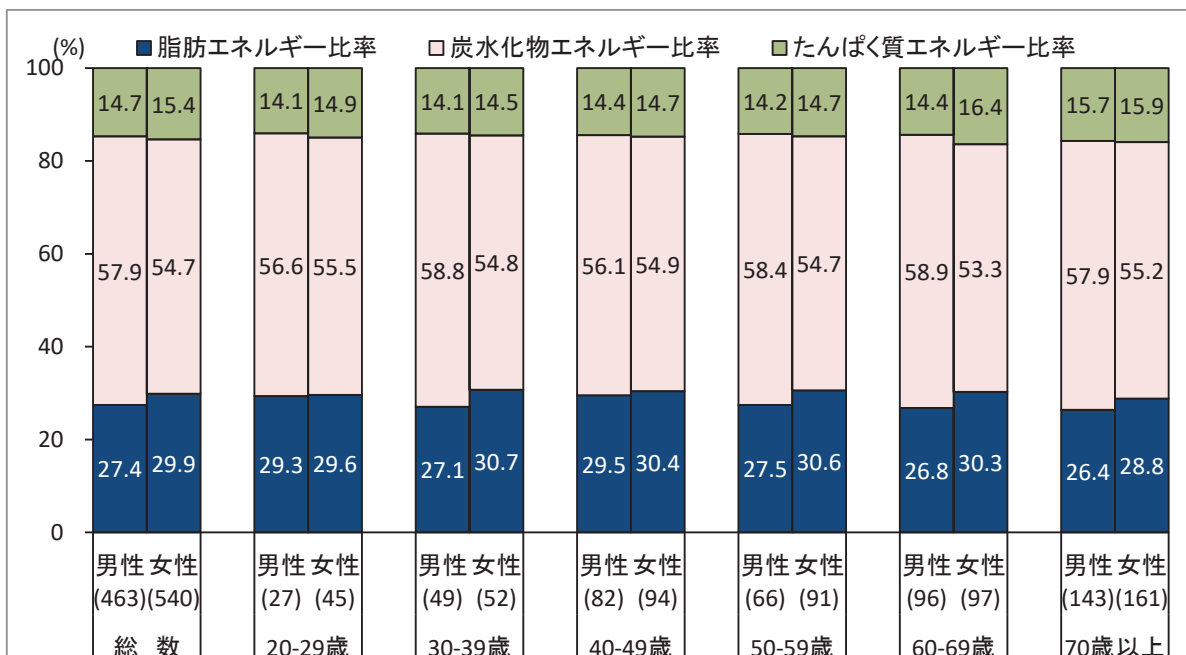


図41 摂取エネルギー構成比率(PFC比率)の状況（20歳以上、性・年齢階級別）（平成29～令和元年）



## 2 身体・運動・休養に関する状況

### (1) 肥満・やせ・低栄養傾向の状況

#### 肥満

- ・肥満者の割合は、男性27.0%、女性18.2%であった。(図42)
- ・平成21年からの年次推移では、60歳代の女性で肥満者の割合が有意に増加している。(図43)

#### やせ

- ・やせの者の割合は、男性2.8%、女性11.0%であった。年齢階級別にみると、男性では20歳代が9.1%、女性では30歳代が16.7%で最も多かった。女性の20歳代は14.7%であり平成21年からの年次推移では、有意な増減はなかった。(図44、45)

#### 低栄養傾向

- ・低栄養傾向の者(65歳以上高齢者でBMI $\leq$ 20)の割合は、男性9.7%、女性23.2%であり、男性より女性の方が大きい数値となっていた。(図46、47)

図42 肥満者(BMI $\geq$ 25kg/m<sup>2</sup>)の割合(20歳以上、性・年齢階級別)(平成29～令和元年)

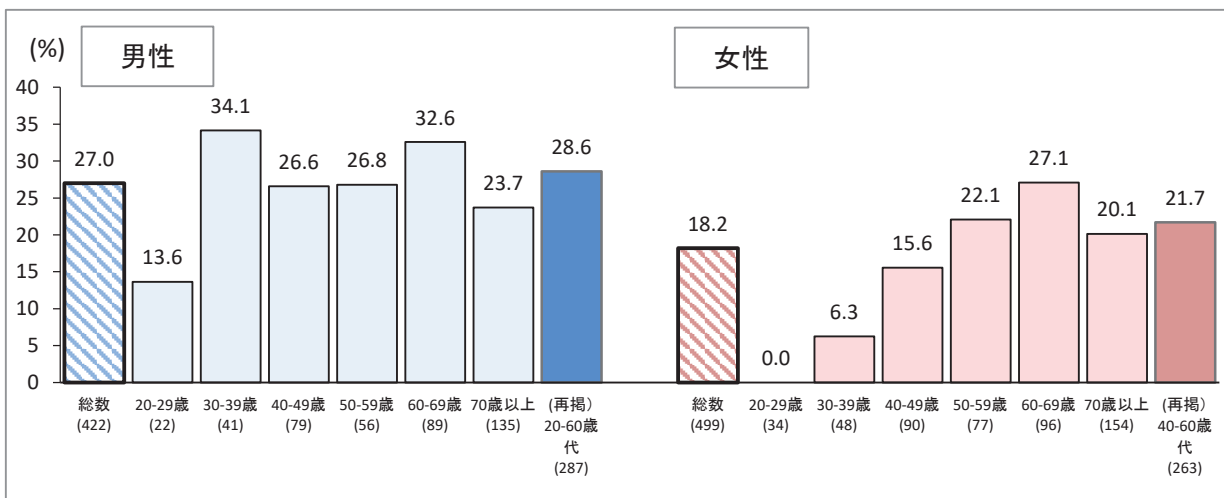
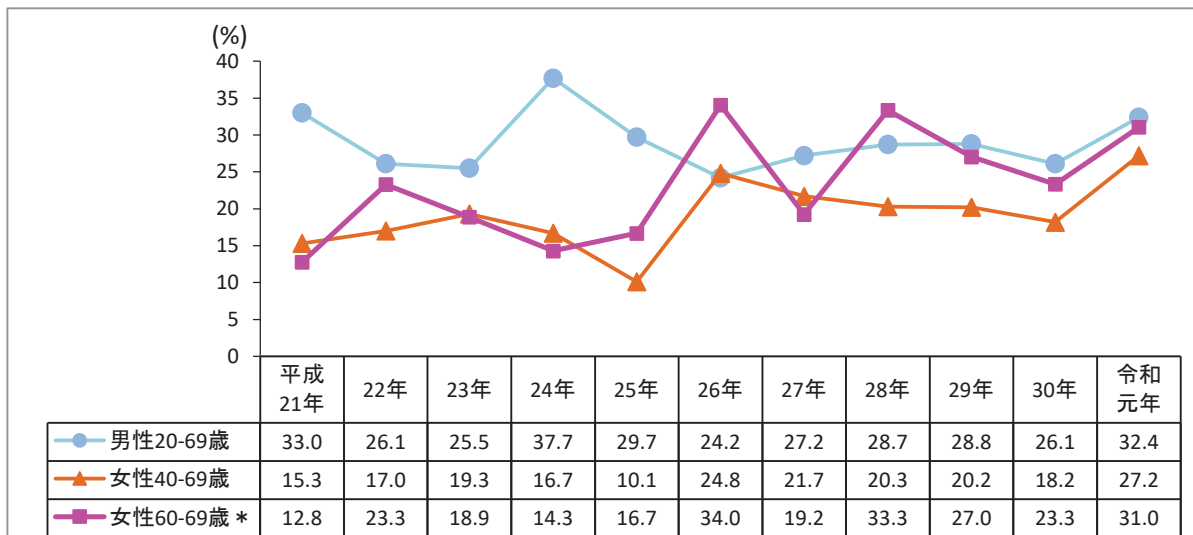


図43 肥満者(BMI $\geq$ 25kg/m<sup>2</sup>)の割合の年次推移(20歳以上、20～69歳男性、40～69歳女性)



「かながわ健康プラン21(第2次)」の目標

26 適正体重を維持している者の割合の増加

目標値: 20～60歳代 男性の肥満者の割合 25%

40～60歳代 女性の肥満者の割合 15%

図44 やせの者 (BMI < 18.5kg/m<sup>2</sup>) の割合 (20歳以上、性・年齢階級別) (平成29～令和元年)

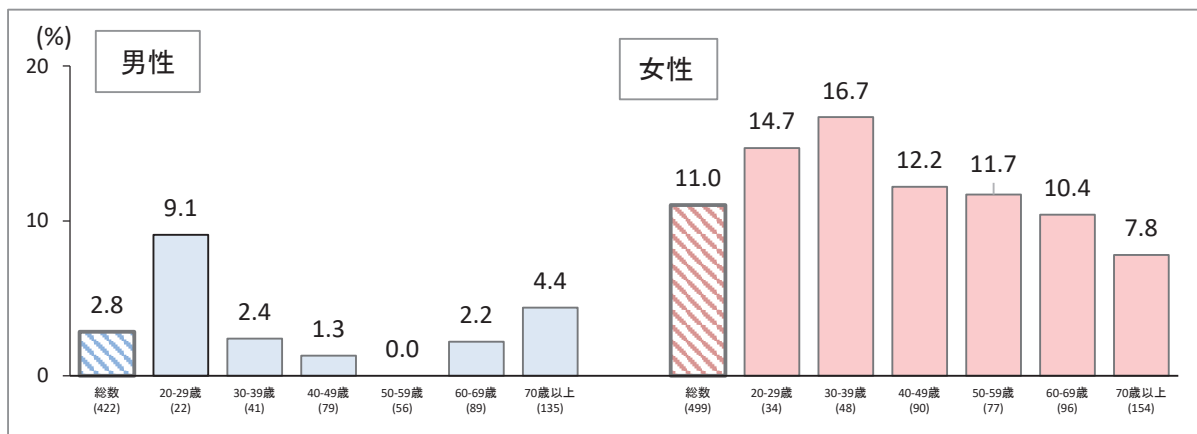
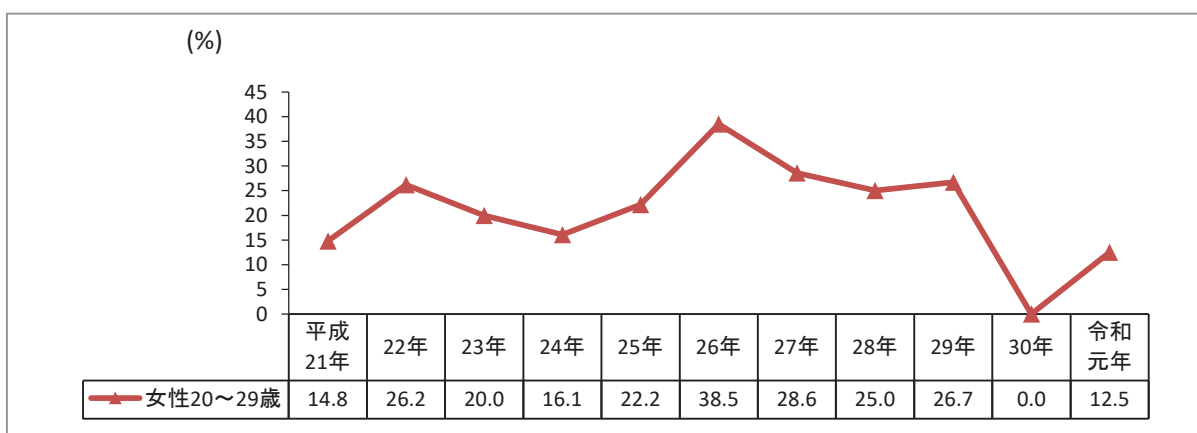


図45 やせの者 (BMI < 18.5kg/m<sup>2</sup>) の割合の年次推移 (20～29歳、性・年齢階級別)



「かながわ健康プラン21(第2次)」の目標  
 26 適正体重を維持している者の割合の増加  
 目標値: 20歳代 女性のやせの割合 20%

図46 低栄養傾向の者(BMI $\leq$ 20kg/m<sup>2</sup>)の割合(65歳以上、性・年齢階級別)(平成29～令和元年)

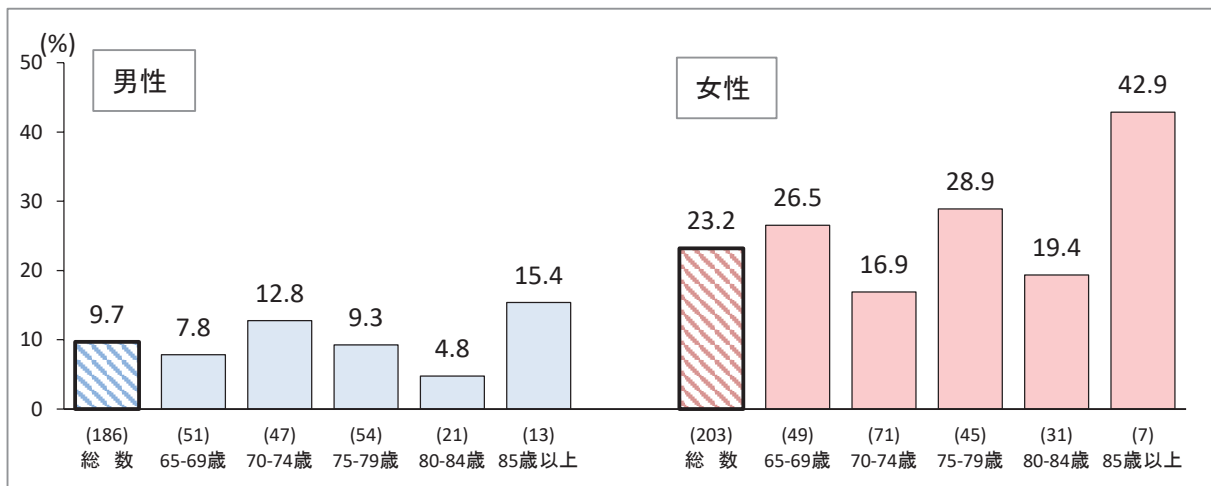
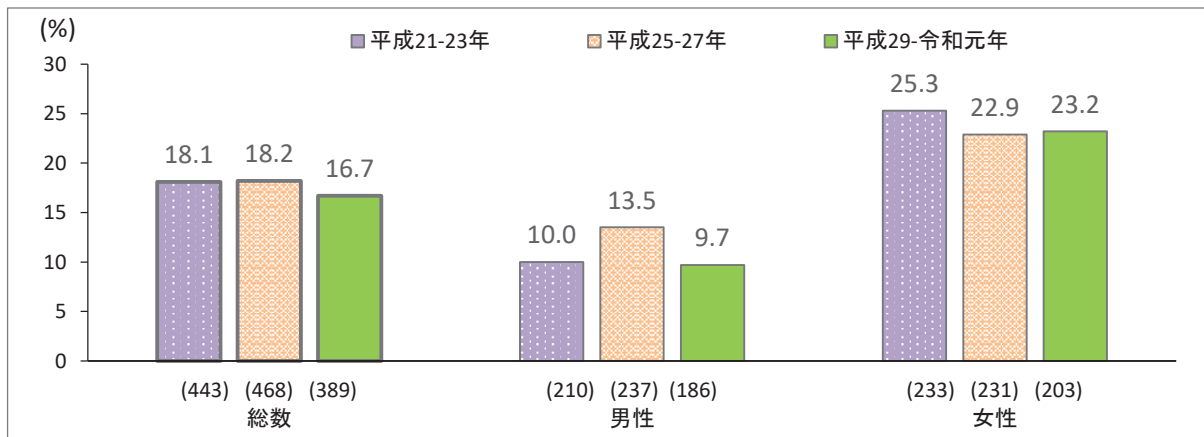


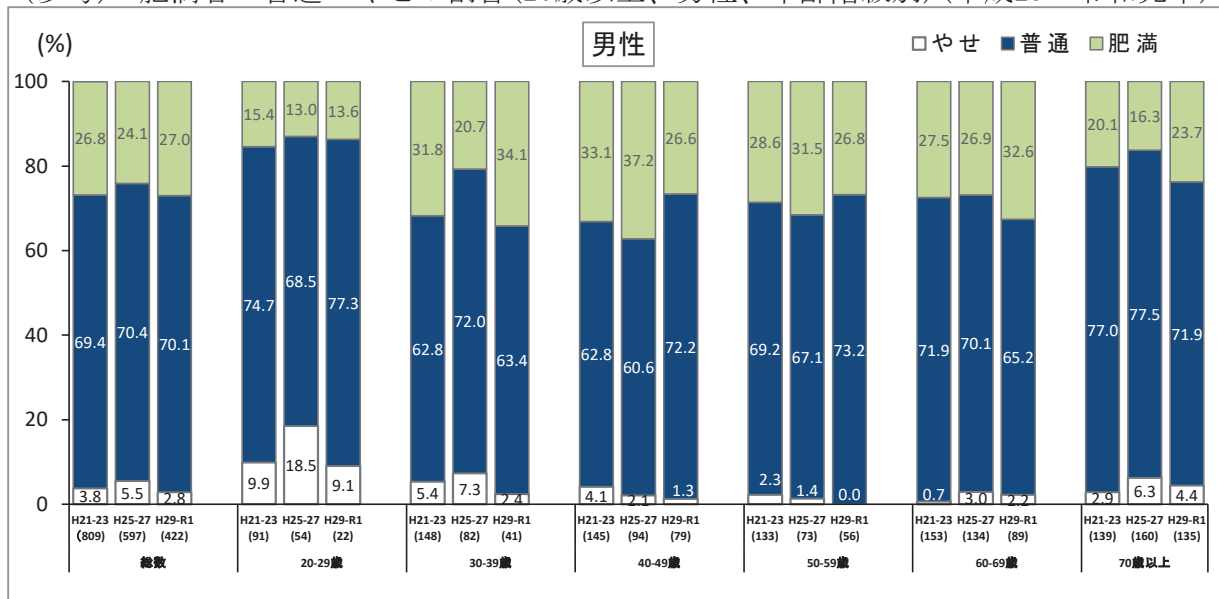
図47 低栄養傾向の者(BMI $\leq$ 20kg/m<sup>2</sup>)の割合(65歳以上、総数、性別)



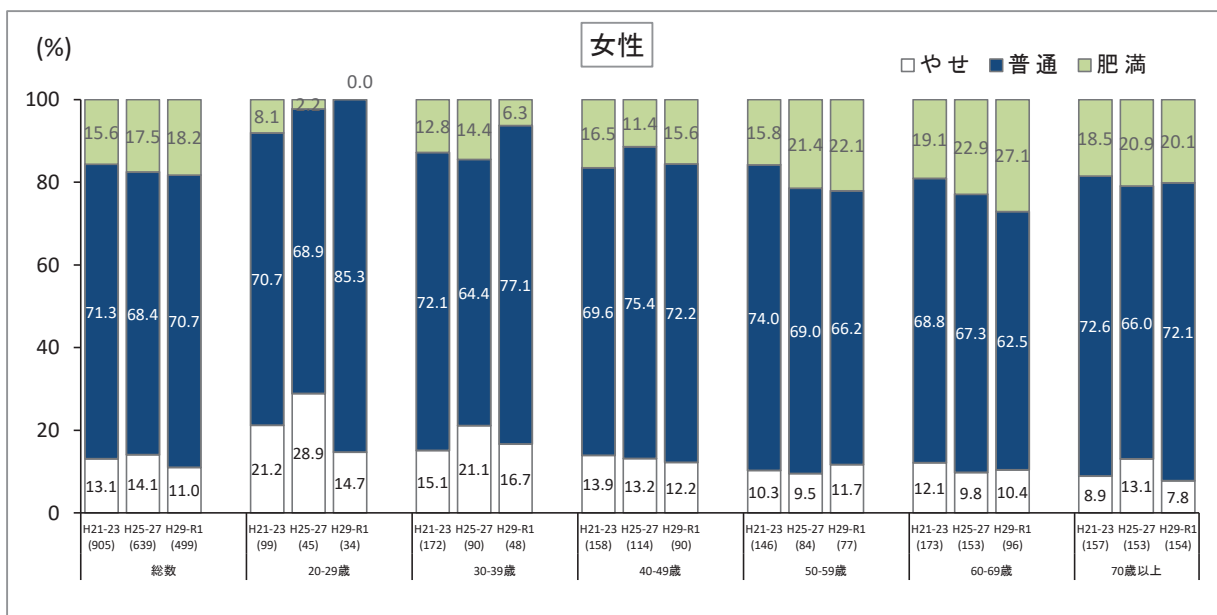
「かながわ健康プラン21(第2次)」の目標  
 23 低栄養傾向の高齢者の増加の抑制  
 目標値:22%

※上記目標については、NDB(レセプト情報・特定健診等データベース)により評価を実施。

(参考) 肥満者・普通・やせの割合(20歳以上、男性、年齢階級別)(平成29～令和元年)



(参考) 肥満者・普通・やせの割合(20歳以上、女性、年齢階級別)(平成29～令和元年)



## (2) 血圧の状況

- ・収縮期血圧の平均値は、男性が136.1mmHg、女性が129.3mmHgであった。(図48)
- ・平成21～23年調査と比較すると、70歳以上男性の収縮期血圧が有意に減少していた。(図49)
- ・平成21年からの年次推移では、正常血圧の割合が有意に増加していた。(図50)

図48 収縮期（最高）血圧の平均値（40歳以上、性別）

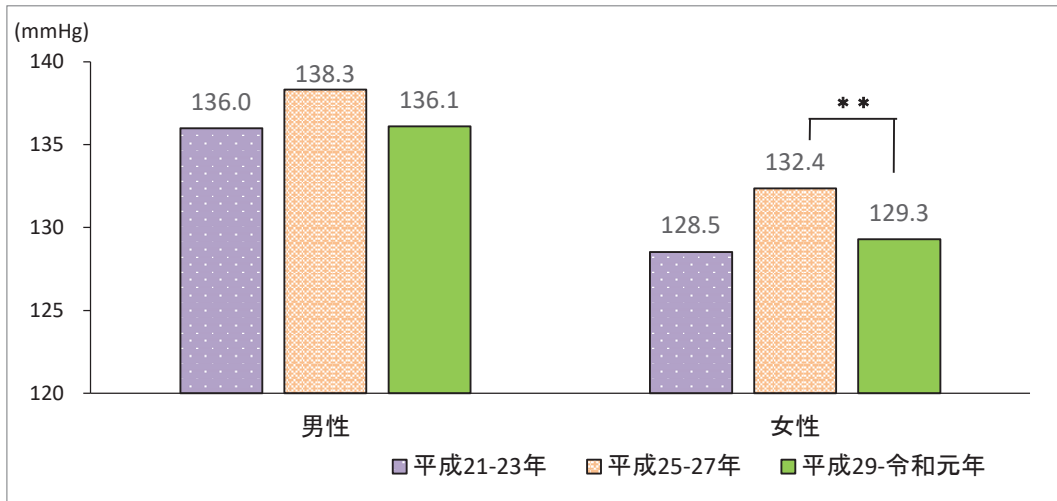
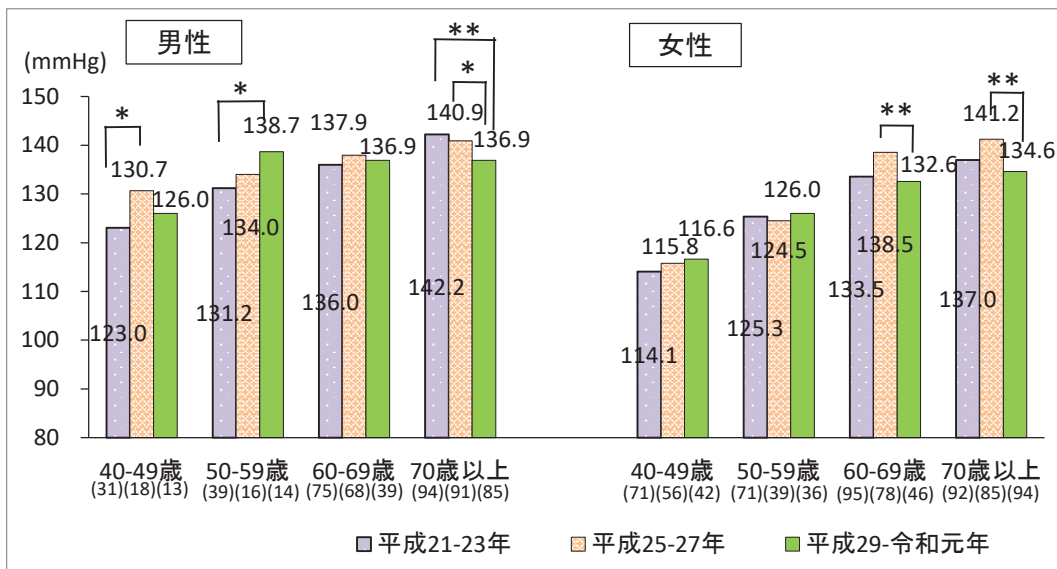


図49 収縮期（最高）血圧の平均値(40歳以上、性・年齢階級別)

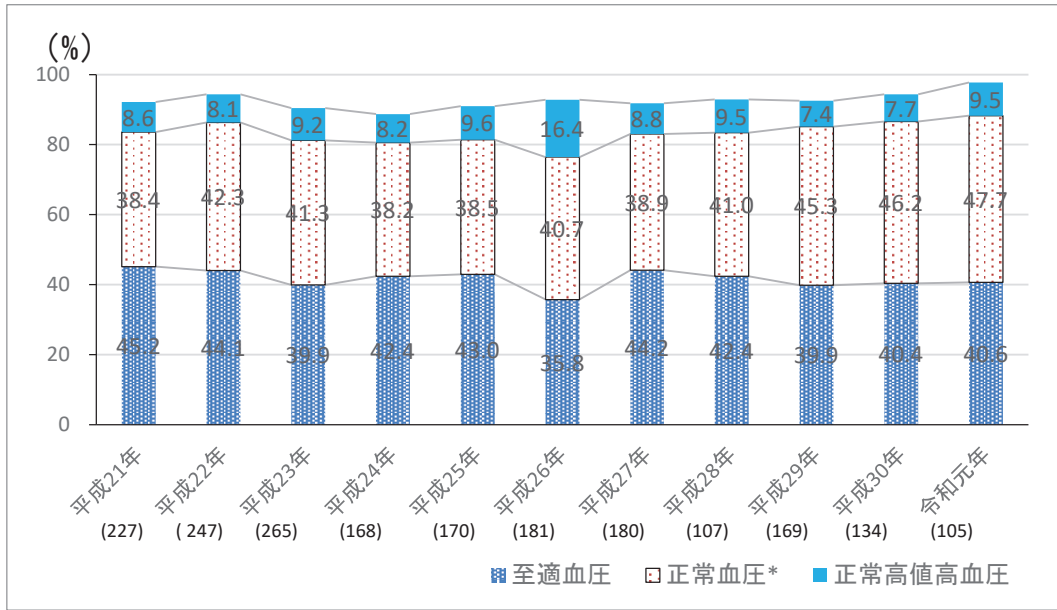


「かながわ健康プラン21(第2次)」の目標

6 高血圧の改善(平均収縮期血圧を下げる)

目標値: 男性 132mmHg、女性 124mmHg

図50 血圧の状況の年次推移 - 20歳以上、年齢調整値〔血圧を下げる薬の使用者含む〕

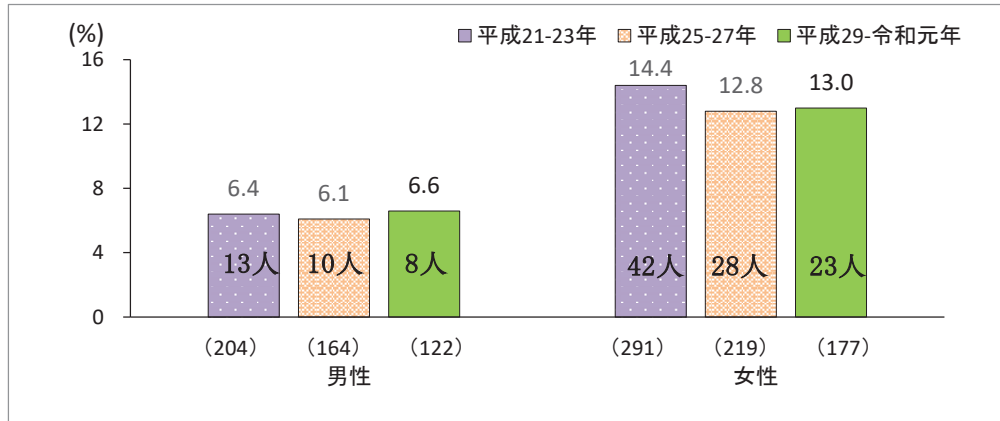




### (3) LDLコレステロールに関する状況

・血清LDLコレステロール160mg/dL以上の割合は、男性で6.6%、女性で13.0%であった。(図51)

図51 血清LDLコレステロール160mg/dL以上の割合(40~79歳 性別)



「かながわ健康プラン21(第2次)」の目標  
7 脂質異常症の減少(40歳~74歳)  
目標値: LDLコレステロール160mg/dL以上の割合  
男性 9%、女性 10%

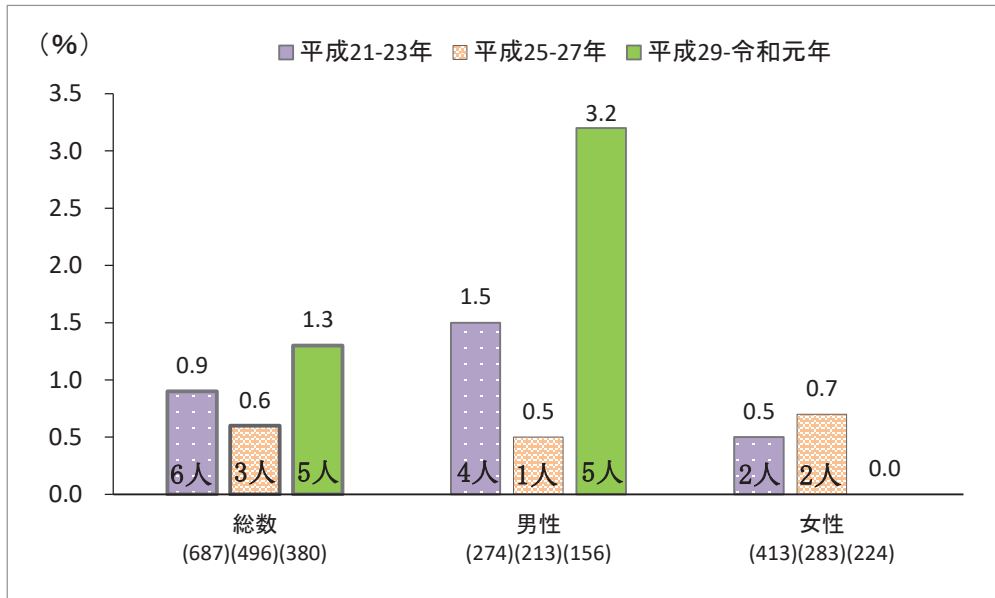
※上記目標については、NDB(レセプト情報・特定健診等データベース)により評価を実施。

## (4) 糖尿病に関する状況

・HbA1c(NGSP値)8.4%以上の者※の割合は、総数1.3%、男性3.2%、女性0%であった。(図52)

※「HbA1c(NGSP値)8.4%以上の者」とは、血糖コントロール指標におけるコントロール不良者

図52 HbA1c(NGSP値)8.4%以上の者の割合(20歳以上、性別)  
〔インスリン注射又は血糖を下げる薬の使用者含む〕



「かながわ健康プラン21(第2次)」の目標

8 血糖コントロール指標におけるコントロール不良者の割合の減少(HbA1cがNGSP値8.4%以上)の者の割合の減少(40~74歳)

目標値: 1.0%

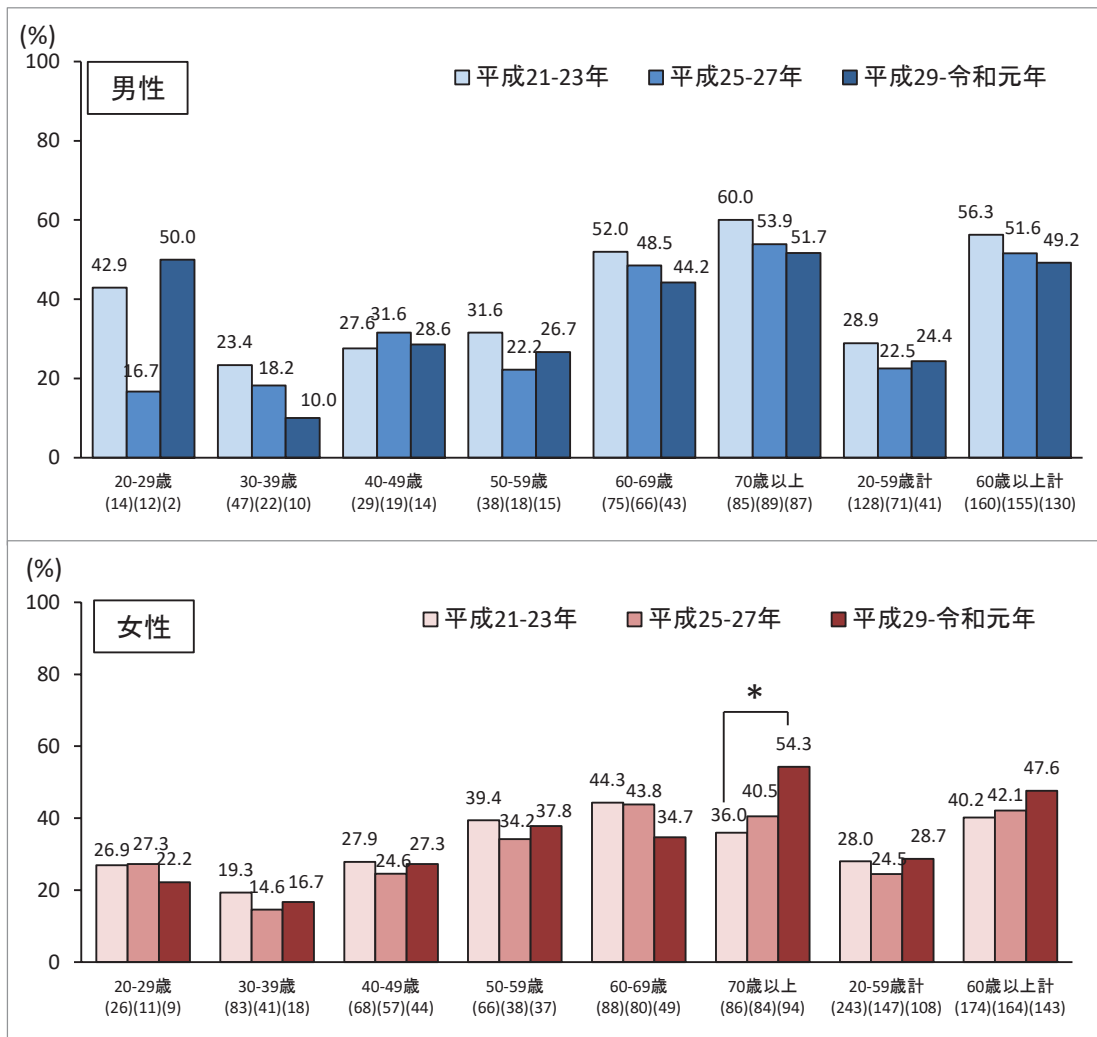
※上記目標については、NDB(レセプト情報・特定健診等データベース)により評価を実施。

## (5) 運動の状況

- ・運動習慣のある者※の割合は、20～59歳で男性24.4%、女性28.7%である。60歳以上で男性49.2%、女性47.6%であった。
- ・年齢階級別では、運動習慣のある者は男女とも30歳代で最も低く、男性10%、女性16.7%であった。
- ・平成21～23年調査と比較すると、運動習慣のある者の割合は女性70歳以上で有意に増加していた。(図53)
- ・平成21年からの年次推移では、20～59歳、60歳以上それぞれについて運動習慣のある者の割合に有意な増減はなかった。(図54、55)

※「運動習慣のある者」とは、1回30分以上の運動を週2回以上実施し、1年以上継続している者。

図53 運動習慣のある者の割合（20歳以上、性・年齢階級別）



「かながわ健康プラン21(第2次)」の目標

34 成人の運動習慣者(1回30分、週2回以上の運動を1年以上継続している者)の割合の増加

目標値: 20～59歳 男性 39%、20～59歳 女性 38%  
60歳以上 男性 66%、60歳以上 女性 50%

図54 運動習慣のある者（20歳～59歳）の割合の年次推移（性別）

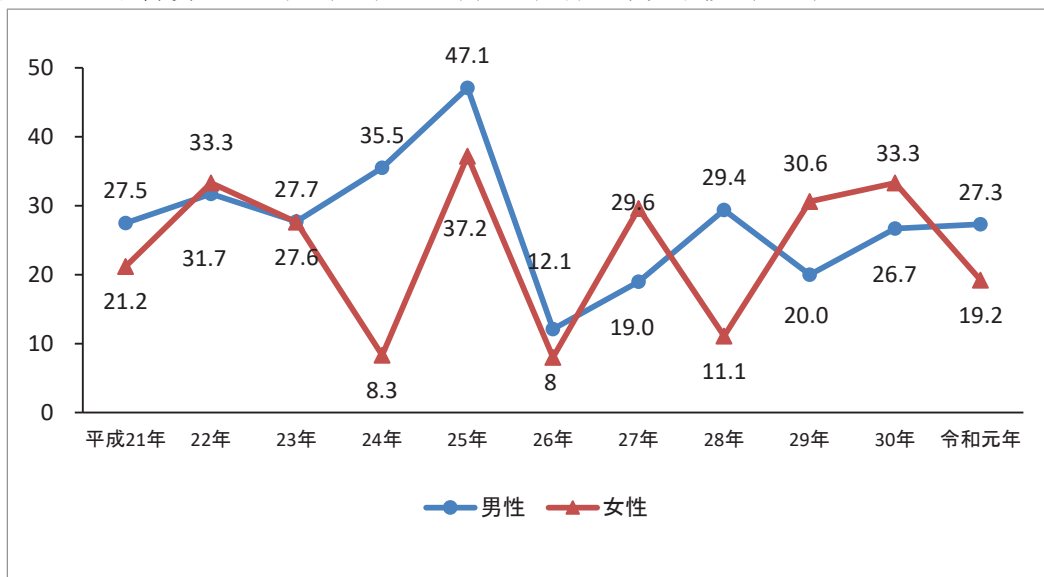
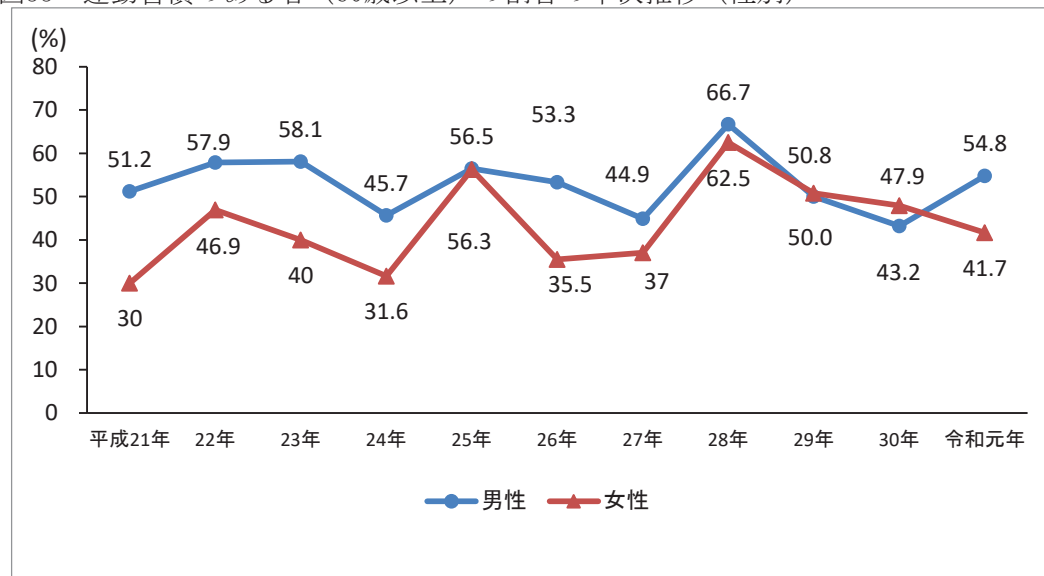


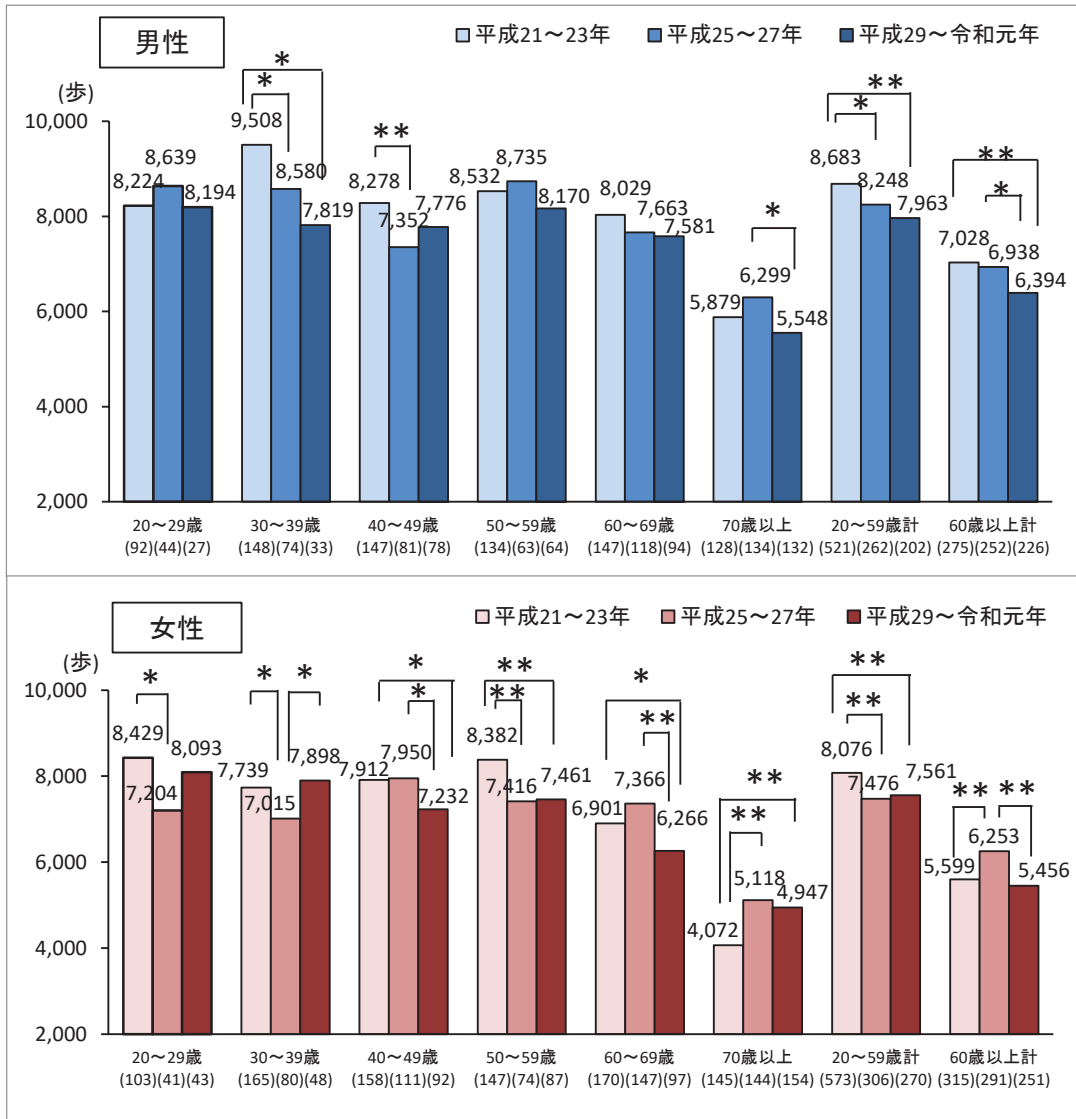
図55 運動習慣のある者（60歳以上）の割合の年次推移（性別）



## (6) 歩数の状況

- ・歩数の平均値は、男性20～59歳で7,963歩、女性20～59歳で7,561歩、男性60歳以上で6,394歩、女性60歳以上で5,456歩であった。
- ・平成21～23年調査と比較すると、歩数の平均値は30歳代及び60歳以上男性、40歳代、50歳代及び60歳代女性で有意に減少していた。70歳以上の女性は、有意に増加していた。(図56)

図56 歩数の平均値 (20歳以上、性・年齢階級別)



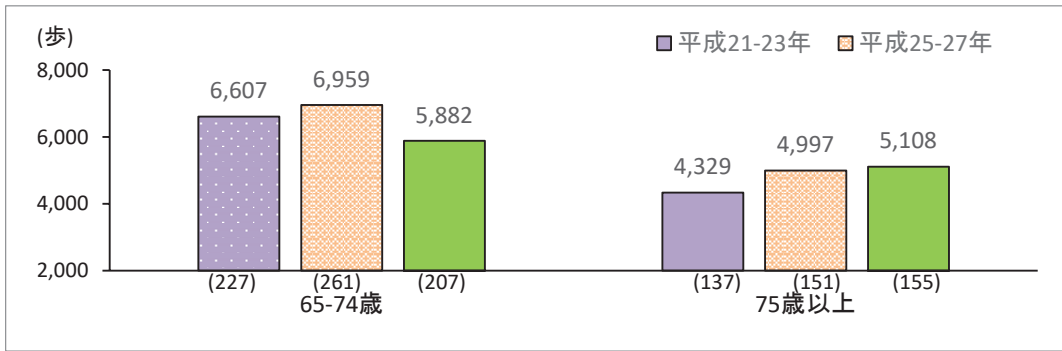
「かながわ健康プラン21(第2次)」の目標

33 成人の日常における歩数の増加

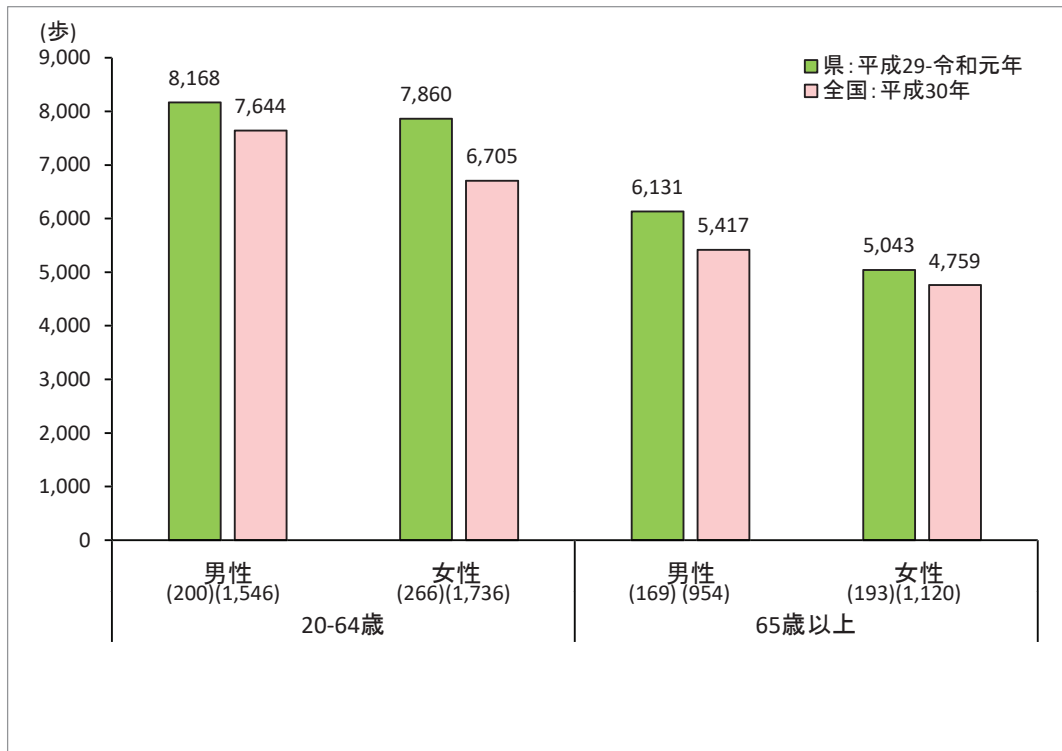
目標値: 20～59歳 男性 9,500歩、女性 9,000歩

60歳以上 男性 8,000歩、女性 6,500歩

図57 高齢者の歩数の状況（65～74歳、75歳以上）



(参考) 国民健康・栄養調査全国歩数の平均値との比較（20～64歳、65歳以上）



(参考)「健康日本21(第二次)」の目標

日常生活における歩数の増加

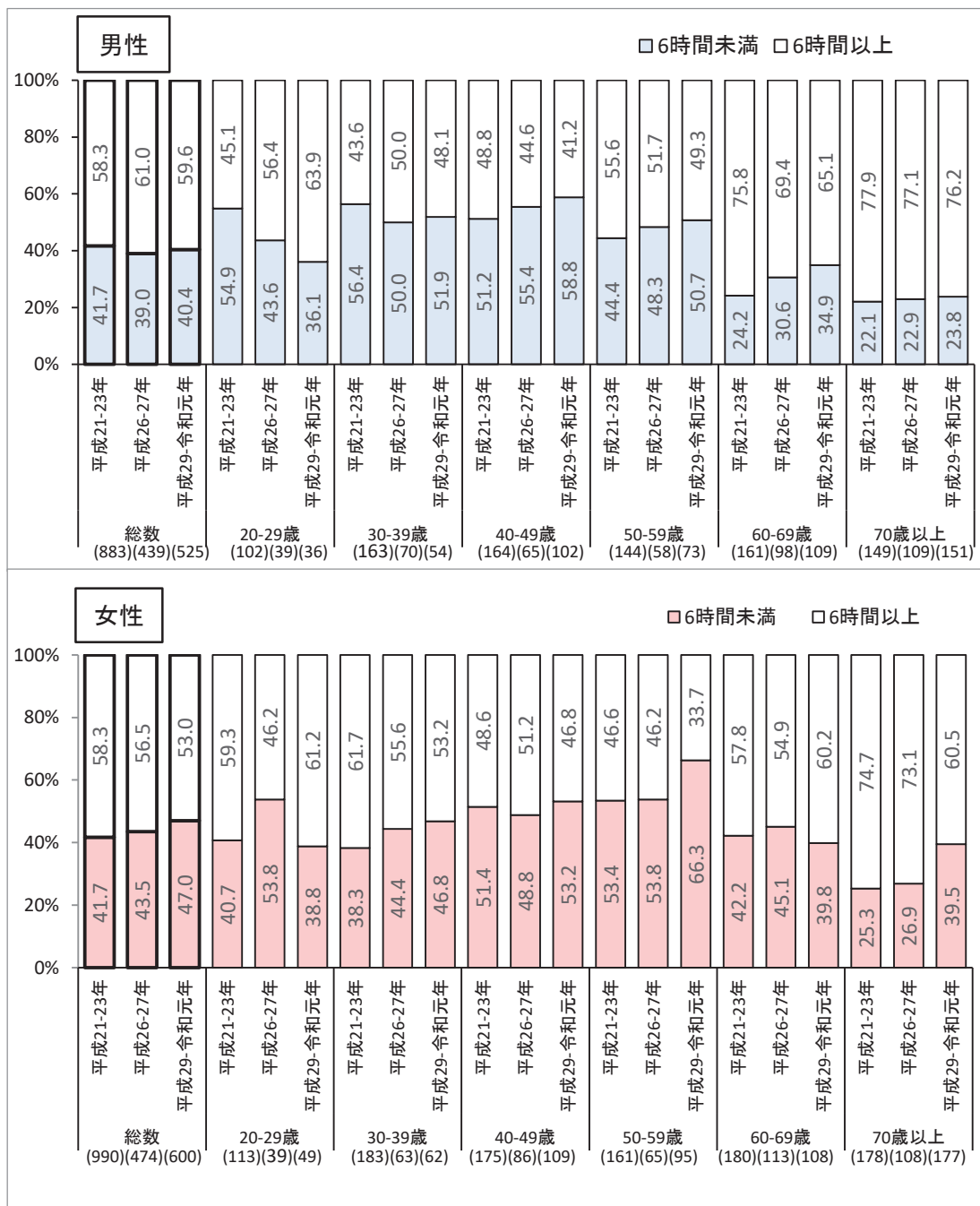
目標値: 20～64歳 男性 9,000歩、女性 8,500歩

65歳以上 男性 7,000歩、女性 6,000歩

## (7) 睡眠時間の状況

- ・1日の平均睡眠時間は、男性で6時間以上が59.6%、女性で6時間以上が53.0%であった。
- ・睡眠時間6時間未満の者の割合は、男性では30歳代、40歳代及び50歳代で、女性では40歳代と50歳代で50%以上であった。(図58)

図58 1日の平均睡眠時間(20歳以上、性・年齢階級別)



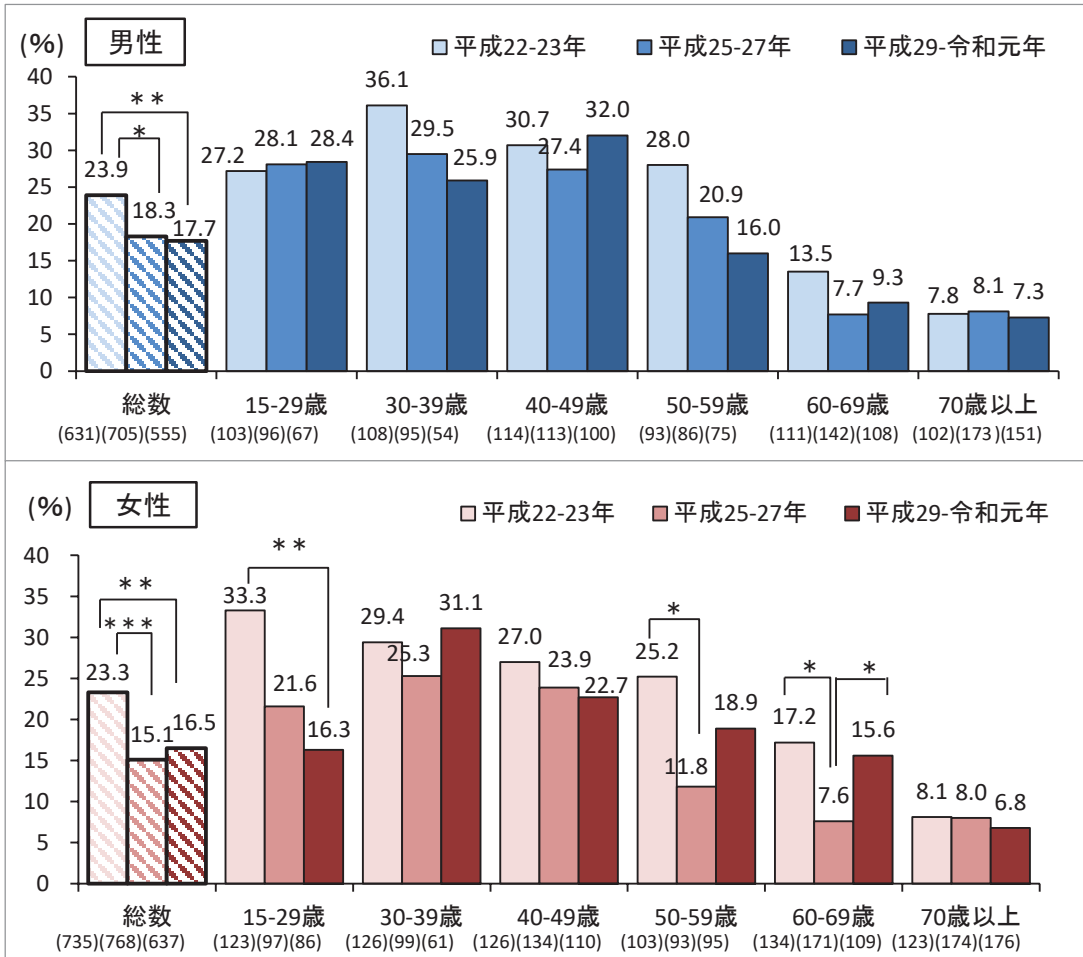
(参考)

「健康づくりのための睡眠指針2014」において、個人差はあるものの、必要な睡眠時間は6時間以上8時間未満あたりが妥当であると記載されている。

## (8) 睡眠の状況

- ・目覚めた時に疲労感が残る者の割合は、男性17.7%、女性16.5%であった。
- ・目覚めた時に疲労感が残る者の割合で最も多いのは、男性では40歳代で32.0%、女性では30歳代で31.1%であった。
- ・平成21～23年調査と比較すると、男性総数と女性総数で有意に減少していた。(図59)

図59 目覚めた時に疲労感が残る人の割合(15歳以上、性・年齢階級別)



「かながわ健康プラン21(第2次)」の目標

35 目覚めた時に疲労感が残る者の割合の減少(15歳以上)

目標値: 男性20%以下、女性20%以下



### 3 飲酒・喫煙に関する状況

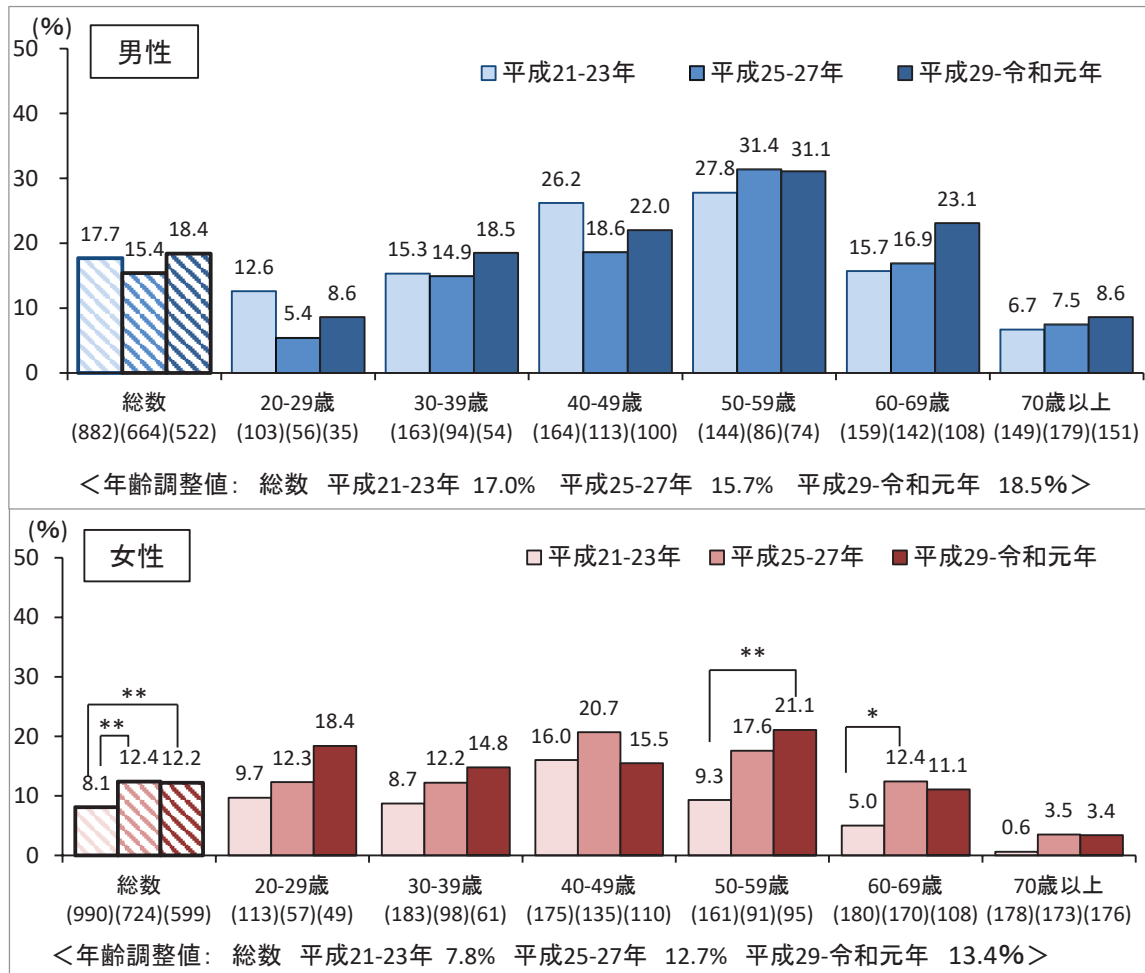
#### (1) 飲酒習慣

- ・生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者※の割合は、男性18.4%、女性12.2%であった。
- ・平成21～23年調査と比較すると、生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合は、女性は総数と50歳代で有意に増加していた。
- ・年齢調整した生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合は、男性は18.5%、女性では13.4%であった。(図60)

※「生活習慣病のリスクを高める量を飲んでる者」とは、1日当たりの純アルコール摂取量が男性で40g以上、女性20g以上の者とし、以下の方法で算出。

- ①男性:「毎日×2合以上」+「週5～6日×2合以上」+「週3～4日×3合以上」+「週1～2日×5合以上」+「月1～3日×5合以上」  
 ②女性:「毎日×1合以上」+「週5～6日×1合以上」+「週3～4日×1合以上」+「週1～2日×3合以上」

図60 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の状況(20歳以上 性・年齢階級別、年齢調整)

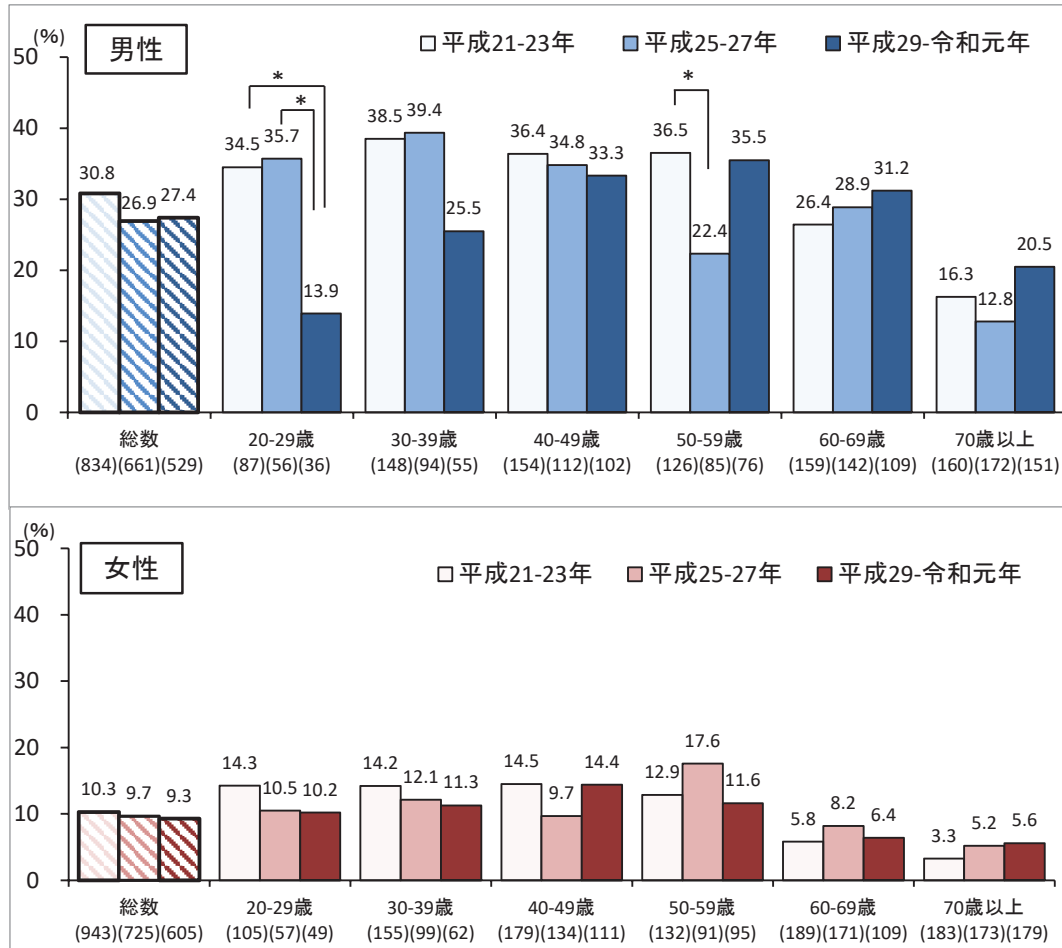


「かながわ健康プラン21(第2次)」の目標  
 37 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者(成人1日当たりアルコール摂取量 男性40g以上、女性20g以上の者)の割合の減少  
 目標値: 男性 15%、女性 7%

## (2) 喫煙の状況

- ・現在習慣的に喫煙している者※の割合は、男性が27.4%、女性が9.3%であった。(図61)
- ・平成21年からの年次推移では、男性の20歳代が有意に減少していた。(図62)

図61 現在習慣的に喫煙している者の割合（20歳以上、性・年齢階級別）

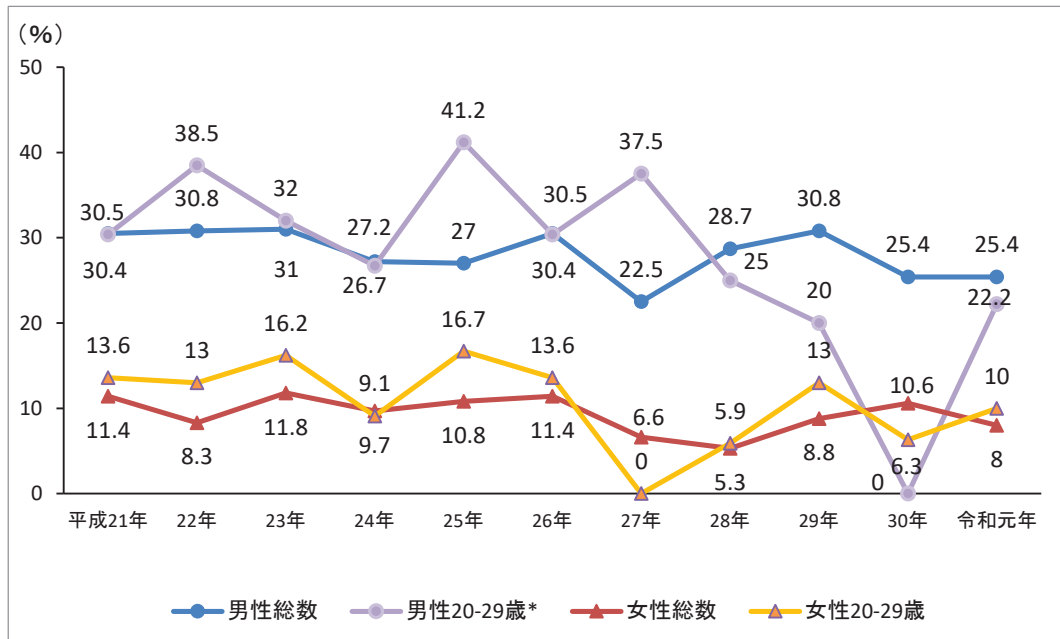


※「現在習慣的に喫煙している者」とは、たばこを「毎日吸っている」又は「時々吸う日がある」と回答した者。なお、平成24年度までは、これまでたばこを習慣的に吸っていたことがある者\*のうち、「この1か月に毎日又は時々たばこを吸っている」と回答した者。

\*平成21年、22年は、合計100本以上又は6か月以上たばこを吸っている(吸っていた)者

「かながわ健康プラン21(第2次)」の目標  
 40 成人の喫煙率  
 目標値：男性 30.8%、女性 8.3%

図62 現在習慣的に喫煙している者の割合（20歳以上、性別・総数、20～29歳）



### (3) 未成年者の飲酒・喫煙状況

・未成年者の飲酒者の割合は、総数14.9%、男性16.1%、女性13.9%であった。(図63)

・未成年者の喫煙者の割合は、総数1.5%、男性3.2%、女性0%であった。(図64)

図63 未成年者の飲酒習慣の状況(15～20歳未満 性別)

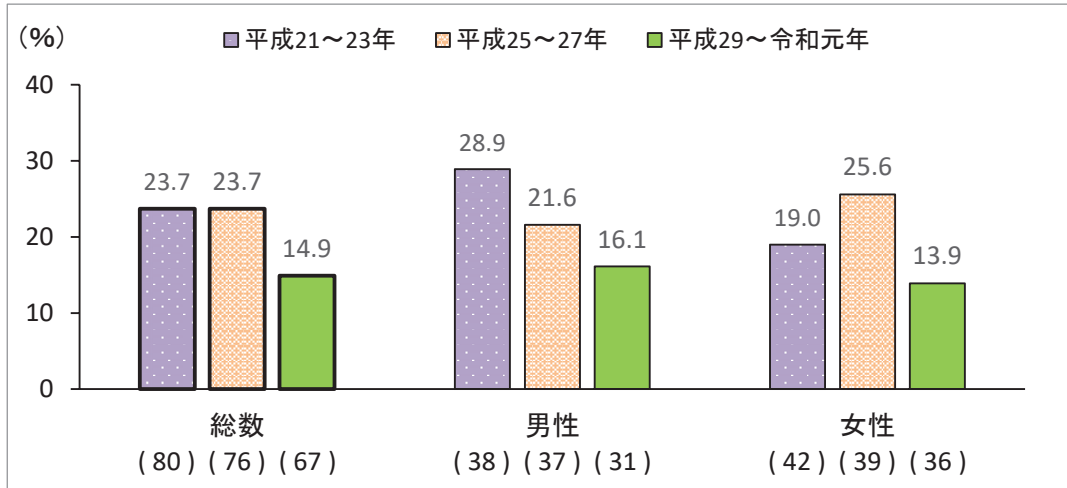
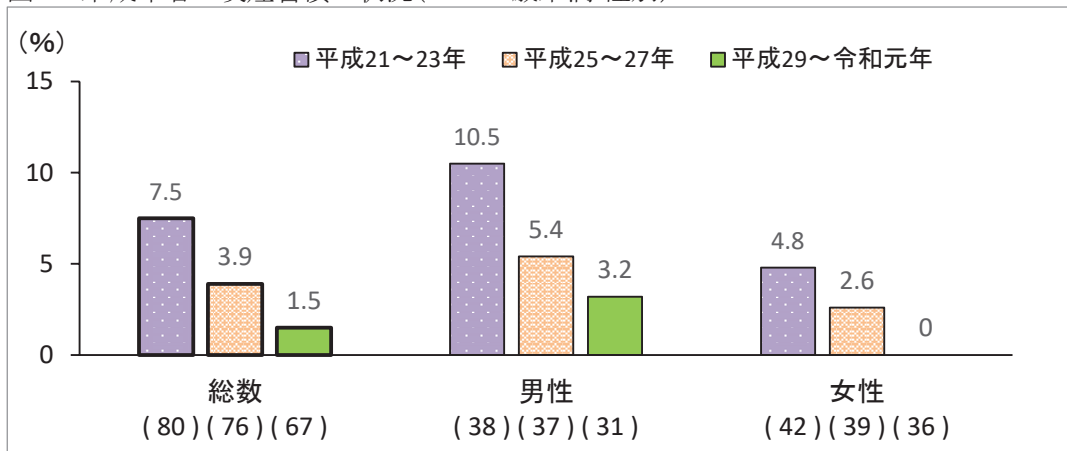


図64 未成年者の喫煙習慣の状況(15～20歳未満 性別)



「かながわ健康プラン21(第2次)」の目標

38 未成年者(15～20歳未満)の飲酒割合  
目標値: 男性、女性ともに 0%

41 未成年者(15～20歳未満)の喫煙割合  
目標値: 男性、女性ともに 0%

## 4 歯の健康に関する状況

### (1) 歯の本数の状況

- ・自分の歯が20本以上ある者（20歳以上）の割合は、男性で79.2%、女性で84.3%であった。（図65）
- ・80歳（75～84歳）で20本以上の自分の歯を有する者の割合は、平成21～23年と比較すると総数、男性、女性すべてにおいて有意に増加していた。（図66）

図65 20本以上自分の歯を有する者の状況（20歳以上、性・年齢階級別）

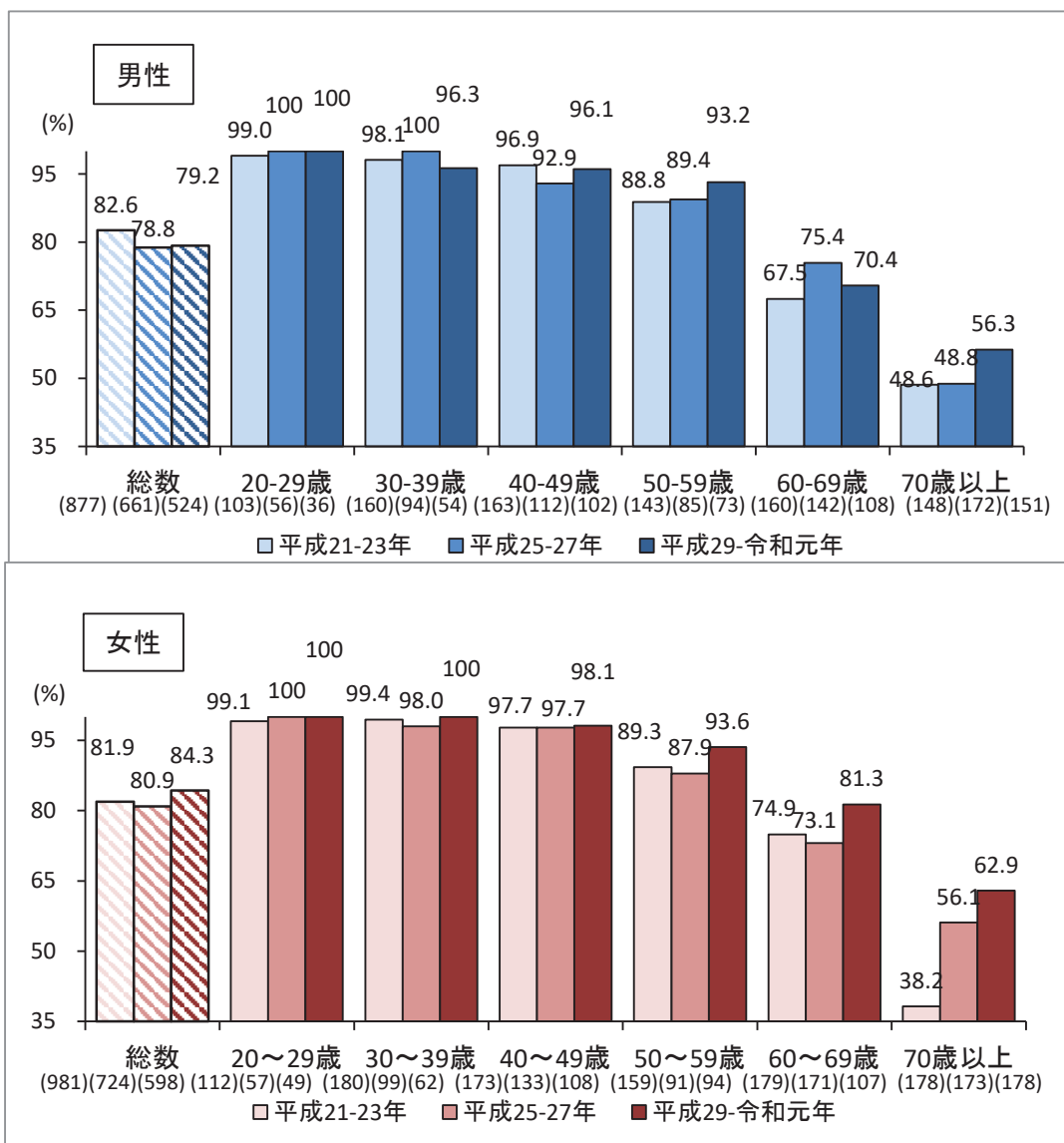
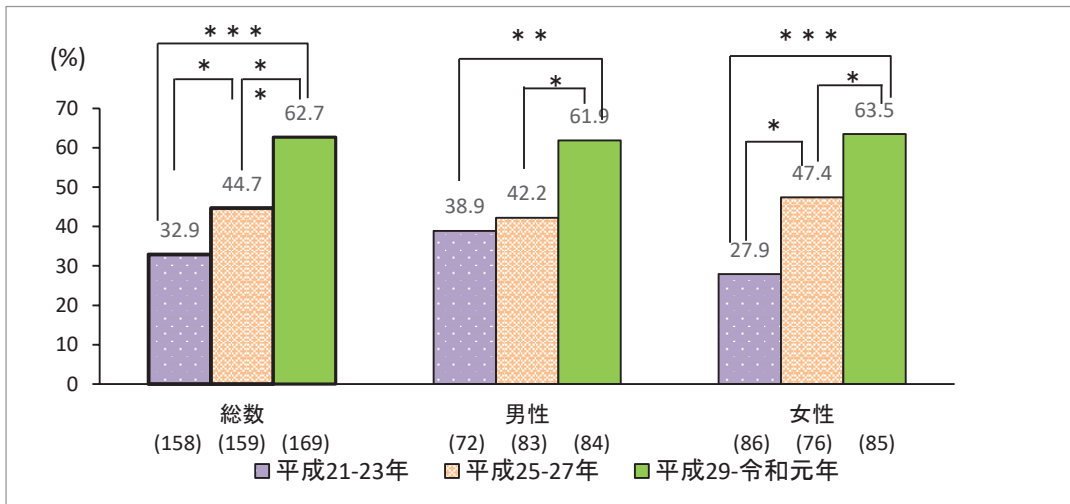


図66 80歳(75~84歳)で20本以上の自分の歯を有する者の状況

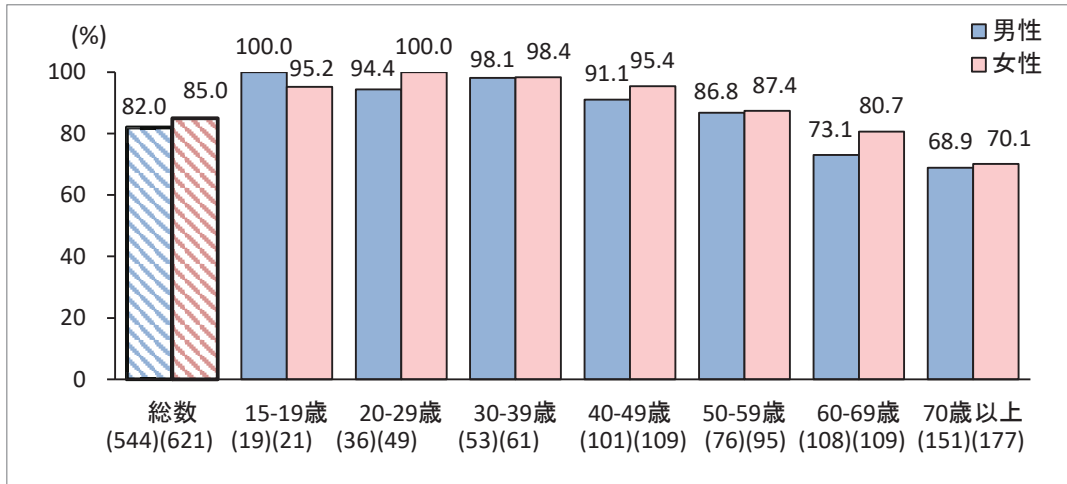


「かながわ健康プラン21(第2次)」の目標  
 45 80歳(75~84歳)で20本以上の自分の歯を有する者の割合の増加  
 目標値: 65%

## (2) 不自由なく食べられる状況

- ・不自由なく食べられる者の割合は、男性で82.0%、女性で85.0%であった。
- ・60歳代では、男性が73.1%、女性が80.7%であった。(図67)

図67 不自由なく食べられる者の割合(15歳以上、性・年齢階級別)(平成29～令和元年)



「かながわ健康プラン21(第2次)」の目標

44 60歳代における咀嚼(そしゃく)満足者の割合の増加  
目標値: 80%

※上記目標については、県民歯科保健実態調査により評価を実施。

### (3) 歯間清掃用具の使用状況

- ・歯間清掃用具を使用する者の割合は、歯間ブラシが34.7%、デンタルフロス・糸(付)ようじが29.8%あった。
- ・歯間ブラシは、年齢が上がるほど使用する割合が高くなるが、デンタルフロス・糸(付)ようじでは、最も使用する頻度が高い年代が40歳代であった。(図68、69)

図68 歯間清掃用具(歯間ブラシ)を使用する者の割合  
(15歳以上、年齢階級別)

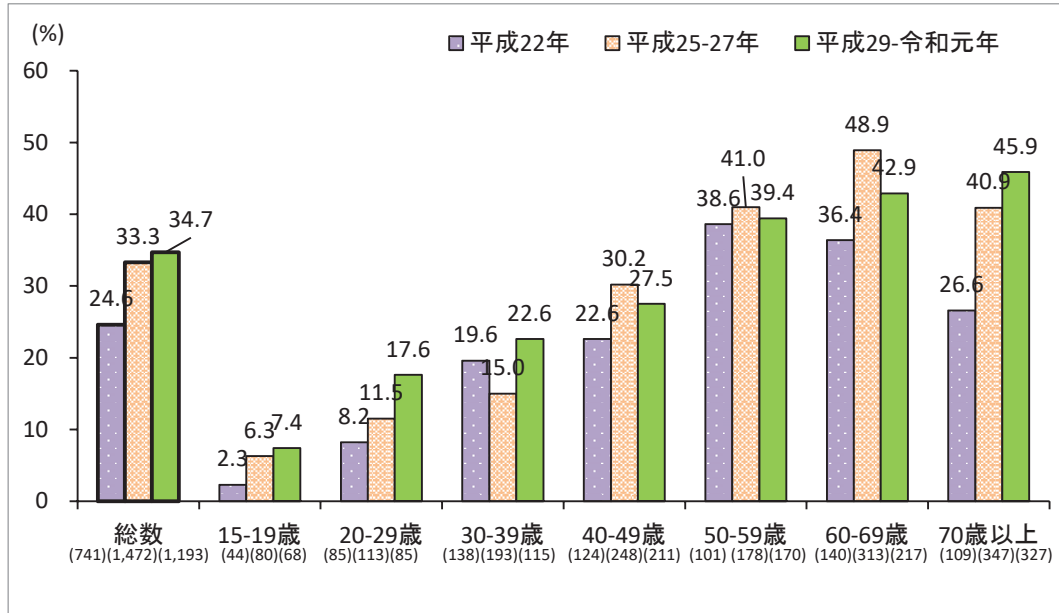
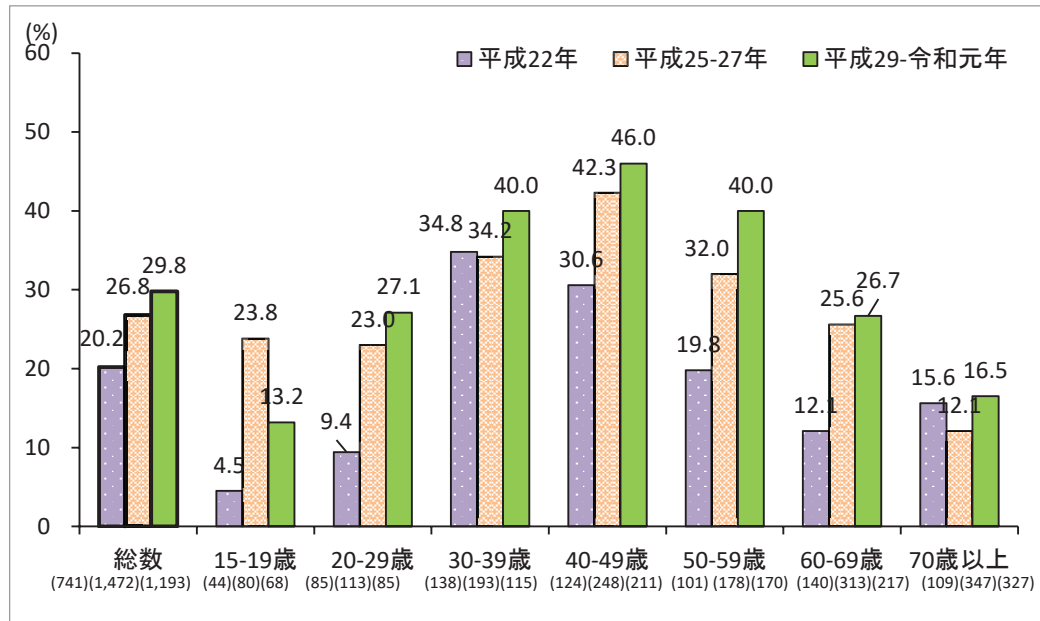


図69 歯間清掃用具(デンタルフロス等)を使用する者の割合 (15歳以上、年齢階級別)





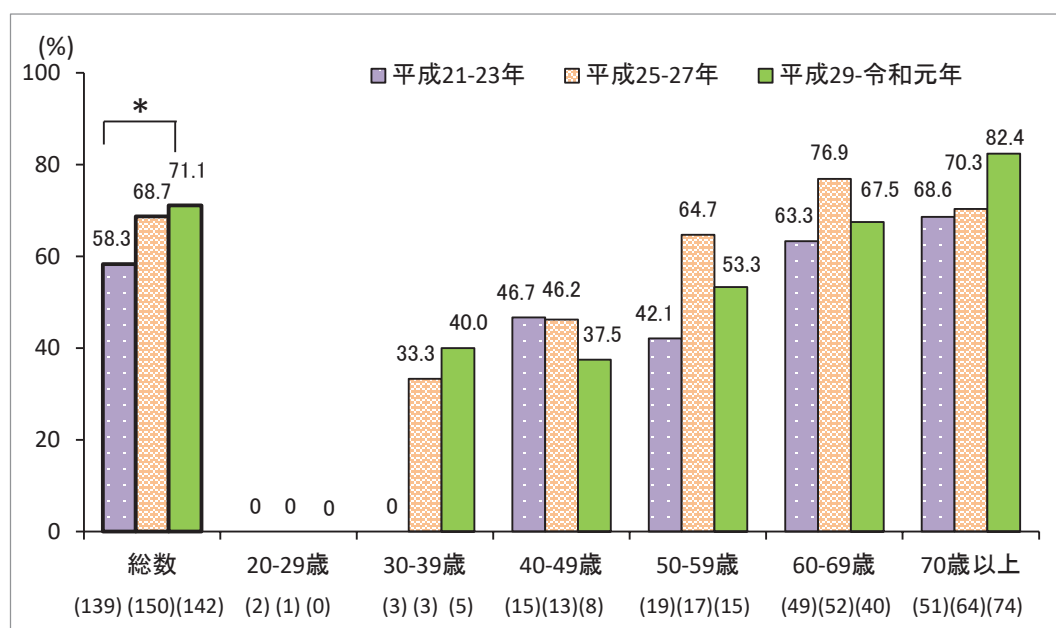
## 5 糖尿病等に関する状況

### (1) 糖尿病治療継続者の状況

- ・糖尿病治療継続者※の割合は総数で71.1%であった。
- ・年齢階級別では、最も糖尿病治療継続者の割合が高いのは70歳以上であった。(図70)

※「糖尿病治療継続者」とは、医療機関や健診で糖尿病といわれたことがある人(「境界型糖尿病のようだ」「糖尿病の気がする」「糖尿病になりかけている」「血糖値が高い」なども含む)のうち、「今まで継続的に受けている」、「過去に中断したことがあるが、現在は受けている」と回答した者

図70 糖尿病治療継続者の割合(20歳以上 年齢階級別)



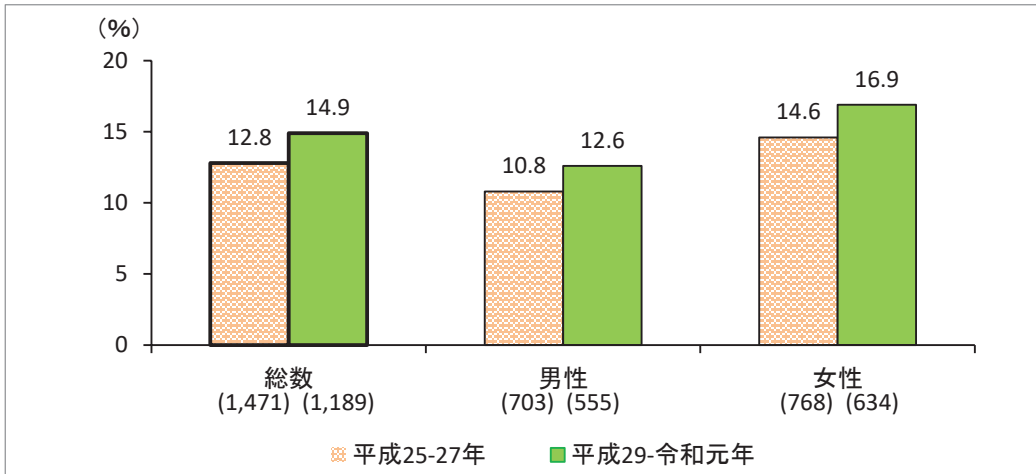
年齢調整した糖尿病治療継続者の割合(総数)は、平成21~23年で56.2%、平成25~27年で58.7%、平成29~令和元年で57.3%であった。(年齢調整後の有意差は無し)

「かながわ健康プラン21(第2次)」の目標  
 10 糖尿病治療者継続者の割合の増加(20歳以上)  
 目標値: 65%

## (2) 慢性閉塞性肺疾患（COPD）認知度

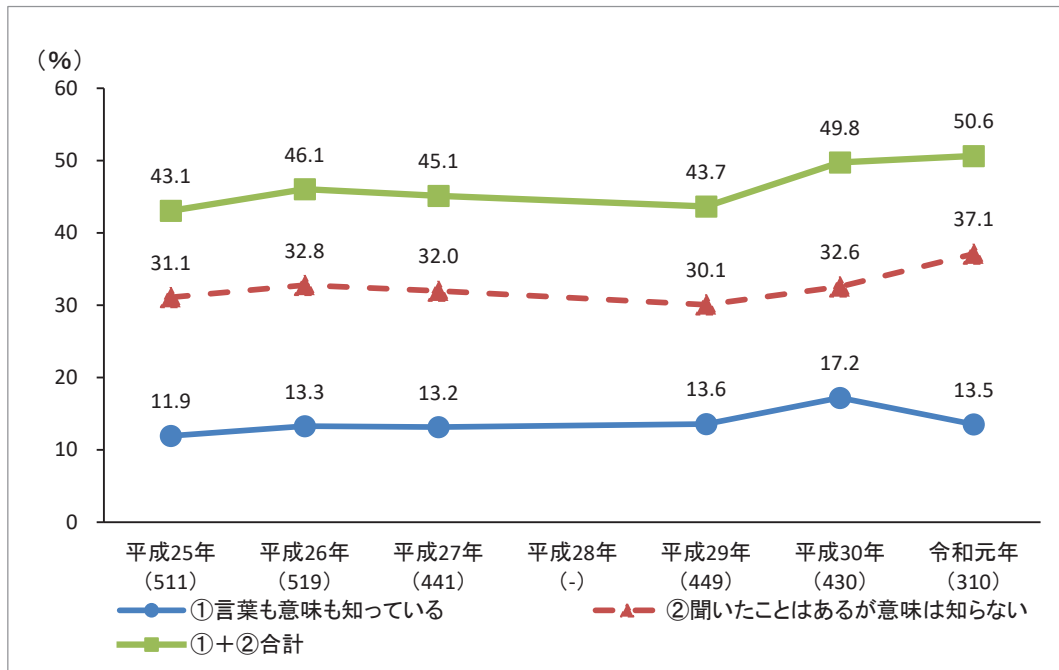
- ・慢性閉塞性肺疾患（COPD）の認知度（言葉も意味も知っている者）は、総数14.9%、男性12.6%、女性16.9%であった。（図71）
- ・平成25年から年次推移では、有意な増減はみられなかった。
- ・なお、「言葉も意味も知っている」と「聞いたことはある（意味は知らない）」の合計の年次推移を示した。（図72）

図71 慢性閉塞性肺疾患(COPD)認知度の状況(15歳以上 性別)



「かながわ健康プラン21(第2次)」の目標  
 12 慢性閉塞性肺疾患(COPD)認知度の向上  
 目標値: 80%

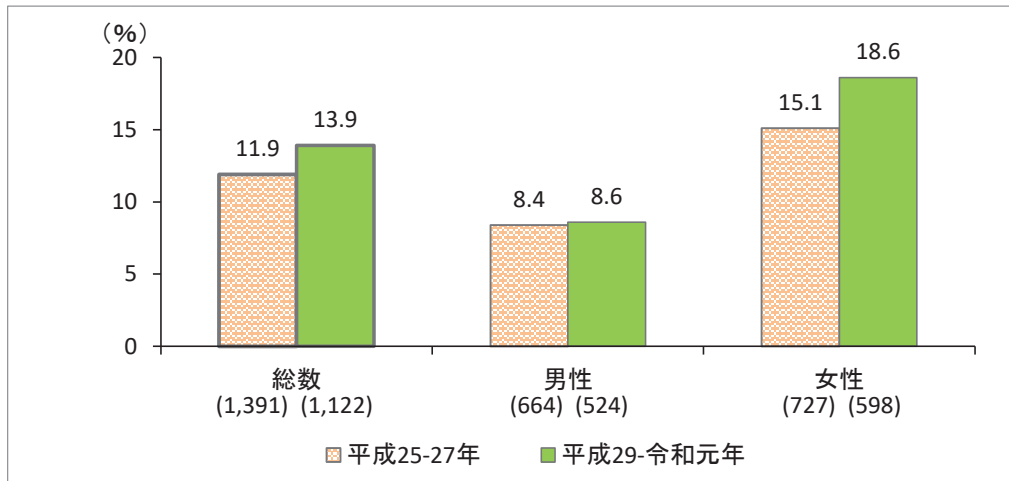
図72 慢性閉塞性肺疾患(COPD)認知状況 年次推移(15歳以上)



### (3) ロコモティブシンドローム認知度

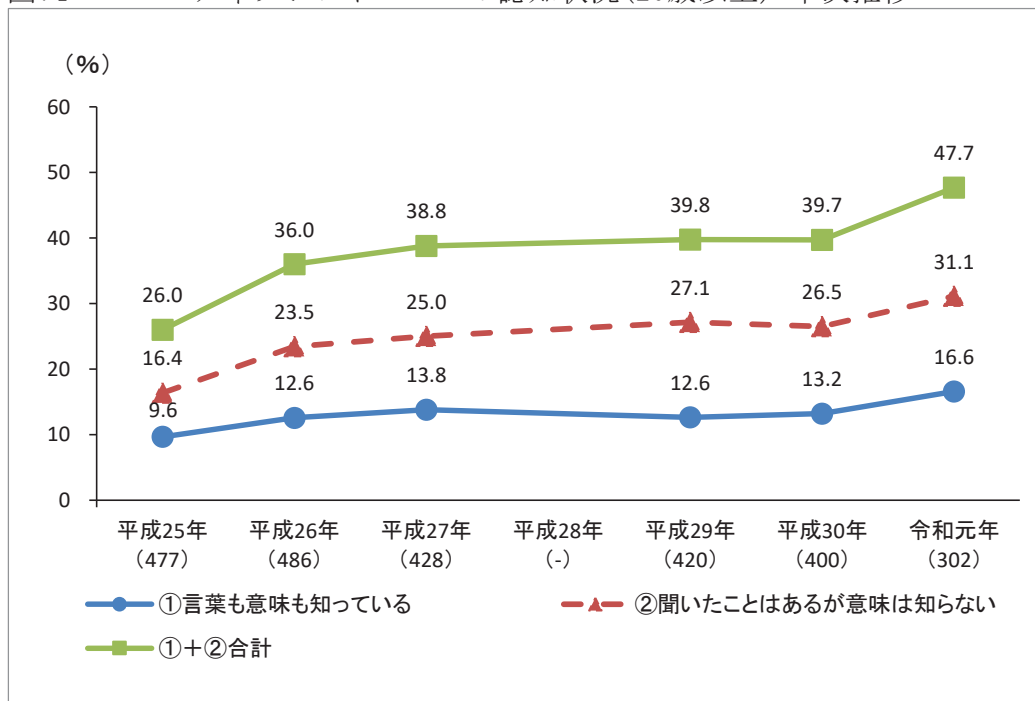
- ・ロコモティブシンドロームの認知度（言葉も意味も知っている者）は、総数13.9%、男性8.6%、女性18.6%であった。（図73）
- ・なお、「言葉も意味も知っている」と「聞いたことはある（意味は知らない）」の合計の年次推移を示した。（図74）

図73 ロコモティブシンドロームの認知度の状況(20歳以上)



「かながわ健康プラン21(第2次)」の目標  
 22 ロコモティブシンドローム認知度(20歳以上)の向上  
 目標値: 80%

図74 ロコモティブシンドロームの認知状況(20歳以上) 年次推移



#### (4) 健康寿命認知度

・健康寿命の認知度（言葉も意味も知っている者）の割合は52.8%で、男性46.6%、女性58.3%であった。（図75）  
 ・平成25年からの年次推移では、言葉も意味も知っている者は有意に増加していた。（図76）

図75 健康寿命認知度の状況(15歳以上)

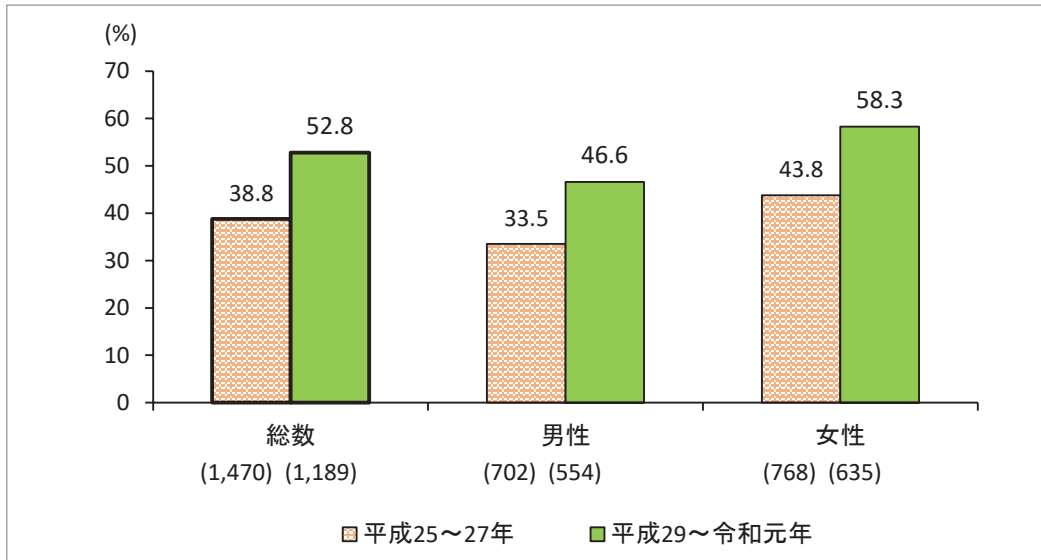


図76 健康寿命認知状況(15歳以上)年次推移

